

令和4年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール 実施報告書

令和5年3月

武蔵野市教育委員会



GOOD DESIGN AWARD
2015年度受賞

【表紙写真】 第五小学校セカンドスクール（新潟県南魚沼市）

も く じ

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯	2
武蔵野市長期宿泊体験活動実施要綱	7
セカンドスクール実施地・泊数の変遷	9
プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷	12
令和4年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表	14
各小中学校の日程及び主な活動内容	
<小学校セカンドスクール>	
第一小学校	16
第二小学校	21
第三小学校	26
第四小学校	31
第五小学校	36
大野田小学校	41
境南小学校	46
本宿小学校	51
千川小学校	56
井之頭小学校	61
関前南小学校	66
桜野小学校	71
<中学校セカンドスクール>	
第一中学校	78
第二中学校	82
第三中学校	86
第四中学校	90
第五中学校	94
第六中学校	98
<プレセカンドスクール>	
第一小学校	104
第二小学校	108
第三小学校	112
第四小学校	116
第五小学校	120
大野田小学校	124
境南小学校	128
本宿小学校	132
千川小学校	136
井之頭小学校	140
関前南小学校	144
桜野小学校	148

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯

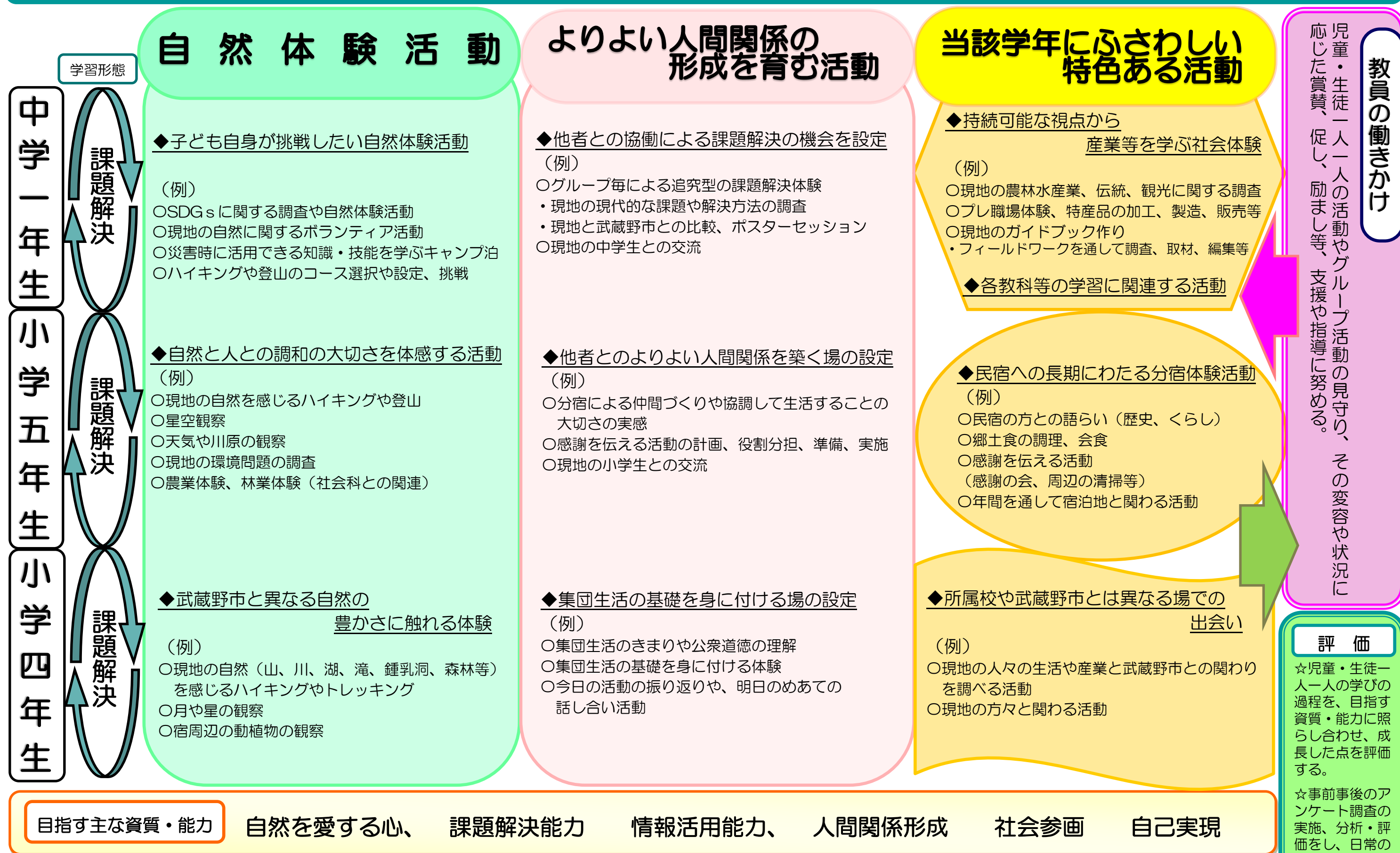
- 平成元年度
 - ・武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体となって進める特色ある学校づくり」(報告書)でセカンドスクールを提言。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想委員会発足。
- 平成2年度
 - ・セカンドスクール構想委員会「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本的な構想と予想される問題等についてまとめる。
- 平成3年度
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会発足。
- 平成4年度
 - ・「夏季山村生活体験学習」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、長野県八坂村にて夏季休業中に6泊7日で試行。小学校6年生と中学校1年生を対象に募集し、30名が参加して行われる。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会「武蔵野市・セカンドスクールの実施に向けて」(報告書)で具体的な活動内容・方法等についてまとめる。
- 平成5年度
 - ・対象学年・活動内容・宿泊日数等を検討するため、セカンドスクール構想による「山村生活体験教室」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、岩手県遠野市にて夏季休業中に12泊13日で試行。小学校4年生から中学校2年生を対象に募集し、100名が参加して行われる。
 - ・対象学年を小学校5年生、中学校1年生が適当であるとの結論を出す。
- 平成6年度
 - ・市内小中学校教員から構成される「セカンドスクール推進委員会」を設置し、教育課程に位置付ける要件等の検討を行うとともに、教材テキスト等を作成。
 - ・小学校5年生と中学校1年生の教育課程に位置付けるために必要な要件を検討するため、岩手県遠野市にて、前年度と同様に試行。
- 平成7年度
 - ・小学校全13校が学期中に岩手県遠野市、長野県高遠町、富山県利賀村、新潟県小国町、山梨県中富町・高根町の6か所で、3泊4日～7泊8日で実施。
 - ・中学校は全6校の1年生から希望者(70名)を募り、合同で夏季休業中に長野県豊科町において、6泊7日で実施。
- 平成8年度
 - ・小中学校全18校が学期中に実施。
 - ・「セカンドスクール教材開発委員会」を設置し、提言されている総合学習に趣旨が生かされるように教材開発を行い、「セカンドスクール教材・事例集」を作成。
- 平成9年度
 - ・「セカンドスクール教材・事例集」を参考に、各学校が年間指導計画の作成、学習内容の変更などの工夫を図り、実施場所の特性を生かした活動内容を模索した。
- 平成10年度
 - ・各学校が、平成14年度から創設される「総合的な学習の時間」を見据えた活動内容を模索し、創意工夫した実践を試みた。
- 平成14年度
 - ・「武蔵野市セカンドスクール充実検討委員会」を設置。さらなる充実・発展に向けて検討し、「報告書」にまとめる。

- 平成15年度
 - ・小学校4年生を対象としたプレセカンドスクール＊を4校にて試行。
＊プレセカンドスクール…セカンドスクールでの学習効果を更に高めることを目的とした、小学校4年生を対象として行う短期宿泊体験学習。
 - ・武蔵野市のセカンドスクールが、「第1回オーライ！ニッポン大賞」に選定される。
- 平成16年度
 - ・プレセカンドスクールを10校にて試行。
 - ・「セカンドスクール10周年記念フォーラム」を武蔵野公会堂にて開催。
- 平成17年度
 - ・プレセカンドスクールを小学校全12校にて実施。
 - ・「体験活動検討委員会」を設置。
- 平成19年度
 - ・教育を取り巻く国の動きや社会の変化に適応するための課題を整理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。
- 平成20年度
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第三小学校、第四小学校、本宿小学校、千川小学校、桜野小学校、第一中学校が対象となった。
 - ・学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程検討委員会において、セカンドスクール等の教育課程への位置付けに関する見直しを行った。
- 平成21年度
 - ・新型インフルエンザ流行により、小学校2校でセカンドスクール（桜野小学校）、プレセカンドスクール（境南小学校）の日程を変更し、実施日数、活動内容を変更して行った。
 - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、第二小学校、第五小学校、大野田小学校、境南小学校、本宿小学校、井之頭小学校が対象となった。
- 平成22年度
 - ・麻しんの影響で第三中学校が日程を変更した。
 - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、境南小学校、千川小学校が対象となった。
 - ・東京都の「小学校における自然体験活動プログラム開発支援事業」が実施され、委託校として、関前南小学校が対象となった。
 - ・セカンドスクールの効果検証のため、「セカンドスクールにおける体験活動の教育的な効果の調査」を実施した。
 - ・小学校の新学習指導要領への対応や、各校の体験活動の共有のため、「セカンドスクール実践報告会」を実施した。また、活動の実践事例集を作成した（～平成24年度）。
- 平成23年度
 - ・東日本大震災の影響により、セカンドスクールでは第五小学校、千川小学校、関前南小学校、桜野小学校、プレセカンドスクールでは第一小学校、第二小学校、大野田小学校、桜野小学校が実施地を変更した。第五小学校、関前南小学校、桜野小学校のセカンドスクールは、泊数も変更した。
 - ・強い余震の発生に備え、衛星携帯電話の貸与、飲料水ペットボトル・防災食品の配布等の対応をした。また、プレセカンドスクールでは、全期間バスの借上げを行った。
- 平成25年度
 - ・第8回むさしの教育フォーラムにて「セカンドスクールで学び合う子どもたち」をテーマに第五小学校、第一中学校が特色ある体験活動や実践事例を紹介。生きる力の育成について、取り組みを共有した。

- 平成26年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省、環境省および国会議員による視察が行われた（長野県飯山市）。
- 平成27年度
 - ・実施20年目を迎えたセカンドスクールの取り組みが、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2015年度グッドデザイン賞」を受賞。審査では「内容もこれまでの経験が集約されていて、子どもたちにとっては貴重な体験になっていると想像しています。」との評価をいただいた。
 - ・市立全小中学校で小・中学校合同セカンドスクール報告会を実施。
 - ・「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」を実施した。
 - ・セカンドスクールの取組を紹介するDVD、パンフレットを作成した。
 - ・「季刊むさしの」（2015冬号）、「市報1面」（平成27年12月15日号）、「きょういく武蔵野」1面（平成27年12月15日号）にセカンドスクール特集として掲載された。
 - ・全国教育長会（厚木市）で、教育長によるセカンドスクールの発表を行った。
- 平成28年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・「教育委員会月報」（平成28年7月号、文部科学省発行）に、特色ある取組としてセカンドスクールについて掲載された。
 - ・一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構による「長期宿泊体験に関する調査研究」（文部科学省委託事業）に協力した。
- 平成29年度
 - ・小中学校のセカンドスクールの連携と事例の共有を図るため「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
 - ・「初等教育資料」（2017年8月号、文部科学省発行）に、特色ある教育事業としてセカンドスクールについて掲載された。
 - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を中学校6校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められた。
- 平成30年度
 - ・「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
 - ・井之頭小学校がプレセカンドスクールの実施地を群馬県片品村から東京都奥多摩町へ変更した。
 - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を小学校6校、中学校6校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められた。
- 令和元年度
 - ・第三小学校が、セカンドスクールとプレセカンドスクールの実施地を入れ替え、セカンドスクールを新潟県南魚沼市、プレセカンドスクールを群馬県片品村で行った。
 - ・第四中学校が長野県飯山市から群馬県みなかみ町へ実施地を変更した。
 - ・新学習指導要領との調和、事業の持続可能性の検討等を行うため、「長期宿泊体験活動検討委員会」を設置した。
 - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局の「子供の農山漁村体験活動の充実・推進に向けた手引き」において、大野田小学校と第四中学校のセカンドスクールの事例が掲載された。
 - ・新潟県グリーン・ツーリズム推進協議会の「子ども農山漁村体験の果たす教育的意義」をテーマとした講演会において、セカンドスクールの意義について講演を行った。

- 令和 2 年度
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全校中止。
 - ・令和元年度に設置した「長期宿泊体験活動検討委員会」が、令和 2 年度末に終了した。
検討委員会での協議を踏まえ、新たな活動内容や育成を目指す資質・能力について、パブリックコメントを募集し、報告書にまとめた。(P. 6 参照)
- 令和 3 年度
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日程変更・宿泊数の短縮・活動内容の変更等をして実施した。なお、セカンドスクールでは、関前南小学校、プレセカンドスクールでは、第二小学校、第四小学校が中止した。
 - ・令和 2 年度に設定した、活動内容や育成を目指す資質・能力を明確にするため、実施要綱の改訂を行った。(令和 4 年 4 月 1 日施行)
- 令和 4 年度
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、3 年ぶりにセカンドスクール・プレセカンドスクール共に全校で実施することができた。
 - ・子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査を実施した。
 - ・セカンドスクール・プレセカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力について、「①知識・技能の習得に関すること②思考力・判断力・表現力等の育成に関すること③学びに向かう力・人間性等の涵養に関すること」から「①自然を愛する心②課題解決能力、情報活用能力③人間関係形成、社会参画、自己実現」に変更した。
 - ・プレセカンドスクールでは、第三小学校が新潟県南魚沼市、境南小学校が山梨県山中湖村に実施地を変更した。

今後の武蔵野市長期宿泊体験活動の内容の体系



【表の見方について】 この表は、長期宿泊体験活動検討委員会で協議されたこと、学習指導要領に示されていることなどを基に作成した各学年における長期宿泊体験活動中における体験活動の例示です。各学校で、体験活動の実施プログラムなどを組む場合の一つの参考例として示しました。なお、現地のガイドブック作り、郷土食の調理、宿の方との語らい等々、そのねらいや、内容・方法等がその学年段階に応じたものであれば、小学校でも中学校でも計画化できます。学校の実態や現地の特色を踏まえて、学年の枠は弾力的に考えてください。

武蔵野市長期宿泊体験活動実施要綱

（目的）

第1条 この要綱は、武蔵野市立の小学校及び中学校に在籍する児童及び生徒が自然に恵まれた農山漁村に長期間滞在し、授業の一部として、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）では体験し難い総合的な体験学習活動（以下「長期宿泊体験活動」という。）を実施し、自然を愛する心、課題解決能力、情報活用能力並びに人間関係形成、社会参画、自己実現に係る資質及び能力を育むことを目的とする。

（長期宿泊体験活動の区分）

第2条 長期宿泊体験活動の区分及び実施学年は、次のとおりとする。

- (1) プレセカンドスクール 小学校第4学年で実施するもの
- (2) 小学校セカンドスクール 小学校第5学年で実施するもの
- (3) 中学校セカンドスクール 中学校第1学年で実施するもの

（活動内容）

第3条 長期宿泊体験活動の活動内容は、小学校セカンドスクールを基準として、プレセカンドスクール及び中学校セカンドスクールの内容及び方法を、次に掲げる具体的な活動内容を参考に、系統性をもって、発展及び充実をさせるよう各学校が創意工夫して学習活動を計画し、実施するものとする。

- (1) 自然体験活動 主にプレセカンドスクールにあつては武蔵野市とは異なる自然の豊かさに触れる活動、小学校セカンドスクールにあつては自然と人との調和の大切さを体感する活動、中学校セカンドスクールにあつては生徒が挑戦したい自然体験活動を設定する。
- (2) よりよい人間関係の形成を育む活動 主にプレセカンドスクールにあつては集団生活の基礎を身に付ける活動、小学校セカンドスクールにあつては他者とのよりよい人間関係を築く活動、中学校セカンドスクールにあつては他者との協働による課題解決をする活動を設定する。
- (3) 当該学年にふさわしい特色ある活動 主にプレセカンドスクールにあつてはファーストスクール及び武蔵野市とは異なる場所での人々との出会いがある活動、小学校セカンドスクールにあつては長期にわたる民宿での分宿体験活動、中学校セカンドスクールにあつては持続可能な視点から産業等を学ぶ社会体験及び各教科等の学習に関連する活動を設定する。

2 授業時間の配当については、実施学年の各教科、特別活動、総合的な学習の時間及び特別の教科である道徳とする。

- 3 校長は、長期宿泊体験活動の教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により届け出なければならない。

（実施場所）

- 第4条 校長は、長期宿泊体験活動の実施場所について、児童及び生徒にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

（指導者等）

- 第5条 長期宿泊体験活動の引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員も普段の学校の教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。この場合において、引率及び指導にあたる教員は、実施期間中に交代することができるものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。

- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導補助、指導記録の整理等にあたるものとする。

- 4 生活指導員は、宿舎内外における児童及び生徒の健康、安全等の生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。

- 5 長期宿泊体験活動には、各学校につき看護師等1人を同行させるものとし、児童及び生徒の健康管理にあたるものとする。

（費用）

- 第6条 児童及び生徒の保護者は、児童及び生徒に係る食費の額を考慮して武蔵野市教育委員会教育長が別に定める費用を負担するものとする。

（その他）

- 第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、武蔵野市教育委員会教育長が別に定める。

付 則

（施行期日）

- 1 この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

（武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱等の廃止）

- 2 次に掲げる要綱は、廃止する。

(1) 武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（平成14年11月1日施行）

(2) 武蔵野市立小学校プレセカンドスクール実施要綱（平成17年4月1日適用）

セカンドスクール実施地・泊数の変遷①(～平成17年度)

	平成7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
第一小学校	山梨県高根町 (6泊7日)					長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)			
第二小学校	長野県高遠町 (6泊7日)			富山県利賀村				(7泊8日)		(平成16年11月1日) 南砺市へ新設合併	
第三小学校	岩手県遠野市 (6泊7日)		長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)			(8泊9日)			
第四小学校	長野県高遠町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)	長野県飯山市 戸狩				(7泊8日)			
第五小学校	岩手県遠野市 (7泊8日)		山形県酒田市 ・羽黒町						群馬県川場村		
大野田小学校	新潟県小国町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 戸狩					
境南小学校	長野県高遠町 (6泊7日)		長野県飯山市 戸狩					(7泊8日)			
本宿小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	(5泊6日)	長野県飯山市 信濃平 (6泊7日)					(7泊8日)			
千川小学校	山梨県中富町 (5泊6日)		(6泊7日)					千葉県銚子市 (7泊8日)			
井之頭小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	静岡県富士宮市 (5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)			
関前南小学校	山梨県中富町 (6泊7日)		山形県遊佐町	(7泊8日)	(8泊9日)			(9泊10日)			
桜野小学校 (※1)	富山県利賀村 (5泊6日)		(6泊7日)						山形県遊佐町 (7泊8日)		
第一中学校	長野県豊科町 (6泊7日)	東京都大島町 (3泊4日)	群馬県嬬恋村 (4泊5日)		山梨県 足和田村				長野県北安曇郡 白馬村		
第二中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県飯山市 斑尾高原	長野県飯山市 北竜湖 (4泊5日)	新潟県 松之山町					(平成17年4月1日) 十日町市へ 新設合併	
第三中学校		長野県高遠町 (3泊4日)	静岡県富士宮市	(4泊5日)	長野県高遠町	長野県大町市					
第四中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	静岡県富士市	静岡県 御殿場市 (4泊5日)		長野県飯田市					
第五中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	福島県猪苗代町	群馬県高山村 (4泊5日)				長野県豊科町		(平成17年10月1日) 安曇野市へ 新設合併	
第六中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県豊科町		(4泊5日)					(平成17年10月1日) 安曇野市へ 新設合併	

※1 平成8年4月に境北小と桜堤小が統合し、桜野小となる。平成7年度は両校合同実施。

セカンドスクール実施地・泊数の変遷②(平成18年度～)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
第一小学校		新潟県魚沼市		(6泊7日)						
第二小学校										
第三小学校	群馬県片品村		(7泊8日)			(6泊7日)				
第四小学校				(6泊7日)						
第五小学校					新潟県南魚沼市 (6泊7日)					
大野田小学校										
境南小学校				(6泊7日)						
本宿小学校						新潟県南魚沼市			(6泊7日)	
千川小学校	山形県鶴岡市			(6泊7日)	新潟県南魚沼市					
井之頭小学校		長野県飯山市 戸狩						(6泊7日)		
関前南小学校			(8泊9日)	(7泊8日)	長野県飯山市 戸狩 (6泊7日)					
桜野小学校			(5泊6日)	(7泊8日)	長野県飯山市 戸狩 (6泊7日)					
第一中学校										
第二中学校										
第三中学校									長野県北安曇郡 白馬村	
第四中学校										
第五中学校									長野県北安曇郡 白馬村	
第六中学校										

※2 令和3年度…新型コロナウイルス感染拡大により、中止または実施地・宿泊数を変更し実施。

28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度 ※2	4年度
				中止	(2泊3日)	(5泊6日)
				中止	(3泊4日)	(6泊7日)
			新潟県南魚沼市	中止	(2泊3日)	(5泊6日)
				中止	神奈川県 藤沢市・鎌倉市 (日帰り)	長野県飯山市 戸狩 (5泊6日)
				中止	千葉県野田市 (日帰り)	新潟県南魚沼市 (5泊6日)
				中止	(3泊4日)	(5泊6日)
				中止	山梨県山中湖村 (2泊3日)	長野県飯山市 戸狩 (5泊6日)
				中止	(2泊3日)	(5泊6日)
				中止	(2泊3日)	(5泊6日)
				中止	(3泊4日)	(5泊6日)
				中止	中止	(5泊6日)
				中止	(2泊3日)	(5泊6日)
				中止	東京都青梅市 (日帰り)	長野県北安曇野 白馬村 (4泊5日)
			新潟県十日町市 松之山	中止	東京都八王子市 (日帰り)	新潟県十日町市 (4泊5日)
				中止	学校に招いて交流	長野県北安曇野 白馬村 (4泊5日)
			群馬県利根郡 みなかみ町	中止	(日帰り)	(4泊5日)
				中止	オンライン交流	長野県北安曇野 白馬村 (4泊5日)
				中止	(3泊4日)	(4泊5日)

プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷

	平成15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
第一小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	〔平成17年11月1日 甲州市へ新設合併〕					千葉県 館山市	東京都 檜原村	
第二小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	千葉県 館山市						山梨県 富士河口湖町	
第三小学校	静岡県 富士宮市 (2泊3日)		群馬県 片品村	山梨県富士 河口湖町				新潟県 南魚沼市		
第四小学校	群馬県 片品村 (2泊3日)									
第五小学校		群馬県 川場村 (2泊3日)							山梨県 山中湖村	
大野田小学校		千葉県 館山市 (2泊3日)							山梨県 北杜市	
境南小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)					山梨県 富士河口湖町 (1泊2日)	(2泊3日)		
本宿小学校	長野県飯山市 信濃平 (2泊3日)						新潟県 南魚沼市			
千川小学校			千葉県 小見川町 (2泊3日)	〔平成18年3月27日 香取市へ新設合併〕	東京都檜原村					
井之頭小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)	群馬県 片品村							
関前南小学校	東京都 檜原村 (2泊3日)									
桜野小学校			千葉県 館山市 (2泊3日)						山梨県 富士河口湖町	山梨県 山中湖村

※1 令和3年度・・・新型コロナウイルス感染拡大により、中止または実施地・宿泊数を変更し実施。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 ※1	令和4年度
山梨県 富士河口湖町						中止		(1泊2日)	(2泊3日)
						中止		中止	(2泊3日)
					群馬県利根郡 片品村	中止		(1泊2日)	新潟県 南魚沼市 (2泊3日)
						中止		中止	
						中止		(1泊2日)	(2泊3日)
	山梨県 山中湖村					中止		(2泊3日)	
						中止		(1泊2日)	山梨県 山中湖村 (2泊3日)
		山梨県 山中湖村			山梨県 富士河口湖町	中止		(1泊2日)	(2泊3日)
	山梨県 富士河口湖町					中止		(日帰り)	(2泊3日)
				東京都 奥多摩町		中止		(日帰り)	(2泊3日)
						中止		静岡県 島田市 (2泊3日)	
						中止		(日帰り)	(2泊3日)

令和4年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表

種別	学校名	実施日		実施場所	現地宿舎
小学校セカンドスクール	第一小学校	9月22日(木) ～ 9月27日(火)	5泊6日	新潟県魚沼市	民宿
	第二小学校	9月18日(日) ～ 9月24日(土)	6泊7日	富山県南砺市利賀村	民宿
	第三小学校	9月21日(水) ～ 9月26日(月)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿
	第四小学校	5月26日(木) ～ 5月31日(火)	5泊6日	長野県飯山市	民宿
	第五小学校	9月9日(金) ～ 9月14日(水)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿
	大野田小学校	9月14日(水) ～ 9月19日(月)	5泊6日	長野県飯山市	民宿
	境南小学校	9月15日(木) ～ 9月20日(火)	5泊6日	長野県飯山市	民宿
	本宿小学校	9月22日(木) ～ 9月27日(火)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿
	千川小学校	9月16日(金) ～ 9月21日(水)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿
	井之頭小学校	9月22日(木) ～ 9月27日(火)	5泊6日	長野県飯山市	民宿
	関前南小学校	9月28日(水) ～ 10月3日(月)	5泊6日	長野県飯山市	民宿
	桜野小学校	9月17日(土) ～ 9月22日(木)	5泊6日	長野県飯山市	民宿
中学校セカンドスクール	第一中学校	9月20日(火) ～ 9月24日(土)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊、标1泊
	第二中学校	5月24日(火) ～ 5月28日(土)	4泊5日	新潟県十日町市松之山	ホテル
	第三中学校	9月26日(月) ～ 9月30日(金)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿2泊、标2泊
	第四中学校	9月27日(火) ～ 10月1日(土)	4泊5日	群馬県みなかみ町	キャンプ1泊、 民宿2泊、标1泊
	第五中学校	9月12日(月) ～ 9月16日(金)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊、标1泊
	第六中学校	9月9日(金) ～ 9月13日(火)	4泊5日	長野県安曇野市	ホテル2泊 公営宿泊施設2泊
小学校プレセカンドスクール	第一小学校	9月14日(水) ～ 9月16日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	第二小学校	10月4日(火) ～ 10月6日(木)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	第三小学校	6月1日(水) ～ 6月3日(金)	2泊3日	新潟県南魚沼市	民宿
	第四小学校	9月7日(水) ～ 9月9日(金)	2泊3日	群馬県利根郡片品村	民宿
	第五小学校	9月21日(水) ～ 9月23日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	大野田小学校	6月15日(水) ～ 6月17日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	境南小学校	9月28日(水) ～ 9月30日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	本宿小学校	10月5日(水) ～ 10月7日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	千川小学校	10月3日(月) ～ 10月5日(水)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	井之頭小学校	10月5日(水) ～ 10月7日(金)	2泊3日	東京都西多摩郡奥多摩町	民宿
	関前南小学校	9月14日(水) ～ 9月16日(金)	2泊3日	静岡県島田市	公営宿泊施設
	桜野小学校	9月8日(木) ～ 9月10日(土)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル

小学校セカンドスクール



第一小学校

新潟県魚沼市

9月22日～9月27日(5泊6日)

参加人数 男子53名 女子32名
計 85名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然の中での体験を通し、自然と人間との共生や環境保全の必要性について考え、持続可能な社会に向けて具体策を考えようとする態度を育てる。
- ・自然や地域の特性について、児童の興味・関心から課題を見付け、課題を追求する学習を通し、探究的な学習のよさを理解することができる力を養う。
- ・友達との語らいの時間やくらしに関わる体験活動を通し、気候や土地の特色を生かした人々のくらしに興味をもち、自身の生活に生かせることはないか、考える力を育む。

○日程表

9月22日(木)		9月23日(金)		9月24日(土)		9月25日(日)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床 朝食	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発	9:30	林業体験 炭出し等	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	守門着・昼食(弁当)	12:00	昼食	9:00	宿別農業体験 わら細工	9:00	課題別学習
13:30	開校式	14:00	目黒邸見学	12:30	昼食	12:00	昼食
15:00	守門地区散策	16:45	班長会議	13:30	農業施設見学		課題別学習
17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴	16:45	班長会議	15:45	班長会議
18:00	夕食	18:00	夕食	17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴
19:00	宿の方との交流会	19:00	手紙書き	18:00	夕食	18:00	夕食
20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間	19:00	天体観測	20:00	語らいの時間
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備	21:00	就寝準備	21:00	就寝準備
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝
9月26日(月)		9月27日(火)					
6:30	起床	6:30	起床				
7:30	朝食	7:30	朝食				
9:00	農業体験 稲刈り	8:00	荷物整理・大掃除				
12:00	昼食	9:00	セカンドスクールまとめの会				
13:30	宿別農業体験 収穫	10:30	閉校式				
17:00	健康観察・入浴	11:00	守門発				
18:00	夕食	11:30	昼食				
19:00	感謝の会	12:30	魚沼発				
20:00	語らいの時間	15:30	学校到着				
21:00	就寝準備		帰校式				
21:30	消灯・就寝	16:00	解散				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科の学習で、日本の農業の米作りについて学習した。
- ・苗をバケツに植え、米作りの過程や米作りの難しさなどを体験的に学んだ。また総合的な学習の時間では、「学ぼう、日本の米」というテーマを設定し、米に関して興味・関心のある内容を調べ、スライドにまとめ発表した。
- ・夏休み後に、資料やインターネットを活用して情報収集し、魚沼市と武蔵野市の違いについて学習した。また、課題別グループで資料を基に調べ、現地で質問したり、見て確かめたりしたことについての意見交換を行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールの6日間の体験内容、セカンドスクールを通しての学びや成長について、総合的な学習の時間にて4年生に向けて発表する機会を設定した。また、課題別学習については、魚沼市と武蔵野市との比較を通して、今後武蔵野市に貢献できそうなことを出し合ったり、魚沼市に提案できることを考えたりして、それらを発表する機会を設定した。
- ・国語科の学習で、6日間を通して自分が一番努力したことや成長したことを考え、文章にまとめた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 須原地区の見学・散策

これからの学習や生活の場所となる須原地区を知るため、1日目に須原地区散策を設定した。須原地区と武蔵野市の風景を比較しながら散策をし、この地域で生活する人々の様子や暮らしの工夫に目を向けることができた。

また、課題別学習のグループ活動では、現地ガイドの説明を受けながら、スキー場から魚沼市全体を見た。米作りに適した地形や気候などについて説明をしていただき、「米作りに適した地形」について標高の高い場所から確認することができた。



【スキー場で魚沼の地形について説明を受けている様子】

2 星空観察

須原スキー場の駐車場に午後7時に集合し、引率教員による秋の星空についての説明を聞きながら実際に観察する体験学習を設定した。天候に左右されやすい活動なので、2日目に設定し、以降4日目まで順延可能な内容考えた。

当日は短時間で夜空の様子が変化したため、説明を聞きながらの星空観察は難しかったが、各宿に戻ってから星空観察を行うことができた。

＜社会体験活動＞

1 農業体験

農業に関する活動では、稲刈りや脱穀の体験、倉庫の見学、藁細工づくりを行った。

魚沼農耕舎の方の指導により、稲を刈る作業とはざかけの作業を体験した。鎌の使い方、稲の束ね方などの説明を受けた後、田んぼに移動し、実際に鎌を用いて稲刈りを行った。田んぼでの作業は足場が不安定であり、刈ることに集中しづらい状況であったが、教わった内容を思い出しながら、友達と協力し、急がず丁寧に稲を刈ることができた。

脱穀は、足踏み式の脱穀機を用いて行った。脱穀機を回すスピードを足でコントロールすることが難しかったが、各宿の方に補助してもらいながら、上手に作業することができた。昔の人の知恵について学びを深め、機械を活用する効率のよさを実感できた。

倉庫の見学では、運ばれてきた稲が玄米になる工程を見学し、低温の中で保存されている米の袋に関して説明を聞いた。見学を通して、米づくりに従事する人々の苦労や工夫を知ることができた。

藁細工体験では、農家の方々は藁を活用して生活に役立つ物を作っていたことを知った。宿の方に藁の編み方を教わりながら鍋敷きを製作し、自然と人間との共生について考えを深めることができた。



【農業体験 稲刈りの様子】



【低温倉庫の見学の様子】

2 林業体験

福山森林体験の森で、炭焼き窯から炭をかき出す作業、丸太を斧や機械を使用して割り、薪にする作業を体験した。炭焼き窯での作業では高温の中で仕事をする大変さを実感できた。また薪割り体験では、道具の正しい扱い方や炭焼きを行う行程を学んだ。

3 課題別学習

魚沼市を知る学習として、「魚沼の観光」「魚沼の産業」「雪国の暮らし1」「雪国の暮らし2」「魚沼の暮らし3」の5グループに分かれて学習した。

「魚沼の観光」では、JR只見線乗車と西福寺開山堂の見学を行った。只見線の歴史に関する講話を聞き、昔から人々の暮らしにとって鉄道は欠かせないものであったことや近年の乗車数減少により廃線の危機にあることなどを知り、須原地区にとって只見線は大切な財産であると感じていた様子だった。

「雪国の暮らし」では、十日町市の博物館などの施設見学を中心に行った。雪国で暮らす人々の苦労から、より快適に生活するための工夫が展示されており、地域や気候の特性に合わせた道具や施設がつくられているということを学習することができた。また、川や水の整備・水田の開拓などにより、米づくりがさかんに行われるようになったことを学んだ。



【雪国の暮らし 施設見学の様子】

＜生活・文化体験活動＞

1 宿舎での集団生活

家庭を離れ、普段はあまりやらない洗濯や布団の上げ下げなどを行った。生活指導員や民宿の方の指導のもと、事前に分担した係ごとに責任をもって活動し、互いに協力しながら生活する様子が見られた。また、仲間と協力して過ごすことで、普段気付かなかった友達のよいところや、協力して生活していく事の大切さに気付き、友情を深めることができた。



【語らいの時間】

「語らいの時間」には、1日を振り返って学んだことを話し合った。毎日行われた「班長会議」でも振り返りとともに改善点を話し合い、各宿に伝えてどう改善するかを考えた。それを基に、各班でめあてを決め、各自がめあてを意識して生活することができた。

2 宿別農業体験

各宿の畑でさつまいもや野菜類の収穫体験をするとともに、近くを散策して植物についての話を聞いた。食材を自分の手で収穫し、食べることを体験することで、食材を作り育てる人たちの工夫や苦労、また食べ物のありがたさを改めて実感する機会となった。

○児童の感想

- ・私が一番心に残っている体験は、炭焼き体験です。この体験で、職人さんの大変さや炭焼きの難しさを学びました。今でも窯の前に立ったときの熱さを思い出します。
- ・セカンドスクールでは、周りの風景・自然をよく見て自然と触れあってきました。新たに学んだことは、稲刈りの大変さです。簡単そうだと思っていたけれど、全然できなくて大変だったし、稲を結ぶときも稲が揺れて正確に結ぶことが困難でした。自然を大切にするということは地球を大切にするということなので、とても大切なことだと思いました。
- ・天体観測の説明があった後、宿で観測をする時間がありました。はじめは目が慣れなくて少ししか星が見えませんでした。だんだんたくさん見えるようになりました。先生の説明で、

どれがどの星か、すぐに分かりました。魚沼市で見る星の数は、武蔵野市と全然ちがっていた。数えられないほどの星々がきれいに見えました。

- ・宿の最後の日に「ありがとうの会」を行いました。その時は「お世話になりました、ありがとうございました」という気持ちでいっぱいでした。だから帰るとき、悲しくなっていました。ありがとうという感謝の気持ちと、さびしいという気持ちが入り混じっていましたが、感謝の気持ちを精一杯伝えることができました。このセカンドスクールを通してありがとうという感謝の気持ちを伝えることがとても大切だということを学んだので、これからの生活に生かしたいと思いました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・課題別学習に関しては、セカンドスクール後、現地で学んだ自然や地域の特性から興味・関心をもった事柄について追究した。4年生や保護者に伝える活動を通して、魚沼市と武蔵野市の違いに気付いたり、武蔵野市の生活に繋げて考えたりすることができた。
- ・国語科では、セカンドスクールでの学びや体験について、活動報告書を書いた。目的や意図に応じて詳しく書いたり、表現の効果等について工夫しながら書いたりすることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・課題別学習では、児童が課題意識をもつ内容と見学先が一致するよう、毎年場所の選定について検討を続けている。昨年度までは4つのグループであったが今年度から見学場所を新たに増やしたため、児童にとって学習がしやすい体制をとることができた。体験学習を中心とした活動内容を多く取り入れたいという考えから、魚沼市の地域の方や小学校との連絡を取っていく必要がある。
- ・子どもたちの「生きる力」を測るアンケートでは、体験的活動を多く取り入れたことや、6日間という長期の宿泊学習を通し、自己管理をしながら意欲的に活動に参加するなどの「心理的・社会的能力」が向上した。また、友達と協力し合って生活することで、「道徳的能力」も向上し、全体的に生きる力が付いていると言える。
- ・児童数が年々増加傾向にある一方で、魚沼市の各民宿受け入れ児童人数に差がある。今後も魚沼市を実施地としてセカンドスクールを続けていけるよう、現在の宿泊先が受け入れ可能な人数を把握したり、魚沼市内で新たな宿泊先を検討したりしていくなど、対応していく必要がある。

第二小学校

富山県南砺市利賀村

9月18日～9月24日(6泊7日)

参加人数 男子40名 女子38名
計78名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・利賀村の人々と心の交流をし、豊かな自然体験活動をするを通して、自然や利賀村の暮らしを理解し、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・利賀村の自然や人々の生活などに自ら課題をもち、事前に調べ学習を行い、体験活動を通して主体的に追究することによって課題解決能力を育てる。
- ・日本の国土や森林の様子を知り、森林のはたらきとともに環境と人とのかかわりについて様々な考え方を身に付ける。
- ・多様な経験や新たな出会いを通して、新たな自分を見つめ成長する。
- ・他地域との交流を改めて自分の学校や街、関わる人を見つめ直すことで、社会の一員であるよさを実感する。

○日程表

9月18日(日)		9月19日(月)		9月20日(火)		9月21日(水)	
7:30	集合(武蔵境駅)	6:30	起床、健康観察	6:30	起床、健康観察	6:30	起床、健康観察
7:35	出発式	7:00	清掃、朝食準備	7:00	清掃、朝食準備	7:00	清掃、朝食準備
8:03	武蔵境駅発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:32	東京駅発	8:30	地域探検	8:30	民宿発	8:30	民宿発
11:30	昼食(車内・弁当)	9:30	民宿発	10:00	相倉合掌造りの村	9:30	国際キャンプ場着
12:15	新高岡駅着	10:00	そば打ち体験		見学	10:00	岩魚つかみ
12:40	新高岡駅発	12:30	昼食	12:30	昼食	12:00	昼食
14:40	開校式	13:30	稲刈り体験	13:30	森の仕事を知ろう	13:00	利賀芸術公園着
15:30	開室式	17:00	入浴	17:00	入浴		体験・見学
	自己紹介	18:00	夕食	18:00	夕食	15:30	課題別活動
	箸作り	19:00	手紙を書こう	19:30	利賀の話を聞こう	17:00	入浴
17:00	入浴	20:30	学習のまとめ	20:30	学習のまとめ	18:00	夕食
18:00	夕食	21:00	就寝	21:00	就寝	19:30	利賀の話を聞こう
20:30	学習のまとめ					20:30	学習のまとめ
21:30	就寝					21:00	就寝

9月22日（木）		9月23日（金）		9月24日（土）	
6:30	起床、健康観察	6:30	起床、健康観察	6:30	起床、健康観察
7:00	清掃、朝食準備	7:00	清掃、朝食準備	6:50	清掃・荷物整理
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	民宿発	8:30	民宿発	8:40	民宿発
9:00	利賀小交流会	10:00	林業体験・木工作品	9:35	閉校式
9:15	自己紹介・レク		作り・縄ない体験	12:30	新高岡駅発
	学校案内・民舞・歌	12:00	昼食		昼食（弁当・車内）
12:40	給食（弁当）	13:00	課題別活動	14:52	東京駅着
15:30	課題別活動	16:00	ありがとうの会準備	15:52	武蔵境駅着
17:00	民宿着	17:00	入浴	16:05	解散式
18:00	課題別活動	18:00	お別れ夕食会	16:25	解散
19:00	入浴夕食	19:30	ありがとうの会		
20:30	お別れの会準備	20:30	学習のまとめ		
21:00	学習のまとめ・就寝	21:15	荷物整理 就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の年間を通した単元「利賀の森は地球を守る」
 - ①「武蔵野の森を育てる会」の方を招いて、実際に樹木や森林の話をしていただいた。また、独歩の森の木との比較を行うために、独歩の森の木について課題を設定し、調べた。
 - ②「わたしたちの生活と環境」の森林の学習を事前に行い、社会科の学習と関連付けた。
 - ③利賀村について、簡単に自然や特産物、伝統、歴史、暮らしなどを調べたり、武蔵野市との違いを考えたりした。

2 事後の学習内容

- ・社会科の単元「森林とわたしたちの暮らし」の学習の続きを直後に行った。
 - ①人工林や天然林のはたらきなどを調べ、その役割について改めて考える。
 - ②林業の仕事をしている人の工夫について分かったことをまとめる。
 - ③土砂崩れを防いだり、雨水を蓄えたりする森林の役割や、私たちの生活との関わりについてまとめる。
- ・セカンドスクールで学んだこと、感じたことをまとめ、4年生に発表した。発表する内容ごとにグループに分かれ、学習者用コンピュータに活動内容をまとめ、発表内容を話し合い、工夫して伝えるように指導した。
- ・利賀村の方々の村に対する思いを理解した上で、武蔵野にいる私たちが郷土のために何ができるかを考えた。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 岩魚つかみ体験

悪天候のため、室内で行った。岩魚を手でつかみ、そのまま調理台で捌いた。その後炭火焼きをして食べた。魚を生でつかむことも、包丁で捌くことも初体験の児童ばかりであった。また捌いた直後に食べたことも、児童に「命をいただく」ことを実感させることに繋がった。



【岩魚を捌いている様子】

2 自然散策

2日目午前中に各宿で自然散策活動を行った。自然豊かな利賀村の中で、東京には見たり感じたりできない活動であった。栗やきのこを拾ったり、200段ほどある神社の階段を上ったり、川の水に触れたりと、宿ごとの立地により、内容が分かれる活動であった。



【自然散策の様子】

＜社会体験活動＞

1 利賀小学校との交流会

5日目の午前中に利賀小学校との交流会を行った。学校案内、直線100m走を行った後、講師を招いて「麦屋節」と呼ばれる民舞の練習・発表会を行った。その後、第二小学校から第二小学校や武蔵野市をよく知ってもらうためのクイズを行った。麦屋節を教えてもらっているときには、利賀村の伝統的な踊りを覚えようと真剣に取り組む姿が見られた。また、クイズ作りを行っているときには、利賀村と武蔵野市との相違点を鑑みながら、自分たちの郷土や学校について調べ、知ってもらいたいことなどを問題にしていた。



【利賀小学校での様子①】



【利賀小学校での様子②】

2 稲刈り体験

2日目の午後に稲刈り体験を行った。普段食べているお米が、どのようにして収穫され、一粒のお米になるのかを体験した。宿ごとに講師が1人以上つき、しっかりと一人一人に鎌の使い方を教えていただいた。そのため、児童も短時間で鎌の使い方が身に付き、黙々と作業する様子が見られた。



【稲刈り体験の様子】

＜生活・文化体験活動＞

1 民宿での体験活動

1 週間の生活の中で、食事の準備や片付け、掃除、荷物の整理整頓など身の回りのことに一人一人が積極的に取り組むことができるようになった。同時に、友達と協力することの難しさを知り、自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の気持ちを考えて接したりすることの大切さを、身をもって感じる事ができた。

さらに、民宿の方との温かいふれあいを通して、民宿の方への感謝の気持ちはもとより、普段お世話になっている人たちに対しても、自分がどのような場面でお世話になっているかということを考えることができた。民宿別活動では、野菜の収穫や選別体験、伝統料理づくりなど、各民宿の特色ある仕事や利賀の伝統的な活動を体験した。



【民宿別活動の様子①】



【民宿別活動の様子②】

○児童の感想

- ・稲刈りは、社会科の授業で習った、干したり、切ったり、結んだりする作業を実際にやってみて、すごく大変でした。今度から作った人に感謝したいと思います。
- ・世界遺産の相倉合掌造り集落では、みんなで相倉のクイズのヒントをパンフレットで探したり、友達と考えたりしたので、班で協力し合えたと思います。
- ・完璧じゃないけれど利賀村のことを来たときよりも知れて、ここで過ごす毎日がすごく楽しくなりました。(※3日目の感想)
- ・利賀に行ったことで僕は、「東京での暮らし」が普通ではなく、生活に必要な衣食住や日用品は、沢山の人が多くの時間をかけて苦労して作っているということを知ることができた。
- ・たくさんの出来事の中で麦屋節が特に心に残っています。なぜなら、利賀小のみなさんと、利賀村の伝統的な踊りを一緒に踊れたからです。また、講師の先生が「皆さん上手ですね。」と優しく言ってくれたのが嬉しかったからです。なので私も、いつかまた利賀小の人と交流したとき、武蔵野の伝統的なものを優しく教えてあげたいと思いました。なぜなら学校案内のときも6年生の女の子が優しく教えてくれたからです。
- ・岩魚つかみの体験で命の大切さと自分たちが何気なく食べている生き物（豚、牛、鳥、魚など）にもっと感謝をして食べなければいけない。そして、生きていた生き物から自分で調理した体験を忘れてはいけない。この2つの大事なことを改めて感じた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・今年度も総合的な学習の時間「利賀の森は地球を守る」として実施した。セカンドスクー

ルでは、ハイキングや散策、林業体験において、学校で学習したことを実際に見たり体験したりした。民宿の方にも利賀村の森林や自然についての話を伺うことで、より学習への理解を深めることができた。民宿活動や課題別活動を通して、利賀村ならではの文化や暮らしのよさについて体験しながら感じることもできた。

- ・セカンドスクール後は、児童一人一人が、民宿での活動や様々な活動を通して学んできたことを学習者用コンピュータにまとめたほか、武蔵野市民科との関連も考え、「武蔵野市の人に利賀村のよさを伝えよう」というテーマで総合的な学習の時間の学習を進めることができた。
- ・利賀村の方々と心を通じたふれあいや、第二小学校の子に利賀の魅力を伝える姿を見ることを通して、自分たちも武蔵野の魅力を探したり、発信したりしようという意識をもった。それを生かし、3学期の総合的な学習の時間で、「武蔵野のよさを再発見し、発信する」を目標に単元を組み立てた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・過去7泊8日で行っていたものから6泊7日に変更し、初めて全行程を実施するセカンドスクールとなった。利賀芸術公園の見学を入れたこともあり、児童にとってはやや慌ただしい6泊7日となった。
- ・利賀村の受け入れ体制の関係で、児童が最多で12人泊まる宿から最少で5人泊まる宿に分かれた（5人なら可能という宿にお願いしないと79名が宿泊できないため）。そのため児童のグループ構成の配慮をしたものの、生活指導員の負担に差が出た。今後は児童数増加が見込まれるため、このような問題が続くと予想される。また、初めて児童を受け入れる宿に対して、学校や市の方針・思いがしっかりと伝わっていなかったため、やや混乱があった。次年度以降は実地踏査で宿との連絡を密にしておく。加えて、引継ぎの際に誰がいつまでに何を利賀村と連絡するのかも明確にしておく。
- ・宿間の距離が離れているため、レンタカーを2台使用しても宿回りにそれぞれ2時間弱かかり、負担であった。今後も2台は維持し、宿の数が11を超える場合は3台の予算を確保する必要がある。それに伴い宿回りでしおりをチェックする時間がなかった。しかし今年度から学習者用コンピュータを用いて児童が振り返りを行った。その結果、教員が時間のあるときに確認ができたので、来年度以降も児童の学習者用コンピュータを使用した振り返りを継続したい。
- ・子どもたちの「生きる力」を測る事前調査で、課題であった自立を踏まえ、「自分のことは自分でできるようになること」を目標に民宿での生活や活動を行った。初めは民宿の中で整理整頓が苦手だった児童が、周りの児童の助けを借りながら徐々に自分の身の回りのことができるようになっていき、児童の変容を感じた。
- ・利賀村という自然豊かな場所で、利賀の方との温かいふれあいや親から離れ自立を意識すること、宿ごとの集団での協調性を感じることを通して、児童は様々なことを感じていた。

第三小学校

新潟県南魚沼市

9月21日～9月26日(5泊6日)

参加人数 男子43名 女子29名
計72名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・長期の宿泊による生活時間を利用し、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・自然の中で豊かな体験活動を通して、南魚沼市の自然や暮らしの工夫に関する理解を深めようとする態度を育む。
- ・南魚沼市の自然や地域の特性について自ら課題をもち、主体的に課題を追究する力を育てる。
- ・南魚沼市の歴史や文化に触れ、引き継がれてきた地域の良さや人々の努力に気づき、進んで表現しようとする力を育てる。
- ・地域の人々との交流を通して、人間関係を深めるとともに、それらの人々や保護者に対する感謝の気持ちを育てる。
- ・自主的な集団生活を通して、児童同士の理解や協力し合う態度を育てる。

○日程表

9月21日(水)		9月22日(木)		9月23日(金)		9月24日(土)	
8:00	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:15	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:00	朝食
11:45	開校式	8:30	朝会	8:30	朝会	9:00	朝会
12:30	昼食	10:00	長岡花火館見学	9:30	牧師通り見学	9:30	ストリングアート作り体験
13:30	稲刈り体験	12:00	昼食	10:30	塩沢紬機織り体験	12:15	昼食
16:30	夕方の会	13:00	新潟県立博物館見学	12:30	昼食	14:30	米のもみすり見学
17:00	入浴	14:00	勾玉作り体験	14:00	笹団子作り体験	15:30	感謝の会の準備
17:30	夕食の準備	16:45	夕方の会	15:30	洗濯	16:30	夕方の会
18:00	夕食	17:00	入浴	16:30	夕方の会	17:00	入浴
19:00	学習の記録	17:30	夕食準備	17:00	入浴	17:30	夕食準備
19:30	星空観察	18:00	夕食	17:30	夕食準備	18:00	夕食
20:30	健康観察	19:00	学習の記録	18:00	夕食	19:00	学習の記録
21:30	消灯	20:30	健康観察	19:00	学習の記録	20:30	健康観察
		21:30	消灯	20:30	健康観察	21:30	消灯
				21:30	消灯		

9月25日（日）		9月26日（月）	
6:30	起床	6:00	起床
7:30	朝食	7:00	朝食
8:30	食材準備	9:00	朝会
9:30	朝会	10:00	勤労奉仕体験
10:00	火起こし体験	11:00	昼食
11:00	豚汁作り	11:45	閉校式
12:00	昼食	15:45	学校到着
14:15	座禅体験	16:00	帰校式
16:30	夕方の会	16:15	解散
17:00	入浴		
17:30	夕食準備		
18:00	夕食		
19:00	感謝の会		
20:00	学習の記録		
20:30	健康観察		
21:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、セカンドスクールに参加する目的をスライドを見ながら確認した。事前学習で調べることや、事後学習ではセカンドスクールで学んだことについて伝える学習をすることを知り、見通しをもって、学習に取り組んだ。
- ・実際に行く場所や、体験活動について、学習者用コンピュータを活用して調べた。
- ・班長、副班長、生活係、学習係、レクレーション係の役割を分担したことで、責任感をもち積極的に活動できた。
- ・社会科では、「国土の地形の特色」「米づくりのさかんな地域」の学習で、寒い地域の建物・道路の工夫や米の作り方について、セカンドスクールと関連付けながら学習を行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールを終えて、自分自身や学年として成長したことをしおりに書いた。それらを共有し、学んだことへの価値付けを丁寧に行った。
- ・学習と生活の振り返りを行い、学習では、実際に行ってみて分かったことや感想をスライドにまとめた。生活では、今後の学校生活に生かしていけることを具体的に確認し合った。
- ・保護者に向けて「セカンドスクールを伝える会」を開いた。テーマごとにグループに分かれて、実演やスライドを使いながら、発表した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 星空観察

東京では見ることのできない満天の星を見ながら、今見える星座、これから見られるものなど、現地の方から説明を受けた。うっすらと見える天の川に「初めて見た。」「すごい。」と感動し、豊かな自然に触れることができた。

<社会体験活動>

1 稲刈り体験

現地の方からの指導で、稲刈りの手順や鎌の扱い方を聞いてから稲刈りを行った。4人組の稲刈り班を作り、「刈る、束ねる、結ぶ、運ぶ」という作業を分担して行った。ひもで結ぶ作業が難しく、近くの友達と協力し合って作業を行った。きつく結ぶことで、はざかけをしたときに稲が落ちないことを知り、農家の方の苦労や工夫を知ることができた。

後日、乾燥機から取り出し、もみ殻を取り除く様子を見学した。自分たちが食べている白米になるには、多くの手順があることを知り、農業の大変さと美味しくお米を食べられる有り難さを実感できた。



【稲刈り体験の様子】

2 火起こし体験

河原では、マッチと新聞紙と薪を使って火起こしをした。薪の組み方を教わり、試行錯誤しながら取り組んだ。どの班も火を起こすことができ、豚汁作りに取りかかった。作っている間も、火から目を離さず、炎の大きさを調整することができた。出来上がった豚汁と新米のおにぎりを食べた。「もっと食べたい。」「おいしい。」と何度もおかわりし、各宿の豚汁の鍋は空になった。火起こし体験を通して小さな火が大きくなり、ものを燃やしたり、温めたりすることができることを実感していた。

3 座禅体験

龍澤寺の座禅体験では、住職から座禅の基本や組み方、「調身」「調息」「調心」「腰骨を立てる」ことが大切だということを教わった。静寂の中で、合計 20 分間、精神を落ち着かせる体験をした。姿勢が整うと、心が整ったと感じていた。また、住職の話から座禅の文化や歴史について学ぶことができた。



【座禅体験の様子】

<生活・文化体験活動>

1 長岡花火館見学

長岡花火館見学では、1階の展示場にて、花火ゲームなどを楽しみながら、長岡花火の魅力を知ったり、原寸大の花火玉や花火筒の展示を見たりした。2階にある花火シアターでは、打ち上げられる花火を座席の振動からも体感したり、日本三大花火大会である長岡花火の歴史などを学習したりした。花火館の見学を通して、伝統的な文化を引き継いでいる地域の人々の努力を知ることができた。



【見学の様子】

2 新潟県立歴史博物館見学

縄文時代の暮らしや文化について、本物の土器や、再現した展示物を見ながら、学芸員より説明を受けた。縄文時代の歴史や文化の特徴を知り、先人たちの知恵や努力を理解した。

その後、高田の雁木通りを再現した展示を見て、雪国の暮らしの工夫について学習した。見学を通して、歴史や文化の特徴を知り、先人たちの知恵や努力を理解した。

また、勾玉づくり体験をした。実際に石を削る体験を通して、昔の人の苦勞を感じることもできた。

3 牧之通り散策

クラスごとに4つのグループに分かれ、雪国の暮らしや工夫について地元のガイドの方の話を聞きながら、牧之通りを散策した。昔使われていた道具を見たり、雪国ならではの生活の知恵を聞いたりし、土地の特徴について理解を深めることができた。

4 塩沢紬機織り体験

塩沢の織物は、糸作りから機織りまで人の手で作られることを、実物や実演を見ながら学んだ。8班に分かれて、手織り機を使用し、塩沢織に使う絹糸を用いて本物の機織り体験をした。伝統工芸や機織りの歴史、苦勞を理解することができた。

5 笹団子作り体験

地域の方に笹団子の作り方を教わった。あんの量や包み方などをよく見て、集中して取り組んだ。「なぜ笹で包むとよいのか。」について教わり、昔の人の知恵を知ることができた。できたての笹団子を食べ、「柔らかい。」「おいしい。」などの声があがった。自分で作った笹団子をおいしく食べることができ、教えてくださった地域の方に、感謝の気持ちをもつことができた。

○児童の感想

- ・早く寝たり、テレビを見なかったりすることで、規則正しい生活をする事ができ、自然を楽しめたと思う。
- ・稲刈り体験は、実際にやってみると非常に大変だということが分かった。

- ・長岡花火館では、長岡の花火が美しいだけでなく、追悼の意味があることを知ることができた。
- ・新潟県立歴史博物館では、縄文時代の人々の生活を知り、昔の人の知恵に驚いた。
- ・勤労奉仕体験では、思いを込めて丁寧に掃除することで、宿のお父さん、お母さんに、感謝の気持ちを伝えることができた。
- ・5泊6日という長い期間、親と離れて過ごすことで、一人でできることが増えた。
- ・セカンドスクールで変わったと思うことは、2つある。1つ目は、だれとでも仲良くすることだ。2つ目は、協力できるようになったことだ。
- ・3日目くらいから、自分たちで時計を見て行動することができるようになった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

ファーストスクールでは、「時間を守る」「ルールを守る」「自分のことは自分でする」など基本的な生活態度について児童同士で、声を掛け合って、自主的に動こうとする力が高まった。

また、お互いに気持ちよく過ごすために、どうすればよいのかについて考え、自分と他者の関係性について考える機会となった。うまくいかないときは、気持ちを伝え合うことが大切であることを知り、思いやりのある言動が増えている。

学習においては、自分で調べたいことを事前に決め、実際に見学したり、体験したりする活動を通して、インターネットの情報だけでは感じることはできないこともあると知った。そのことによって、実際に取り組んでみたり、現地に行き、自分の目で見たりすることへの意欲や態度が高まった。今後の学習でも、可能な限り体験させたり、生の声に耳を傾けたりしながら、自分で課題解決をできるようにしていく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・宿が近く、教員が見回りをしやすかった。緊急の場合もすぐに駆けつけることができたのがよかった。
- ・稲刈り体験、火起こし体験、豚汁作り体験など、様々な体験活動に宿の方が積極的に関わってくださったおかげで、交流を深めることができた。
- ・様々な体験活動ができたことは有意義であった。トレッキングは雨天中止だったが、4日目に設定していたことは、児童の体力を考えると厳しく感じた。次年度は、前半に設定するようにする。
- ・子どもたちの「生きる力」を測るアンケートでは、事前から事後にかけて8ポイント向上した。多くの体験活動をしたり、他者と過ごす中で、衝突しながらも、前向きによりよい人間関係を築こうとしたりすることで、児童の生きる力が向上したと考える。

第四小学校

長野県飯山市

5月26日～5月31日(5泊6日)

参加人数 男子35名 女子34名
計69名

○セカンドスクールで育成をめざす資質・能力

- ・飯山市での生活や体験を通して知的好奇心や探求心を喚起し、山地に暮らす人々の生活の工夫について学ぶ。
- ・社会科等の学習に生かし、その地域のよさや課題を考える力を身に付ける。
- ・自己やグループの課題を解決するために、現地の方々の話や体験活動を通して、情報を分かりやすく整理し、表現する力を養う。
- ・豊かな情操や感性をはぐくむ。
- ・豊かな人間関係を育てるとともに、自主性や協調性を育てる。

○日程表

5月26日(木)		5月27日(金)		5月28日(土)		5月29日(日)	
8:15	学校集合 出発式	6:00	起床 検温	6:00	起床 検温	6:00	起床 検温
8:30	出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	昼食 松代PA	9:00	雪国の暮らし学習	8:30	宿出発 バス	8:30	宿出発 バス
13:00	戸狩到着		各宿		カントリーエレベーター(車窓から)	9:00	ブナ林散策
	開校式	11:30	昼食		市内巡り(散策)	11:30	昼食
	トピアホール	13:00	米作りの学習	9:00	寺町、飯山シャンテ	13:30	課題別学習
	各宿に移動		田植え		正受庵、飯山城址	16:00	感謝の会計画・準備
14:30	箸作り 各宿	16:00	入浴		昼食	18:00	夕食
16:00	里山散策 各宿	18:00	夕食	12:30	ありがとう・ようこそ	19:00	入浴
18:00	夕食	19:00	暗闇体験 各宿	14:00	その会	20:00	振り返りの時間
19:00	入浴	20:00	振り返りの時間		飯山すてきスケッチ	21:30	消灯
20:00	振り返りの時間	21:30	消灯 就寝		手紙書き		
21:30	消灯 就寝			16:00	夕食		
				18:00	入浴		
				19:00	振り返りの時間		
				20:00	就寝		
				21:30			

5月30日（月）		5月31日（火）	
6:00	起床 検温	6:00	起床 検温
7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	郷土食準備		大掃除
10:00	郷土食作り	9:30	閉校式
	笹寿司、天井焼き		トピアホール
11:30	昼食	10:00	戸狩発
13:30	感謝の勤労体験	12:00	昼食 横川S A
	各宿でお手伝い	15:00	学校着 帰校式
15:00	入浴		解散
17:30	夕食		
18:30	感謝の会		
20:00	振り返りの時間		
21:30	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・飯山について、本や学習者用コンピュータを活用して情報を収集してスライドにまとめた。まとめたスライドを学級で共有し、各自で追究したい課題を設定した。現地での課題別学習で確かめたり質問したりして、さらに調べることができるように準備した。
- ・学年全体でオリエンテーションを行い、スケジュールや持ち物について確認をした。学年のめあて、バスや宿での約束事や目標を話し合い、決定した。
- ・班長や各係を決めて、打ち合わせを行った。児童全員が見通しをもって主体的に取り組むことができるように、各係で仕事内容や目標を話し合って決め、全体で発表した。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだことを振り返り、作文にまとめた。
- ・作文を発表し合い、学んだことを整理した。話し合いでは、お世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えるためのスライドを作成することを決め、内容を分担して取り組んだ。音声を入力して動画として送付できるようにした。
- ・各宿のお父さんお母さんや生活指導員に、寄せ書きと学級で作成したスライドの動画をQRコードにして送付し、感謝の気持ちを伝えた。保護者会でも上映し、学習の報告をした。
- ・セカンドスクールでの思い出を五・七・五に表し、学校便り「だいし」に掲載した。
- ・1学期に飯山のよさを学ぶことで、武蔵野市と比較し地域に着目することができた。2学期は、飯山市と武蔵野市の違いやそれぞれのよさを知り、比較することを通して、地域への愛着、地域にすすんで関わろうとする市民性を高める。自由に武蔵野市のよさを見付け、発表し合い、学級で深めたいテーマを絞る。武蔵野市民科と関連させ、地域の方や施設と関わりながら、自分たちが地域のためにできることを模索し、実践する。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 里山散策

宿のお父さん、生活指導員と共に里山を散策した。虫やカエル、音が鳴る草、美味しい草、里山にいる動物の話など、様々な話を聞きながら東京とは異なる豊かな自然を感じることができた。



【里山散策】

2 暗闇体験

里山の夜は暗く、静けさの中で聞こえるカエルの大合唱や川の水の音に、東京と飯山の違いを感じていた。無数の星や流れ星の美しさに感動したり、星の話を聞いて興味をもったりすることができた。セカンドスクール後も、継続して星座を調べる児童もいた。



【暗闇体験】

3 ブナ林散策

ブナ林を散策する前にブナについて話を伺った。ブナの木は、根元に水を集める構造になっていること、水を多く含み曲がりやすいため建築には適していないこと、一方でブナがある山は水に恵まれていて、里山の生活を支えていることなどを学習した。5月下旬になっても雪が残っている美しい原生林を散策し、自然の素晴らしさを実感することができた。



【ブナ林散策】

＜社会体験活動＞

1 田植え

米作りの話を伺った後、田植えを行った。最初は田んぼに入るのを躊躇する児童もいたが、裸足で入ると、水の冷たさや土がぬるっとして温かいことに気持ちよさを感じ、夢中になる姿が見られた。実際に田植えを行い、難しさや大変さを知るとともに、今は機械化されているとはいえ、米作りの苦労を実感し、米を残さず食べたいと感謝の気持ちをもつことができた。



【田植え】

2 課題別学習

課題別学習は、各自で選んだ歴史、伝統工芸、自然、農業、観光の5チームに分かれた。自分が興味のある課題を選んで事前に学習し、現地で質問して確かめたり、新たな発見をしたりするなど、意欲的に学習することができた。農業チームは、アスパラガスやトマトの美味しくなる作り方や食べた後の効果、農業をするときのこつなど、丁寧にたくさんのことを教わり、農業の魅力を感じることができたと振り返っていた。別の宿のお父さんと触れ合う機会



【課題別学習】

にもなり、新たな関わりを楽しむ姿が見られた。

3 宿ごとと勤労体験

宿ごとに勤労体験を行った。雑草抜きを手伝ったり、落ち葉や落木を集めてたき火をしたり、作物の支柱を、ハンマーを使って立てたりした。宿のお父さんやお母さんに感謝の気持ちを表そうと、意欲的に取り組む姿が見られた。東京ではできない貴重な体験で、みんなと協力してできたことがうれしかったと振り返っていた。



【勤労体験】

<生活・文化体験活動>

1 箸作り

箸作りは、各宿で行った。児童は、お父さんの話をよく聞いて小刀の扱いに注意しながら、一人一人オリジナルの箸を丁寧に作ることができた。何度もやすりをかけて、食べやすい箸に仕上げようとする姿が見られた。セカンドスクール期間中、自分で作った箸を使って食事をして、愛着をもつことができた。



【箸作り】

2 市内巡り

飯山城址、寺町、飯山シャンテ、正受庵などを宿ごとに巡り、飯山の特色を学んだ。寺町の雁木通りでは、積雪下においても通行できるように各店が軒先を歩道として提供し、協力して生活していることなど、実際に歩きながら一つ一つ話を伺った。飯山の地形や気候に合わせた生活の工夫や歴史を学ぶことができた。



【市内巡り】

3 郷土食作り

郷土料理である「笹ずし」と「天井焼き」を宿のお母さんに教わりながら作り、昼食でおいしく頂いた。「笹ずし」は川中島の戦いの時に上杉謙信に献上したのが始まりで、抗菌作用がある笹の葉を使って日持ちするようにしたり、食べやすい大きさや形にしたり、もち米で腹持ちをよくしたり、様々な工夫があることを学んだ。こぼさず食べるための葉の根元から食べる食べ方も教わり、食事を楽しみながらたくさんおかわりをする姿が見られた。



【郷土食作り】



○児童の感想

・セカンドスクールで「時間を守る」ということを学びました。生活指導員さんは「時間だよ」

ということと言わなかったので、「自分で行動する」大切さが求められました。これからはセカンドスクールで学んだ「5分前行動」を生かしていこうと思いました。

- ・飯山で食べたご飯はとても美味しかったです。嫌いな食べ物も食べることができました。田植え体験をしたときに、米作りの手順や大変さを知ったので、食べ物を大切にしていきたいと思います。
- ・大そうじでは、来たときよりも部屋をきれいにしました。一人が始めると、みんなと一緒にそうじを始めるのがいいと思いました。大掃除が終わると、宿のお父さんお母さんに感謝の気持ちを伝えようと、折り紙や花を飾る班もありました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

学年で話し合って決めた、めあて「①自分で考えて行動(けじめ) ②人と話す、関わる力(あいさつ・仲良く) ③地域の特色を学ぶ(よく聞く・よく見る)」は、セカンドスクールで意識をして行動し、実践できた達成感をもつ児童が多かった。

5泊6日の共同生活の中で、具体的には、「①5分前行動、整理整頓をして気持ちのよい生活を送ること。」「②あいさつはもちろん、分からないことは聞いたり、友達と協力して解決したりすること。毎日の振り返りの時間で各自の振り返りを共有し、明日のめあてを決め、主体的に学習できたこと。」「③飯山での学習や体験を通して、飯山の自然や歴史、暮らす人々の工夫を知ることができたこと。」などが成果として児童から挙げた。児童は飯山のことを知ること、自分たちの住む武蔵野市についても知りたいと意欲を高めることができた。2学期、3学期の総合的な学習の時間で市民性を高めるための学習として取り組んでいく。

セカンドスクールでの成果は、ファーストスクールや家庭生活でも持続すると意欲を高めている。日常生活の中で定着してこそその成果である。学級活動で適宜振り返りをして、自分たちの今を見つめながら、運動会や学芸会など大きな行事でもその成果を生かし、さらに成長を実感できるよう、支援していく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・子どもたちの「生きる力」を測る事業評価では、全てにおいてポイントが大きく向上していた。これらは、飯山の自然や歴史、雪国の暮らしなどの学習、田植えやブナ林散策、暗闇体験、郷土食作りなどの体験学習、感謝の会の企画など、学校での事前学習を生かして、現地で学び実践することができたからだと考える。体験や人との関わりの中で、武蔵野とは違う飯山のよさを個々が体感するだけでなく、親元を離れて仲間と協力して生活する経験もできたことが、どの項目においても大きな成長を実感することにつながったといえる。次年度も引き続き、事前、現地、事後の学習が児童の主体的な学びとなるように、計画的に進める。
- ・ブナ林散策では、雪が残っていたため茶屋池周遊ができなかったが、实地踏査の際に、現地担当者と打ち合わせができていたことで、雪が積もっていた時の対応もすることができた。次年度も事前の打ち合わせを密に行い、臨機応変に対応できるようにしていく。

第五小学校

新潟県南魚沼市

9月9日～9月14日(5泊6日)

参加人数 男子29名 女子39名
計68名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・南魚沼の自然環境や文化・産業等についての事前学習、現地での様々な体験活動や事後の学習を通して、我が国の豊かな自然を愛し、環境保全に努めようとする態度を養う。
- ・自分の立てた課題について、調べたり体験したりして得た情報を、分かりやすく整理し、まとめ、表現する力を身に付ける。
- ・現地での諸課題について、友達と協働してよりよく解決する力を身に付ける。
- ・友達や現地の方と親密に関わる活動を通して、他者とよりよい人間関係を築くとともに、よりよく自己実現を図ろうとする態度を養う。

○日程表

9月9日(金)		9月10日(土)		9月11日(日)		9月12日(月)	
8:10	学校集合・出発式	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
8:20	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
11:30	レイホー八海着	9:30	農業体験	9:00	六万騎山登山	9:30	水生生物観察
12:00	昼食(弁当)		(稲刈り・はざがけ)	11:30	昼食(弁当)	11:30	ぬか釜体験
13:00	八海山ロープウェイ	12:00	昼食	13:30	各民宿着	12:00	昼食
14:30	開校式	14:00	J Aみなみ魚沼見学	14:00	ちまき作り	14:00	思い出の場所を
15:30	マイ箸作り	16:15	各民宿着	16:15	健康観察・入浴		スケッチ
16:45	健康観察・入浴	16:15	健康観察・入浴	18:00	夕食	16:15	健康観察・入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	19:00	語らいの時間	18:00	夕食
19:00	語らいの時間	19:00	語らいの時間	21:30	就寝	19:00	語らいの時間
21:30	就寝	21:30	就寝			21:30	就寝
9月13日(火)		9月14日(水)					
6:45	起床	6:45	起床				
7:30	朝食	7:30	朝食				
9:30	ブナ林観察	9:30	思い出の会				
12:00	昼食	12:00	昼食				
13:00	感謝の会の準備	13:00	閉校式				
15:30	六日町の食事づくり	13:30	六日町発				
18:00	感謝の会	16:30	学校着・閉校式				
19:00	健康観察・入浴	16:45	解散				
21:30	就寝						

セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科で、米づくりがさかんな地域の生活の様子や米づくりについて学習した。現地から提供された資料を用いて、南魚沼市の人々がよりよい米づくりを目指して努力してきた歴史などを学習した。
- ・総合的な学習の時間では、各々の興味・関心に基づいてテーマを設定し、学校図書館の書籍やインターネットを用いて調べ学習を行った。その成果を、学習者用コンピュータを活用してスライドにまとめ、発表会を行った。
- ・お世話になる民宿の方へ、自己紹介カードを作成して事前に送付した。
- ・班長、企画係、食事係、保健係、整理係の各係で、仕事内容の確認をして準備を行った。
- ・指導員との交流会ではゲームや質疑応答などを行い、信頼関係を深めた。

2 事後の学習内容

- ・事前に行った調べ学習を基に、実際に現地に行ってみて気付いたことや学んだことをまとめ、発表会を行った。
- ・六日町交流会では、お世話になった宿の方に感謝の気持ちを伝えた。4年生に向けて、セカンドスクールで学んだことや体験したことを紹介し、4年生のセカンドスクールへの意欲を高めた。

〇特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八海山頂上散策

八海山ロープウェイに乗車し、八海山頂上を散策した。ロープウェイ乗車中には南魚沼の町並みを見ることができた。児童からは「社会の教科書で見た、米づくりがさかんな地域の様子と同じだ。」などといった、事前に学習してきたことと比較している感想が聞かれた。頂上では残念ながら天候に恵まれず、辺りは雲に覆われていたが、雲の隙間から見える景色に児童は感動していた様子であった。設置された説明書きや写真を見ながら、南魚沼の町の様子を確認することができた。



【八海山頂上散策の様子】

2 六万騎山登山

現地ガイドの方の引率のもと、六万騎山登山に挑戦した。登山道としては難易度が低い行程ではあるが、児童はたくさん汗をかきながら、声を掛け合い協力して頂上を目指していた。当日は天候に恵まれ、頂上からは南魚沼の町の様子を一望することができた。「六万騎山」の名前の由来をガイドの方に教えてもらい、南魚沼市への興味関心を深めていた。



【六万騎山頂上の様子】

3 水生生物観察

現地ガイドの方から説明を受けながら、水辺に生息する生物の観察を行った。グループごとにいくつかの場所に分かれ、ため池や用水路などで生物を探したり観察したりした。東京では見られない生物も生息しており、児童たちは歓喜の声を上げながら生物探しに没頭していた。活動開始時には、生物に触ることに抵抗を感じる児童もいたが、時間の経過とともにどの児童も楽しむことができた。学習のまとめとして各グループが見付けた生物を紹介したり、ガイドの方の説明を受けたりすることで、さらに南魚沼市の自然の豊かさを学ぶことができた。



【水生生物観察の様子】

4 ブナ林観察

現地ガイドの方から説明を受けながら、ブナ林の散策を行った。散策道には、何年もの間積み重ねられてきた落ち葉がクッションのようになり、児童はその柔らかさに驚いた様子だった。ガイドの方から、豊かな山々が米づくりに欠かせない美しい水を守っていることや、そこに生息する動植物の話を詳しく聞くことができた。



【現地ガイドの方の話を聞く様子】

<社会体験活動>

1 農業体験

現地農家の方の協力を得ながら、鎌を用いて稲刈り体験を行った。実際に田んぼに入ってみると、泥で思うように歩けないことに児童は驚いていた。また、学年全体で稲刈りをして、予定された時間で稲刈りを終えた区画はわずかであり、手作業で農業を行うことの大変さを感じていた。社会で学習した農業器具の進歩や、機械化の大切さが分かったという感想を多くの児童が述べていた。午後は農協みなみ魚沼を見学し、カンントリーエレベーターが実際に稼働する様子を見ることができた。



【稲刈り体験の様子】

<生活・文化体験活動>

1 宿舎での集団生活

家庭を離れ、布団の上げ下げや洗濯等の身の回りのことを自分たちで行うということは、児童にとって、とても新鮮な経験になったようである。布団をたたむことや洗濯機に洗剤を投入することをほとんど経験したことがない児童もあり、日常生活の営みを自分たちで行うことの大切さや大変さを感じていた。

事前に係活動の準備をしてはいたが、初めのうちは上手に機能していなかった。時間通りに行動できなかったり、自分の役割を果たせなかったりする様子も見られた。しかし、5泊6日という長い時間を共に過ごす中で、話し合いや協力により、課題を乗り越えられるようになっていった。時間の経過と共に、児童間の結束の高まりを実感することができた。

「語らいの時間」には、班ごとに一日を振り返り、良かった点や改善点を出し合って翌日の活動につなげようとする姿が見られた。最後の夜には、お世話になった民宿の方々へ、「感謝の会」を通して、感謝の気持ちや楽しかった思い出を伝えていた。

○児童の感想

- ・一番楽しみにしていたことは、農業体験でした。稲を刈るのが楽しそうだと思っていたからです。しかし、実際にやってみると、作業がとても大変で、しんどかったです。農家さんの仕事がどれだけ大変かを学んで、お米を食べるときの感謝の気持ちが増えました。
- ・僕は、「自然の大切さや必要性」を学びました。「水辺の生物観察」のとき、「東京に比べれば自然が豊かな新潟県でも、一部のトノサマガエルがもうすでに絶滅してしまっている。」とガイドさんが言っていました。今、だんだんと自然が破壊されてしまっていることは未来を考えると、とても大変なことだと思いました。だからこそ、自然の環境を少しでも守るために普段の生活や行動を考えて毎日を過ごしたいなと思いました。
- ・宿での生活は、最初は班にまとまりがなく、語らいの会もうまくいきませんでした。でも三日目あたりからまとまりが出てきて、語らいの会も上手に進められました。

- ・宿ごとで生活をして、最初は緊張したけど助け合いや遊びを通して仲良くなりました。気付けばみんな笑顔でいっぱいでした。目標にしていた「仲良し～助け合ってみよう～」を達成できたと思います。みんなの意外な一面を見ることができて、とてもうれしかったです。
- ・僕は親への考え方がだいぶ変わりました。今まで僕は、親が子供の世話をするのは、普通だと思っていました。だから、洗濯物を干すことやお風呂掃除などの手伝いは時々だけでした。しかし、今回のセカンドスクールは、普段の生活とは全く違いました。宿の方がしてくれること以外は自分で自分の世話をしなければなりません。最初は、とても厳しかったです。しかし、長い間それを続けていくにつれて、学んだことがあります。それは、お父さんお母さんは、自分たちのことだけではなく、僕達の世話を最優先でやってくれていることです。そんな、実はとても大変なことを普通にしている父や母への感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールにおける最も大きな成果は、児童が自ら話し合い、協力して課題解決をしながら、よりよい人間関係を形成していくという体験ができたことである。児童は長期間の共同生活の中で、時には意見をぶつけ合い、話し合い、仲直りをするということを繰り返していた。このように、自らの力で課題を乗り越え、よりよい人間関係を再構築しようとする経験は、今後の学校生活のあらゆる場面で生かされていくはずである。指導のあり方としても、「～しなさい。」という方針から、「～のことについて、どうしたいと考えているか。」と問うような方針が多くなっている。児童が自らの力で課題解決する過程を支えられるよう努めていきたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・事業評価アンケートによる「生きる力」の値は、実施前よりも実施後に下がるという結果になった。しかし、この結果は、各項目への児童の肯定度が下がったということではなく、児童が自分の「生きる力」の現状を自覚することができた成果であると考えている。児童たちは実際に現地に行き、農業体験をしたり友達と共同生活をしたりした。その結果、実施前には自分の中で「できる」と捉えていたことが、「まだ至らないところがある」と知ることができた結果であると捉えている。
- ・例年は坂戸山登山を実施していたが、今年度は六万騎山に変更した。登山の難易度としては下がったが、当日の気温がかなり上昇したことや児童の体力面のことを考えると、次年度以降も六万騎山が適切であると考ええる。
- ・最終日の現地出発時間を、もう少し早めに設定したい。今年度は高速道路を下りてから都内の渋滞に巻き込まれた結果、解散時刻が遅くなってしまった。
- ・服薬やアレルギー対応が必要な児童が多く、対応が大変だった。次年度以降は、保護者と学校、そして現地との連携をさらに密にするなどの工夫が必要である。

大野田小学校

長野県飯山市

9月14日～9月19日(5泊6日)

参加人数 男子59名 女子69名
計128名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・長野県や飯山市の自然、文化、産業について興味・関心をもち、課題を見付けすすんで調べようとする態度を養う。
- ・課題を解決するための方法を考えたり、調べたことや体験的な活動を通して自分の考えをもったりすることができるようにする。
- ・体験的な活動、他者とのコミュニケーションを通して、課題に沿って必要な情報を集め、取捨選択することができるようにする。
- ・自分たちの住んでいる地域と飯山市を比較し、その違いや共通点、よさに気づき、地域を大切にしようとする心情や態度を育てる。
- ・調べたことを伝える方法を目的に合わせて工夫し、分かりやすく伝えることができるようにする。
- ・飯山市の人々や友達など、人との関わりを通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、自分の考えを広げたり深めたりする探究心を育てる。

○日程表

9月14日(水)		9月15日(木)		9月16日(金)		9月17日(土)	
7:30	学校集合出発式	6:00	起床 健康観察	6:00	起床 健康観察	6:00	起床 健康観察
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:00	小布施SA 昼食	9:00	トレッキング	9:00	周辺散策・雪国の暮らし	9:00	農業体験(宿別)
13:30	戸狩着、開校式	12:30	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
15:00	はし作り	14:00	農業体験	13:15	課題別学習①	13:15	課題別学習②
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	夕食(バーベキュー)
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:30	入浴
19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	20:00	星空観察
						21:00	消灯

9月18日（日）		9月19日（月）	
6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	わら細工体験（宿別）	8:00	荷物整理、大掃除
12:30	昼食	9:00	学習のまとめ
13:15	課題学習③	10:20	閉校式
17:00	入浴	10:30	戸狩出発
18:00	夕食	11:15	小布施PA 昼食
19:00	お礼の会	16:00	学校着、帰校式
20:00	今日のまとめ	16:15	解散
21:00	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・「戸狩の観光大使になろう」というめあてのもと、セカンドスクールで「戸狩のよさ」について学習を進め、セカンドスクール後に4年生に向けてプレゼンテーションを行うという見通しをもたせて学習を行った。
- ・社会科と関連付け、地図帳や雨温図など各種資料を活用して、長野県飯山市戸狩の位置や地形、気候の特色を調べた。豊かな水を生かして人々は生活をしていることや、戸狩は日本有数の豪雪地帯であること、自然が豊かであることを知り、これらの特色を生かした産業や暮らしの様子に関心をもてるようにした。
- ・長野県飯山市の自然や伝統や文化、産業について本やインターネットで調べたことを基に個人のテーマを設定し、課題意識をもってセカンドスクールに取り組むことができるようにした。
- ・国語科と関連付け、話し合い活動を生活班のメンバーで事前に行い、考えを深めるために大切なこと（比較する、関連付ける等）について理解できるようにした。

2 事後の学習内容

- ・戸狩で学んだことや戸狩のよさについて話し合う。
- ・プレゼンテーションのスライドを学習者用コンピュータで作成する。
- ・戸狩観光大使として、4年生に向けて発表を行う。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 トレッキング

2 日目に民宿の方と共にとん平へトレッキングに行った。のろし台、お小夜の滝、川の上流、ゲレンデと4つのコースをローテーションしながら見て回った。のろし台からは、千曲川を挟んで広がる田園風景を望むことができた。お小夜の滝や川の上流では、千曲川に流れ込む川の水に触れたり、理科の学習と関連させて川岸の様子を観察したりすることができた。ゲレンデでは、たくさんの種類の虫や植物、山間の豊富な水を目の当たりにして、自然の美しさを感じることができた。



【のろし台から田園風景を望む】

2 課題別学習 産業コース(カヌー体験)



【カヌー体験の様子】

3 日目から5 日目の午後に行った課題別学習の一つに、産業コースとして白竜湖でのカヌー体験を取り入れた。飯山の自然を生かした観光として冬はスキーが有名であるが、冬だけでなく1 年を通して様々なアクティビティが体験できることを知った。

児童は、体験を終えて「戸狩に魅力がいろいろあるから人が集まって観光業になると分かった。」と話していた。

<社会体験活動>

1 稲刈り・脱穀体験

2 日目の午後に稲刈りと脱穀を行った。黄金色に実った稲穂を見ながら、鎌の使い方や刈り取った稲の束ね方などの説明を真剣に聞いていた。2 人1 組で協力しながら一生懸命稲刈りに取り組んだ。それでも時間内に田んぼの一部しか刈ることができず、作業の大変さと機械の便利さを感じることができた。稲刈りの後の脱穀では、千歯こきと足踏み脱穀を使用した。脱穀機で取りきれない米や周りに落ちた米は、一粒も無駄にしないように手で取ったり拾ったりした。



【稲刈りの様子】

社会科で扱った内容を実際に体験することで、実感を伴う学びとなった。

2 農業体験



【さつまいもの収穫の様子】

宿ごとに農業体験を行った。トマトや枝豆の収穫、さつまいも掘り、収穫した作物の後片付けなどを、宿の方に教わりながら全員で協力して行った。普段食べている物がどのように育てられ、収穫されているか知ることができた。また、生産者の苦勞を知り、食への感謝の気持ちをもつことができた。

<生活・文化体験活動>

1 はし作り

1 日目の開校式の後、各宿に移動して最初の体験活動「はし作り」を行った。小刀とやすりを使って、セカンドスクール期間中、自分自身が使うはしを作った。竹を削る作業が予想以上に難しく、作業が思うように進まない児童もいたが、教え合いながら根気強く作業し、完成させることができた。

2 課題別学習 雪国の暮らしと伝統文化コース

3 日目から 5 日目の午後に行った課題別学習の一つで、雪国の暮らしと伝統文化について学んだ。飯山市ふるさと館では、雪国の暮らしならではの道具に実際に触れたり、昔の人の暮らしを学んだりした。また、隣の手すき和紙体験工房で、飯山の伝統工芸品である「内山紙」を作った。「内山紙」の数少ない職人の方から和紙の材料や作り方について学んだ後、実際に和紙すきを体験することができ、和紙すきの難しさや大変さを学んだ。



【和紙すきの様子】

○児童の感想

- ・ 稲刈り体験では、昔と同じように鎌を使って手作業でやった。機械が導入されてから昔と今で労働時間がすごく縮まっていることが分かった。
- ・ いつも当たり前にご飯を食べているお米も一粒一粒大事にして米粒を残さないようにしたい。
- ・ 武蔵野市の自然の豊かさとは違う、長野県にしかない自然の豊かさを学んだ。
- ・ 戸狩にはよいところがたくさんあることを知って、その一つ一つがつながっているということを実感しました。
- ・ セカンドスクールが終わるということは、さらに心が一つになったクラスの新しいスタートだと思います。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

事前学習において、戸狩の気候や土地の特色を調べるのに加え、戸狩が抱える課題についても学んだ。単元を「戸狩観光大使になろう」と設定し、事後に4年生へプレゼンテーションするということで、子供たちは戸狩のよさを見つけるという目標をしっかりとってセカンドスクールを過ごしていた。どう情報を集めてどのように話し合い、考えていけばよいかを知るいい機会となった。また、武蔵野市民科の学習とも関連付け、戸狩のよさから武蔵野市のよさに目を向けて考えられるようにした。

共同生活を通して、集団行動において大切なことを多く学んでいた。帰校後は、話を聞く、時間を守る、相手の意見を受け止める、自分の役割に責任をもって取り組むなど、他者との関わり方や自分との向き合い方に変化が見られた。今後も継続していけるようにする。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

<成果>

- ・9月中旬に実施した。全日程、天候に恵まれ、戸狩の特色を存分に味わえるプログラムを組むことができた。また、多少の雨でも実施できる内容にすることで、雨天時においても充実した予定を組むことができた。今年度からハイキングの場所をとん平に変更したことで、無理なく自然を感じられるプログラムになった。
- ・カヌー体験では、自分たちが感じた楽しさが観光業につながることに気付くことができた。
- ・話し合い活動を毎日設定したことで、日々の生活で感じた様々な意見を出し合うよさを実感させることができた。
- ・学習者用コンピュータは一日の振り返りにのみ使用し、語らいの時間には宿の方のお話を聞いたり、出てきた課題を話し合ったりするなど、宿ごとに過ごし方を決められる時間に重点をおいた。
- ・宿での時間の使い方を柔軟にしたことで、宿の方の話を聞く時間を確保できた。
- ・子どもたちの「生きる力」を測るアンケート調査の結果、とん平でのトレッキングやカヌー体験などの体験活動を通して、自分の体力や身体的能力について自信を深めたと考える。また、産業について調べたり、武蔵野ではできない農業体験をしたり、宿の方や友達と交流したことで、心理的・社会的能力に自信がついたと考える。次年度も引き続き、これらの活動を取り入れていく。また、道徳的能力は長期の集団生活をする中で自分の道徳的未熟さ気付いたと考えられる。

<課題>

- ・稲刈りの時期が少し早く、田んぼの一部しか稲を刈ることができなかった。日程を一週間遅らせることについて検討する必要がある。
- ・途中で帰京する必要がある児童がいた場合、保護者に迎えに来ていただく際の留意点を整理しておく必要がある。
- ・観光業の一つとしてカヌー体験を取り入れたが、ただカヌーを体験するだけでなく、観光業の課題についても考え、観光業に関わる人たちから話を伺う機会の充実を図っていきたい。

境南小学校

9月15日～9月20日(5泊6日)

長野県飯山市

参加人数 男子42名 女子37名
計79名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・飯山の自然や暮らしの特徴を理解する。
- ・飯山の特色から、それぞれの課題に沿って必要な情報を収集する。
- ・得た情報を取捨選択しながら考え、表現する力を育成する。
- ・力を合わせて目標を達成し、よりよくしていこうとする態度を養う。
- ・飯山の人々との交流や、集団生活を通して、他者理解や協調性を学ぶ。

○日程表

9月15日(木)		9月16日(金)		9月17日(土)		9月18日(日)	
7:50	学校集合 出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:25	出発	7:10	朝食	7:10	朝食	7:10	朝食
		8:30	農業体験(稲刈り)	9:00	課題別フィールドワーク A: 米農家見学 B: 飯山仏壇彫金体験 C: 野沢温泉街散策	9:00	課題別フィールドワーク A: 野菜農家見学 B: ふるさと館 手すき和紙体験 C: 飯山市内散策
12:20	小布施SA着 昼食	12:00	伝統食作り	12:30	昼食	12:30	昼食
13:45	戸狩着 開校式					13:30	野菜の収穫・たき火体験
14:00	各民宿着	14:00	農業体験(脱穀)	14:00	課題別グループワーク		すいとん作り
15:00	箸作り体験	16:00	周辺散策	15:30	入浴・学習の記録	17:00	入浴・学習の記録
16:30	入浴・学習の記録	16:45	入浴・学習の記録		洗濯		お別れ会計画
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:20	星空観察	19:00	手紙書き	19:00	飯山の話聞こう		
21:00	就寝・消灯	21:00	就寝・消灯	21:00	就寝・消灯	21:00	就寝・消灯

9月19日（月）		9月20日（火）	
6:30	起床	6:30	起床
7:10	朝食	7:10	朝食
9:00	課題別グループワーク	9:00	トピアホール集合
10:30	民宿大掃除	9:30	飯山発
12:00	餅つき・昼食	11:30	横川SA着
14:00	学年レク		昼食
15:00	お別れ会準備	15:00	学校着・解散
16:00	入浴・学習の記録		
17:30	夕食		
19:00	お別れ会		
21:00	就寝・消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・課題別探究学習の内容（農業、暮らしと伝統、観光）について、インターネットで調べたり家族にインタビューしたりしながら事前学習を行った。調べて分かったことや疑問を友達と共有することにより、調べる視点や考えを広げ、関心を高める工夫をした。

<農業>

- ・社会科の「日本の農業」での学習を生かして、長野県の農業について調べ、アスパラガスやズッキーニ、米の生産について学んだ。特色ある経営をしている米農家について、事前の調べ学習を通して、米のブランディング方法や、消費者の期待に応える商品作りに関心を高める児童の姿が見られた。

<暮らしと伝統>

- ・夏は気温が高く、冬は豪雪地帯である戸狩・飯山地区の気候や風土について学んだ。飯山地区の伝統工芸である「仏壇彫刻」「内山和紙」について知り、それぞれのルーツやこれからの課題について話し合った。特に後継者問題について興味をもち、どのようにすれば課題解決につながるのかを考えた。

<観光>

- ・豪雪地帯の特色を生かした観光事業の1つである「信州いいやまかまぐらの里」の取組を知るとともに、市や町全体で観光事業の取組を支えていることを知った。また、武蔵野市と比較し、現地で互いの良さを見付けられるよう視点をもたせた。さらに、戸狩・飯山地区に近い野沢温泉の観光についても関心をもたせたいと考えた。そこで、野沢温泉の歴史やコロナ禍を乗り切るための工夫について調べる時間をとった。その結果、児童の意欲に高まりが見られた。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクール終了後、課題別探究学習のテーマごとに3グループに分かれ、現地で体験したり話を聞いたりしたことを基にまとめの活動を行った。
- ・作成した資料を基に、発表する対象について児童で話し合った。その結果、異なる探究課題を学習した別のグループに向けて発表することに決定した。発表原稿を作成する際は、国語で学んだ事実と自分の意見を分けて考えることを実践したり、写真や図表を効果的に活用したりして、詳しく且つ具体的に作成することを意識した。

○特色ある学習内容

<社会体験活動>

1 農業体験

午前中に稲刈り体験を行い、午後は脱穀体験を行った。

稲刈り体験では、宿の方から稲刈りの手順についての説明を受け、作業に取り掛かった。特に鎌の扱い方については、危険がないように丁寧に指導を受けた。宿ごとに分かれ、児童は興味津々に稲刈りを開始した。鎌の扱いに慣れるまでは、ぎこちない動きで苦労している児童もいたが、時間の経過とともに鎌の扱い方や束ね方に慣れ、段々と上達していった。強い日差しの中での作業だったが、友達同士でアドバイスをし合ったり、励ましの声を掛け合ったりしながら時間ぎりぎりまで夢中になって取り組む姿が見られた。また、農家の方の話を聞いたり、稲を丁寧に刈る農家の方の作業の様子を見たりして、農家の方は稲を一つ一つ大切に育てていることに気付くことができた。その後、バインダーとコンバインによる稲刈りの様子を見学した。機械で刈る作業スピードに歓声が上がるとともに、農作業の機械化が生み出した効率性を実感できた。

午後の脱穀体験では、千歯こきや足踏み脱穀機に最初は苦戦しながらも、徐々にコツをつかみ、熱心に作業していた。活動を通して、お米が自分たちの食卓に届くまでには、農家の多くの工夫と苦労があることに気付き、これからは一粒も残さずにお米を食べるようにしていきたいという思いをもつことができた。



【稲刈り体験をする児童】

<生活・文化体験活動>

1 箸作り体験

1日目、それぞれの宿に到着後、セカンドスクールの期間中に使用する自分の箸を作った。小刀の扱いについての指導を受け、友達との間隔をしっかりと取り、安全に気を付けて活動した。箸に適した長さの竹を宿の方に準備していただき、小刀とやすりを使い、つかみやすい細さに削っていった。二本が均等になるよう、熱心に体験に取り組む姿が見られ、それぞれが納得いく自分の箸が完成した。

2 伝統食作り

2 日目には、伝統食である「おやき」と「笹寿司」の調理体験を行った。笹寿司は葉の上に酢飯をのせ、その上にワラビやゼンマイなどの山菜、卵焼きや紅しょうがなどを盛り付けた。児童は、それぞれで具材を工夫し、オリジナルの笹寿司を作り、昼食を楽しんだ。おやきは、小麦粉の皮で切り干し大根やゼンマイなどを包み入れ、蒸し器でふかすというものであった。児童は、自分でどのような形にするのか考えながら、夢中になって取り組み、作ることも食べることに大満足の様子を見せていた。



【笹寿司作り体験をする児童】

<課題別探究学習>

1 農業

「農業」をテーマにしたグループでは、「米農家」と「野菜農家」に着目し、学習に取り組んだ。「米農家」では、実際にお米を育てている2名の方の田んぼを見せていただき、お話を聞いた。実際の田んぼを目の当たりにして、児童からは「こんなに広いところを管理しているのがすごい」という驚きの声が続いだ。また、質問にも快く答えていただき、貴重な時間となった。「野菜農家」では、ズッキーニを育てている農家からお話を伺った。5月～11月まで、休まず毎朝4時半には畑に来て作業をしていることを知り、児童は驚きの表情を見せていた。将来農家になりたいと思っている児童に対して、「たくさん経験をして、たくさん勉強してほしい」というエールを送っていただいた。最後に大切な仕事道具であるトラクターに全員乗せていただき、貴重な体験をすることができた。

2 暮らしと伝統

「暮らしと伝統」をテーマにしたグループでは、「飯山仏壇」と「内山和紙」に着目し、学習に取り組んだ。「飯山仏壇」では、仏壇作りになくてはならない様々な技法を、伝統工芸士の方から直接教わった。その中の1つである彫金体験を通して、細かく正確な作業を求められることを知り、高度な技術の高さに職人の凄さを実感した。「内山和紙」では、外国と日本の紙の製法とを比較し、日本の製紙技術の高さを知った。また、講師の方から伝統工芸を受け継いでいく人材不足の課題について話を聞くことができた。子どもたちは内山和紙作り体験を通して、和紙の製法を体験的に学ぶとともに、完成した和紙を手にして、内山和紙の特色のよさを味わうことができた。

3 観光

「観光」をテーマにしたグループでは、「飯山の歴史と観光」と「野沢温泉の観光の取組」に着目し、学習に取り組んだ。「飯山の歴史と観光」については、飯山寺町めぐりを実施し、寺町の歴史や、人々の生活の工夫、自然と向かい合いながら生きている様子を学んだ。また、観光地として、どのように発展していくかを考えながら、町おこしに励み、現地で生活している人々の知恵などに触れることができた。「野沢温泉の観光の取組」について調べる学習活動では、温

泉卵の歴史や温泉の源泉を使った人々の生活などを学び、これからも自分たちが伝承していくことの大切さを知った。現地の商業施設の方から温泉のルーツを聞き、自分たちの生活にあるものを広げていくことの苦労や努力について考える機会を得た。

○児童の感想

- ・セカンドスクールから帰ってきてとても成長した。その理由は、学びの面でも生活の面でも新しい気付きがたくさんあったから。
- ・探究学習を通して、疑問をもつことの大切さに気付いた。また、その疑問を解決しようとする気持ちを大切にこれからも生活していきたい。
- ・農家さんに実際に話を聞いたことで、自然を利用して野菜を栽培していることや、温暖化を進行させないために様々な努力をしていることを知り、私も日常生活で温暖化を止める努力をしていきたいと思った。
- ・夜の星空や伝統食が武蔵野市と飯山市では違うことに気付き、飯山市ならではの特色を楽しむことができた。飯山市のことをもっと知りたい。
- ・お別れ会の準備で、初めのうちは意見がまとまらなかったが、後半は友達と協力できた。お別れ会を通して、宿のお父さんお母さん、指導員さんに感謝の気持ちを伝えることができた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールを通して、本校の目指す児童の姿である「主体的に学ぶ」ということを意識して学習や生活をすることができた。課題別探究学習では、自ら学びたいテーマを設定したことにより、現地で出会った方々に積極的にインタビューしたり、調べたりすることができた。また、課題別グループワークの時間に調べてわかったことを整理し、さらに知りたいことや疑問を出し合い、翌日の活動に生かすことができた。生活面では、しおりを自分たちで確認して見通しをもって行動すること、時間を守ることを心がけた。毎日班長は、班のメンバーや指導員と1日を振り返り、担任との班長会議で課題を整理することを通して、自分たちで考えためあてを意識して生活し、集団で生活する上で大切なことを体験的に学んだ。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

「生きる力」の変容は、事前から事後にかけて大きな変化は見られなかった。5泊6日の体験学習だけで数値に明確に変化が表れる資質・能力ではないと考えられる。長期的かつ継続的に教育活動全体を通して、意図的、意識的に指導していく必要があると考える。数値の変容は見られなかったが、セカンドスクールを通して、自然や生き物に親しむ気持ちや協調性が育まれたと実感している。次年度以降も自然豊かな環境と、人との温かいつながりが充実する内容を大切にしたい。日程及びプログラムの組み方について、課題別探究学習の取組は、児童の主体性を伸ばす学習活動として今後も継続して行う。体験後の課題別グループワークは、夕方～夜の時間帯に設定することにより、体験活動をより多く実施できるよう改善する。

本宿小学校

新潟県南魚沼市

9月22日～9月27日(5泊6日)

参加人数 男子33名 女子36名
計69名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然と調和して生きることの大切さや魅力への深い理解
- ・自然の美しさや力強さに感動する心
- ・自ら学びたいことを選び、追究したい課題を具体的に設定する力
- ・自分の課題を解決するための情報を集めて整理し、自分の言葉で人に伝える力
- ・自分にできることを主体的に考え、人と協働する力
- ・自分の生き方や生活を見つめ、改善、向上させようとする前向きな姿勢

○日程表

9月22日(木)		9月23日(金)		9月24日(土)		9月25日(日)	
8:30	学校集合 出発式	6:00	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察
9:00	出発	7:00	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
12:30	昼食	9:00	稲刈り体験	9:00	塩沢宿ウォーク	9:00	課題別学習
13:30	八海山ロープウェイ	12:00	昼食・入浴	13:00	昼食	12:00	昼食
15:00	到着 開校式	13:30	ぶな林トレッキング	14:00	わら細工体験	14:00	座禅体験
16:00	マイはし作り	16:00	お別れの会準備	16:00	お別れの会準備	16:30	周辺散策
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴・学習のまとめ	19:00	入浴・学習のまとめ	19:00	入浴・学習のまとめ	19:00	入浴・学習のまとめ
20:00	学びの時間	20:00	学びの時間	20:00	学びの時間	20:00	学びの時間
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝
9月26日(月)		9月27日(火)					
6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察				
7:30	朝食	7:30	朝食				
9:00	三国川ダム見学	9:00	笹団子づくり体験				
12:00	昼食	11:30	大掃除				
13:30	課題別学習のまとめ	12:00	昼食				
16:30	お別れの会準備	12:30	閉校式				
18:00	バーベキュー	13:00	出発				
19:00	入浴・学習のまとめ	16:30	学校着・帰校式				
20:00	お別れの会						
21:30	就寝						

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・課題別学習のテーマ（生活・産業・歴史・自然）に照らして、南魚沼市と武蔵野市の比較を行った。学習に際しては、Google スライドでフォーマットを配布し、インターネットを使って調べた。その中から各自調べたい項目を決め、現地で何を取材するのかを具体的に考えて、質問項目をまとめた。国語科「みんなが過ごしやすい町へ」の調べ学習や社会科「寒い土地の暮らし」「米づくりのさかんな地域」、理科「流れる水のはたらきと土地の変化」の単元と関連付けて学習を進めた。武蔵野市については、武蔵野市民科のカリキュラムとして行った。
- ・セカンドスクール5日目には、課題別学習のまとめの時間を確保し、グループに分かれて上記スライドを完成させた。

2 事後の学習内容

- ・課題別グループに分かれて、発表用スライドを作成した。南魚沼市で学んだ成果について、校内児童発表会で全校に発表した。
- ・今回直接の交流ができなかった南魚沼市立北辰小学校とオンラインで交流した。武蔵野市民科のカリキュラムとして、南魚沼市と比較した武蔵野市のよさをまとめた。北辰小学校からは、今回学習できなかった南魚沼市の特色についての発表をしていただいた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ

ロープウェイを使って八海山に登り、頂上から今回宿泊する上の原地区を眺めた。盆地の広がりや土地の様子、稲作が盛んな土地の特徴などを自分の目で確認した。虫がいたるところにいることに驚き、虫取りを楽しんでいた。

2 後山ぶな林トレッキング

後山のぶな林をガイドの方と散策した。ふわふわした腐葉土の上を歩き、豊かな自然を存分に楽しむことができた。ぶなの葉や実の特徴、水を貯える働きをはじめ、多くの生き物のすみかになっていることなど、ぶな林の役割を知り、自然環境や自然と共に生きる人々の暮らしについて学ぶことができた。



【稲刈り体験】

<社会体験活動>

1 稲刈り体験

稲刈り体験では、宿や地域の方に稲の刈り方と束ね方を教えてもらい、作業を進めていった。米づくり作業の一端を体験することでその大変さを理解し、農家の方がたくさんの手間をかけて米を作ってくれているおかげで、自分たちが米を食べられることを感じる事ができた。

2 三国川ダム見学

三国川ダムでは、職員の方からダムの仕組みについてのお話をいただき、洪水調整や流水維持、水道水、発電等の機能について学習をした。実際に地下の施設を見学し、資料館では模型を使ってその構造を理解した。最後にはダムの全体をバスで周回し、その大きさを体感した。

<生活・文化体験活動>

1 塩沢宿ウォーク

3つのグループに分かれて、つむぎ記念館と鈴木牧之記念館、中島屋の見学をした。つむぎ記念館では、伝統産業である織物体験をした。初めての機織りに戸惑いながらも、慣れるに従い織物がどんどん長くなっていくのを見て、「もっとやりたい」と楽しむ様子を見せていた。



【つむぎ記念館織物体験】

2 わら細工体験

地域の方に手順を教わりながら一輪挿しを作った。わらという素材を生かした模様を考え、自分なりにデザインをして、個性豊かな作品に仕上げる事ができた。部屋に飾ったり、ペン立てにしたりするなど、それぞれ使い方も考えていた。これらの活動を通し、稲作で生じるわらを無駄なく活用し、様々な生活用品を作り上げる昔の人々の知恵に気付く事ができた。

3 座禅体験

雲洞庵では、座禅体験をした。多忙であったり、悩んでいたりするときは座禅をして心を落ち着かせ、そのことを一旦考えないことが大切だということを学んだ。それを体感する中で、「東京に戻ってからもやってみたい」との感想が聞かれた。

4 郷土料理(笹団子)づくり

各民宿で、宿や地域の方に教わりながら、笹団子づくりに取り組んだ。地元の方が講師として来てくださり、交流しながら進めた。仕上げには、わらで縛る作業があった。昔ながらの作業に初めは戸惑っていたが、慣れるにつれて楽しむ様子を見せ、できあがった笹団子を味わっていた。



【笹団子づくり】

<課題別体験学習>

1 雪国の生活

1,000トンの雪を収容する雪中貯蔵庫を見学した。日本酒の熟成だけでなく、野菜等の貯蔵にも使われていることを知り、1年間を通して雪が活用されていることに驚いていた。六日町駅前に消雪パイプや雁木、縦型信号機などの設備があることを知り、宿周辺では高床式の家や雪を溶かす水路など町中の雪国の暮らしの工夫を見付け、自然環境に合わせた人々の生活について学ぶことができた。

2 南魚沼の米

社会科で学習したカントリーエレベーターの見学を行い、収穫した粳をスムーズに受け入れ

る施設、トラックに積んだまま米を計量できる仕組みなどを、関心をもって調べることができた。また、粳穀が乾燥から貯蔵、精米、パッケージされていく過程を知り、カントリーエレベーターが果たしている役割を学んだ。豊かな自然環境を生かしながら、米づくりに関わる人々がこうした施設や設備を使い、様々な努力や工夫を重ねていることに気付くことができた。

3 坂戸城跡

坂戸山に行き、山城であった坂戸城とはどのような城だったか、人工的にめぐらせた内堀、坂戸山からの景色や住居の跡などを実際に見ながら、講師の話聞いた。「坂戸城はなぜ負けたことがなかったか」などを分かりやすく説明してもらった。また、上杉景勝と直江兼続の生誕碑に刻まれた文字を調べ、地元の人々に親しまれる2人の生涯を知る機会となった。

4 源流の学習

「川は、どこから流れてくるのか」「川にはどのような生き物がいるのか」といった課題をもって活動に臨んだ。川の源流に行き、水が湧く付近で2人組になって生き物を探し、手で石を裏返して下に隠れている小さな生き物を観察した。サンショウウオを発見する児童もいた。その後、見付けた生き物をカップに入れ、互いに見せ合った。普段見られない生き物を見たり、講師の話の聞いたりすることで、川や水に関する学習を深めることができた。

○児童の感想

- ・八海山では東京では見ることでできない風景や空気を感じることができました。八海山の空気はとても澄んでいて、八海山の風景はとても緑を感じられるようなところでした。
- ・稲刈り体験でたくさんのことを学びました。特に心に残ったことは、稲刈りの楽しさと大変さです。工夫しながら稲を刈ってとても楽しかったですが、それを何度も繰り返すことになるととても大変だという農家の人々の苦労や努力が、前よりも少し分かった気がします。
- ・農家の人が一生涯懸命に育ててくれた新米が美味しかったです。また、一生懸命食べることで食の大切さを知ることができました。
- ・ぶな林では、土や木の中にすむ微生物、葉やくきに触ると手が荒れてしまうヤマウルシなどの希少な自然に触れられ、とても充実した時間を過ごすことができました。今回の体験を通して、森や木について考え、改めて知ることができたのでよかったです。これからは自然を大切にすることを心がけて新しい自然を潰さないようにしていこうと思いました。
- ・一番心に残ったことは、塩沢宿の織物体験です。初めてだったので、最初は分からなかったけれど、だんだん慣れてきて綺麗に織れました。またやってみたいです。
- ・わら細工体験では、わらを切るときにいっぺんに切ろうとしたら上手く切れなかったため、あまり贅沢はしない方がよいことも学びました。また、適当に切っていたら太さが違って、太さを揃えようとしたら細くなってしまったので、適当にやらずに何事も丁寧にこなすことが大切だということも学びました。
- ・自分の目を見たカントリーエレベーターは教科書の写真よりとても大きく迫力がありました。農家さんから送られてきた米は、カントリーエレベーターの中にある色々な機械で作業し、

私たちのもとに安全でおいしい米が届いていることが分かりました。

- ・課題別学習まとめでは、グループに分かれてパソコン作業をした。同じグループの人と少しずつ進めていった。助け合いもできたから、友情、助け合い精神も磨けたと思う。
- ・セカンドスクールで、チームワークが深まったのではないかなと思います。みんなで協力して声を掛け合ったりし、助け合った、そんなセカンドスクールだったかなと思います。「礼儀・感謝・学び」の3つを大切にこれから生活や学校生活に繋げていきたいと思いました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

事前学習では、カリキュラム・マネジメントの視点から、国語科、社会科、理科、武蔵野市民科のカリキュラムとして、南魚沼市との比較から武蔵野市のよさを捉える学習を行った。

第4学年でのプレセカンドスクール報告会の経験を生かし、校内発表会で学んだことをプレゼンテーションした。また、北辰小学校とのオンライン交流を行う中で、南魚沼市をさらに深く知り、武蔵野市のよさを発信した。

今回のテーマとして、「礼儀・感謝・学び」の3つを掲げた。「礼儀」とは、挨拶などの形だけのものではなく、相手のことを思い、それを態度に表したものであるということ。「感謝」とは、自分を支えてくれるすべての人や物に対する思いから自然に発露するものであること。そして、「学び」とは、知識を獲得することだけでなく、礼儀や感謝も含めた人との関わり方、自分の生き方も含め、さまざまなことを学ぶということ。これらをねらいとして指導した。児童の感想や帰校後の学校生活、教職員や保護者の声からも、このセカンドスクールを通して、多くのことが身に付いたと感じている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

体験活動や宿での生活を通して、南魚沼の自然や文化、それを支える人々の思いを感じ取ることができた。また、稲刈りの体験を通して、食への関心が高まり、食べ物を大切にしようとする心を育てることができた。「生きる力」を測るアンケートの調査結果において、「心理的・社会的能力」「道徳的能力」が大きく向上したこと、宿の方や指導員、友達との長期にわたる生活を通して、礼儀や感謝、人との関わり方、社会性などが身に付いたことが分かる。そして、学ぶことの楽しさを味わうことができた。ねらいを明確にし、日頃の授業から児童に指導したことが、これらの成果につながったと考えている。

次年度の課題として、事前学習での調べ学習において、情報に乏しく、調べにくいものがあった。引率教員にセカンドスクールの経験がなく、実地踏査で初めて現地を訪れたこともあり、児童に具体的な学習内容を示すことが難しいところもあった。事前に経験のある教員との打ち合わせや情報提供を受けられる体制を取っていきたい。また、今回は新型コロナウイルスの影響もあり、北辰小学校との現地交流活動ができなかった。次年度以降も先が読めないところがある。その中で、今回実施するオンライン交流は、感染症の状況や場所の制約を受けずにできるものである。縁を大切に、次年度以降の現地交流の如何に関わらず、継続していきたい。

千川小学校

新潟県南魚沼市

9月16日～9月21日(5泊6日)

参加人数 男子15名 女子23名
計38名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・ 現地の自然や人々の生活等について理解を深め、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・ 現地での学習を通して、自己やグループの課題解決のための情報を集め、整理、分析してまとめる力を育む。
- ・ 集団活動を通して、互いのよさを理解し合い、協力して生活する態度を養う。
- ・ 現地の方々との交流や自然・文化体験を通して、よりよい地域・社会づくりについて考える力を育む。

○日程表

9月16日(金)		9月17日(土)		9月18日(日)		9月19日(月)	
8:00	学校出発	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔
11:30	昼食	7:30	朝食	6:30	朝会	7:30	朝食
13:00	八海山ロープウェイ乗車	9:30	稲刈り実習	7:30	朝食	9:30	後山ブナ林トレッキング
14:00	開校式	12:00	昼食	9:00	わらざうり作り		
15:30	マイ箸作り	13:30	JALカントリーエレベーター見学	12:00	昼食	12:00	昼食
17:30	夕食	14:30	ちまき作り	14:30	各宿での活動	13:30	各宿での活動
18:30	天体観測	17:30	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食(バーベキュー)
20:00	健康観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察
20:15	入浴	20:15	入浴	20:10	入浴	20:15	入浴
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝
9月20日(火)		9月21日(水)					
6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔				
7:00	朝食	7:30	朝食				
9:00	課題別学習	9:30	笹団子づくり				
12:00	昼食	12:00	昼食				
14:00	雲洞庵座禅体験	13:00	閉校式				
18:00	夕食	16:25	学校到着				
18:45	感謝の会	16:30	到着式				
20:00	健康観察						
20:15	入浴						
21:00	就寝						

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科の学習において、米作りの盛んな地域について学習した。その地域の気候や地形の特色、米作りの方法などとともに、安心でおいしい米を作るために働く人々の工夫や努力について、理解を深めた。また、現地で質問したいことを事前に考え、米作りについて関心を高められるようにした。
- ・総合的な学習の時間に、南魚沼市から送っていただいたコシヒカリの苗を学校の自然体験園に植えた。また、田植えの方法、稲の病気、米の種類や料理など、米に関する自分で立てた課題について調べ学習を行い、興味を広げることができた。
- ・セカンドスクールで行う活動と水・米・歴史文化・水生生物の4グループに分かれて行う課題別学習について調べた。事前に、体験することをインターネットや本で調べ、体験学習への興味・関心を高め、学習が深められるようにした。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだことを他のグループの児童に発表した。他のグループの発表を聞いたことでそれぞれのグループの活動について共有することができた。
- ・事前学習で調べたことや、現地で体験したことを基にして、学習発表会で発表を行った。まず、セカンドスクールで学んだことを整理した。そして、学んだことを分かりやすく伝えるために、スライドにまとめたり、劇で表現したりした。さらに、今回学んだことを今後の学校生活に生かしていきたいという意欲を高めることができた。
- ・セカンドスクールを通して学んだことや考えたことなどについて作文にまとめ、振り返りを行った。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 八海山ロープウェイ、展望台

ロープウェイを利用して八海山の展望台まで上がった。山に囲まれている南魚沼市の地形の特徴（扇状地）や中央を流れる魚野川、流域の水田の多さを実感することができた。また、麓との寒暖の差も体験したことで、八海山の標高の高さを体感することができた。

2 後山ブナ林森林トレッキング

水源林としても機能しているブナ林の森林をガイドの方2名と散策した。武蔵野市では見たことのない植物を見つけて説明を聞いたり、ふわふわした落ち葉の感触を足から味わったりして、自然の豊かさを実感した。また、山に囲まれた地形ならではの山びこを体験したり、菌糸を探したりするなど、五感を使って自然と触れ合い、楽しむことができた。

＜社会体験活動＞

1 農業体験(稲刈り、野菜の収穫など)

稲刈り体験では、始めはぎこちなかったが、現地指導員の方に鎌の使い方を丁寧に教えていただいたことで、素早く刈り取ることができるようになった。集めた稲をまとめ、藁で縛ることが難しかったが、一つの米粒も落とさないようにという指導員の方の言葉から、一生懸命に落穂拾いをする児童の姿が印象的だった。稲刈りやはざかけの体験を通して、手作業での米作りの苦労を実感することができた。



【稲刈り体験】

その後、カントリーエレベーターを見学することで収穫された米がどのようにして保管されているのかを学ぶことができた。さらに、各宿でちまき作りをすることで、収穫から食べるまでの行程を一日で体験することができた。

米だけでなく、各宿の畑で野菜の収穫体験も行った。宿の方から話を聞きながら一緒に畑仕事をする中で、野菜を育てることの苦労とともに、自分たちで収穫した野菜を食べる喜びやそのおいしさを感じることができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 わらぞうり作り

地元の方を講師に迎え、各宿でわらぞうりを作った。作り方を丁寧に教えてもらうことで、全員が作り上げることができた。また、同じ宿の友達同士で教え合ったり、助け合ったりする姿を多く見ることができた。

作った後は実際に履いて歩き、履き心地を確かめながら、生活の知恵を肌で感じ、昔の人々の暮らしを想像することができた。



【わらぞうり作り】

2 ちまき作り、笹団子作り

南魚沼市の伝統の食文化を、実際に作ることで学んだ。笹でもち米を包むことに悪戦苦闘しながら一生懸命作ったちまきを、翌日の朝食として食した。

最終日に行った笹団子作りは、宿の方や地元の方との最後の交流となり、5泊6日の締めくくりの活動として、非常に有意義な時間となった。

3 雲洞庵見学、座禅体験

歴史・文化に触れる活動として、座禅体験を曹洞宗の寺院である名利雲洞庵で行った。自然に囲まれ、静寂の中で黙想し精神を落ち着かせ集中するという貴重な体験ができた。また、「開かずの門」と言われている赤門や、参道の石畳、上杉景勝や直江兼続が戦国時代の武将になるための教養を受けていた場所がある本堂など、貴重な歴史的文化財を見学することができた。

＜課題別学習＞

1 水グループ(三国川ダム・三国川頭首工・畔地浄水場)

生活や農業を支える豊かな水がどのようにして生まれるのか、三国川ダム・三国川頭首工を見学した。また、施設の方の丁寧な説明を通して、ダムや頭首工の役割について理解を深めることができた。

2 米グループ(精米所・ぬか釜体験)

J Aの職員の方の説明や映像資料を通して、収穫した後の米がどのように精米されて、消費者まで届いているのかを学んだ。ぬか釜体験では、指導員の方に昔ながらの米の炊き方を教わった。炊きあがった米のおいしさにどの児童も驚いていた。

3 歴史文化グループ(鈴木牧之記念館、中島屋)

江戸時代の文筆家である鈴木牧之の記念館では、雪国の生活について著した「北越雪譜」や地域の特産品である「塩沢紬」について学んだ。中島屋では、雪国の伝統的な家屋の工夫や地域の風習について教わった。

○児童の感想

- ・セカンドスクールでは、友だちの自然な姿に出会えました。学校では見られない自然な姿を見て少しイメージが変わった友だちもありました。そして、学校では見ない姿を見て「苦手だ」と思っていた子も仲よくなり、もともと仲がよかった子とはもっと仲よくなれました。また、その人が得意なことや苦手なことをもっと知ることができました。
- ・私は、セカンドスクールで自然の面白さに気付きました。南魚沼市は武蔵野市と違って、自然がたくさんありました。例えば近くの公園では、四つ葉クローバーを 40 本くらい見つけました。初めて四つ葉クローバーを見つけたので、驚きました。その後五つ葉、六つ葉も見つけました。東京ではなかなか見かけない四つ葉のクローバーも、きれいな花も南魚沼市にはたくさんありました。また、私は虫が苦手であり自然が好きじゃなかったけど、セカンドスクールで、すこし自然が面白いと感じました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールでは、「時間」「整理整頓」「基本的な行動」「きりかえ」「相手の立場を考える」「行動力」「あいさつ」という7つのめあてをたてた。児童は、来年度の最高学年への進級につなげるために、セカンドスクールを充実させたいという思いをもって活動に取り組んだ。

家族から離れて過ごした5泊6日の集団生活は、貴重な経験として、児童一人一人の力となっている。その力を事後の活動でも引き出すため、行事等、大勢で一つの目標に向かって活動するときには、セカンドスクールでの経験を想起させることで、仲間と協力したり、励まし合ったりすることができると思う。

現地の体験では、学ぶことの楽しさを味わうだけでなく、現地の方々との関わりを大切に

してきた。このような素晴らしい経験をすることができたのは、直接関わった方だけでなく多くの方々の協力があったからであることを知り、自分は多くの人々に支えられているということに気付くことで、日頃の生活の中でも自分を支える人々への感謝の気持ちをもって生活できると考える。

そのような心の成長を土台として、ファーストスクールでの学習でも、自分で課題を見付け、それを解決していく力をさらに身に付けていけるよう、指導していく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・初日に八海山ロープウェイで八海山展望台に登ったことで、これから一週間過ごす南魚沼の地形や自然を観察することができた。
- ・宿ごとの活動では、周辺散策や農作業、パン作りなど、実施地や宿主さんの特性を生かした活動をすることができた。
- ・セカンドスクール終了後の学習では、以前よりも男女が協力して、仲良く学習に取り組む姿が見られるようになった。
- ・しいたけパックセンターの見学や、日本大学セミナーハウスでの天体観測が感染症拡大防止の観点から中止となった。例年、充実した教育活動となっているので、引き続き見学依頼をしていく。
- ・J A カントリーエレベーター見学では、搬入トラックの出入りが多く、カントリーエレベーターに近付いて見学することができず、屋外でJ Aの方の話を聞くだけになってしまった。また、施設の方の話も周りの音の影響でほとんど聞こえなかった。実地踏査の際に、カントリーエレベーター内の見学、もしくはできるだけ近くで見学できるよう相談しておく。
- ・事業評価では、すべての力において得点低下が見られた。
- ・「失敗しても立ち直りが早い。」、「前向きに、物事を考えられる。」の平均値が特に上昇した。わらぞうりづくりなどで、あきらめず粘り強く取り組んだ成果と考えられる。さらに、「多くの人に好かれている」も上昇した。6日間、現地の人々の温かさに触れ、学級の仲間と集団生活を送ったことが理由の一つとして考えられる。
- ・「自分からすすんで何でもやる。」、「自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる。」の平均値が特に低下した。セカンドスクール期間中には、班長や指導員が責任感から、積極的に声掛けを行っていた。そこで、「自分から」という部分において低く評価した児童がいると思われる。今後の学校生活において、委員会や当番活動、行事において、これらの力を意識して伸ばしていきたい。また、係分担の事前指導の充実や、指導員の児童へのかかわり方についても、次年度に引き継いでいく。

井之頭小学校

9月22日～9月27日(5泊6日)

長野県飯山市

参加人数 男子43名 女子54名
計97名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・飯山での体験活動を通して、飯山の自然と人との関わりについて理解を深める。
- ・飯山の自然とのふれあいや現地の人の話を聞く活動を通して、自然を利活用していることを知り、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・飯山のまちのよさについて、調査や体験したことを基に各自で考え、それらをグループとして統合、表現する活動を通して、情報を基に考える力を育成する。
- ・自己の課題を設定し、見学や活動を通して飯山について学んだことを整理し、よりよい活動にしようとする態度を育てる。
- ・長期に渡る集団生活を通して自立した生活を送る技能を身に付けたり、友達と協力したりして、目標を達成するための話し合いや合意形成の図り方の理解を深める。
- ・現地の方々との関わりや体験活動を通して、飯山における課題を自分事として考える力を育成する。

○日程表

9月22日(木)		9月23日(金)		9月24日(土)		9月25日(日)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
8:00	出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:45	戸狩到着	9:00	郷土食体験	9:00	ブナ林散策	9:50	飯山線乗車
	昼食	11:30	昼食	12:30	昼食	10:10	寺町めぐり
13:45	開校式	13:30	脱穀体験	14:00	雪国のくらし学習	12:00	昼食
15:00	箸作り	16:00	入浴	15:00	手紙書き	15:00	スケッチ
17:00	健康観察	17:00	健康観察	17:00	健康観察	17:00	健康観察
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴	19:00	感謝の会の準備	19:00	入浴	19:00	入浴、暗闇体験
20:00	振り返り	20:00	振り返り	20:00	振り返り	20:00	振り返り
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝

9月26日（月）		9月27日（火）	
6:00	起床	6:00	起床
7:00	朝食	7:00	朝食、大掃除
9:00	課題別学習	9:30	閉校式
12:00	昼食	10:00	戸狩出発
13:30	宿ごと勤労体験	12:00	昼食
16:00	健康観察	15:00	学校到着
17:30	夕食		帰校式
18:15	感謝の交流会	15:30	解散
19:45	入浴、振り返り		
21:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・飯山市の「自然・動物」「農業・くらし」「歴史」「食文化・伝統文化」「気候・自然」などのテーマについて個人課題を決め、本やインターネット等を使って調べ学習を行った。調べた内容は学習者用コンピュータを用い、Google スプレッドシートや Google スライドなどにまとめた。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで体験したことや学んだこと、成長したことなどを作文にまとめた。
- ・学んだことや伝えたいことをテーマごとに Google スライドにまとめ、4年生に向けて発表した。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 ブナ林ハイキング

各宿のお父さん方をガイドとして、茶屋池周辺に広がるブナ林のハイキングを実施した。ハイキングの前に、ブナの特徴や水源林についてのお話を聞いた。ハイキングの途中、ブナに触れたり、落ち葉の堆積した地面を踏みしめたり、木の表面を観察したりしながら、豊富な水を蓄えるブナの木の特色や、自然環境の中で果たす役割について肌で触れながら学ぶことができた。山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、生き物や人間と自然がどのように関わっているのか実感することができた。



【ブナ林ハイキングの様子】

2 暗闇体験(星空観察)

日が落ちて真っ暗になった飯山の道を歩き、満天の星を観察した。東京の街とは異なり、街灯や家、店の明かりがなく、今までに体験したことのない暗闇に子どもたちはわくわくした様子だった。また、暗闇の中で見る星空は、天の川までくっきりと見え、感動しながら観察していた。

<社会体験活動>

1 脱穀体験

脱穀体験では、刈り取った稲を束にして、千歯こきや足踏み脱穀機を使って脱穀を行った。脱穀体験の前に、宿のお父さんから稲が成長するための条件や品種に関するお話を聞いた。

体験の中で、稲に米の粒は何粒付いているのかを観察した。実際に昔の農家の方が行っていることを体験することで、収穫の苦勞を知ることができた。



【脱穀体験の様子】

2 宿ごとの勤労体験

宿ごとに勤労体験を行った。稲刈りやはぜかけをしたり、野菜の収穫をしたりと、主に畑や田んぼでの活動を行った。児童は自分で野菜を収穫することの大変さとともに、嬉しさも実感した。夕食時に自分で収穫した野菜を食べたときは「自分たちで収穫したんだよ。」と得意げに話し、自分たちで働いて食べ物を得ることの達成感を味わうことができた。

<生活・文化体験活動>

1 箸作り体験

箸作り体験では、竹を割りナイフで先を削って細くし、セカンドスクール期間中の生活で使用する箸を作る体験を行った。生活の道具を自分の力で作ることができ、子どもたちは満足気だった。また、友達同士で手伝ったり、声を掛け合ったりしながら制作する様子が見られ、協力して作業することの大切さを知ることができた。

2 郷土食体験

郷土食体験では、飯山の郷土料理である「笹寿司」と「天上焼き」を作った。笹寿司を作るため、藪に入って笹を収穫した。また、この料理にどんな願いがこめられているか、地域でどのように親しまれているかを知ることができた。自分で作った料理を味わいながら、飯山の食文化を身近に感じることもできた。



【笹寿司づくり体験の様子】

3 寺町めぐり(飯山城址、飯山シャンテ見学)

飯山城址と飯山シャンテ、寺町を見学した。戸狩野沢温泉駅から北飯山駅までの飯山線での

移動の際には、東京とは違うディーゼル車や単線での運行であることに驚いていた。飯山市中心部を徒歩で散策しながら、地域の特徴や地理的状況を知るだけでなく、地域の飯山の歴史、文化、産業、伝統工芸に触れることができた。

4 課題別学習

飯山市について知りたいことを、「自然・植物・動物」、「文化」、「観光・名所」、「暮らし・学校」、「歴史」、「農業」のテーマに分け事前学習を行い、宿ごとに活動内容を考えていただいて課題別学習を実施した。課題について事前に調べておくことで、より主体的に学習に取り組むことができた。現地の方の話を聞いたり、実物に触れたり見たりすることで、事前学習では分からなかった自然の豊かさや暮らしの工夫など、学びをより深めることができた。

○児童の感想

- ・ブナ林ではブナの葉がたくさん落ちていて、ブナ林の葉はすべてこの大きな木から落ちてきているのだと思い、自然は不思議で美しく、素晴らしいものなのだなと思った。
- ・宿のお父さんが飯山の観光名所について案内してくれて、「飯山にはこんなに素晴らしいものがあるのだな。」と思った。知らない人に挨拶したり、お礼を言ったりすることができるようになった。
- ・飯山で学んだことを、テーマごとに Google スライドにまとめた。宿のお父さんやお母さん、指導員さん、4年生に伝えるように工夫した。
- ・毎日の振り返りの時間に、自分たちの活動の良かったところや直したほうがよいところを振り返り、次の日の活動に生かすようにした。
- ・人の話を意見が違っても最後まで聞くということの大切さを実感した。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・社会科の「雪国の人々の暮らし」、「米づくりのさかんな地域」において、飯山市の話を織り交ぜ、関連付けながら指導することができた。
- ・セカンドスクール実施後、学校生活において次に何をすべきかを考え行動する児童の姿が多く見られるようになった。
- ・様々な場面において協力する姿がより多く見られるようになった。授業での話し合いや、セカンドスクールの事後学習の発表準備では、互いの意見を聞き合い、協力しながら活動することができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・子どもたちの「生きる力」を測るアンケートにおいて、「先を見通して、自分で計画が立てられる」の変容は、事前から事後にかけて 10 ポイント以上向上した。長期的な集団生活の中で、自分で身の回りの整理を行ったり、しおりや時計を見て、先を見通しながら行動し

たりする経験を通して、向上したと考える。

- ・「暑さや寒さに負けない」の変容は、事前から事後にかけて 10 ポイント以上向上した。稲刈りや勤労体験、寺町めぐり、星空体験など、武蔵野市では体験できない魅力的な活動を多く取り入れたことで、向上したと考える。
- ・「小さな失敗を恐れない」の変容は、事前と事後で 15 ポイント以上大きく向上した。セカンドスクールでは、長期的な集団宿泊生活や箸作り、稲刈りなど、初めての経験を通して、失敗しても友達が協力してくれたり、宿のお父さんお母さんが助けてくれたりしたことで、失敗を恐れず行動する力が向上したと考える。
- ・「自分で問題点や課題を見付けることができる」の変容は、事前と事後で 15 ポイント以上大きく向上した。事前学習を通して設定した自分の課題を現地で調べたり、現地学習を通して疑問に思ったことを宿のお父さんに聞いたりしながら学習を進めた経験を通して向上したと考える。
- ・行程の 1～3 日目が雨天だったが、2 日目に予定していた稲刈りを屋内での脱穀体験に変更するなど、行程を大きく変えずに工夫して実施することができた。
- ・寺町めぐりの際に宿から湯沢温泉駅を徒歩で移動したが、歩行距離が長かった。来年度には、バス移動ができないか検討していく。
- ・普段なかなか屋外の広い場所で遊ぶ経験のない子どもたちが、生き物を探したり、植物に触れたり、自然の中でのびのびと遊ぶ姿が印象的だった。プログラムの隙間の時間も、子どもたちは存分に楽しむことができていたと感じる。
- ・進んで人のために行動する子どもたちの姿が見られた。例えば、脱穀体験のときには、落穂を集めたり、後片付けとして藁を集めたりするのを、教員が指示するのではなく率先して行っていた。教室に戻ってからも、そのような行動が増えたように感じる。
- ・自分の生活を自分で整えることを、子どもたちは特に学んでいた。教室にいるときよりも時間に気を付けたり、自分の持ち物を管理したりする姿が見られた。

関前南小学校

9月28日～10月3日(5泊6日)

長野県飯山市

参加人数 男子36名 女子30名
計66名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・体験活動や現地の人々の話を通して飯山市の自然の特色を知り、自然の偉大さを実感することができる。
- ・飯山市の自然の特色を生かした取り組みを知り、自然とのつながりについて考えることで生命を尊重しようとすることができる。
- ・飯山市の様々なテーマ（自然・暮らし・農業・観光・伝統）について学習課題を設定し、体験活動や現地の人々の話から必要な情報を集め、整理してまとめることができる。
- ・体験活動や現地の人々の話から学習したことをまとめ、振り返ることができる。
- ・保護者や4年生にセカンドスクールで学習したことをまとめる際には、相手意識をもって分かりやすくまとめ、表現をすることができる。
- ・飯山市について学んだことを、武蔵野市の自然・暮らし・農業・観光・伝統と比べて魅力を発信したり、課題を提示したりすることができる（武蔵野市民科）。
- ・友達と協働的に取り組み、互いの考えやよさを認め合いながら多様性を尊重しようとする態度を養うことができる。
- ・自分自身の役割を自覚し、積極的に行動することで、自律した生活を送ろうとすることができる。
- ・宿でお世話になる方に感謝の思いをもち、他者とよりよく関わろうとすることができる。
- ・自身の家族と離れて生活することで、家族の思いを知ったり、自分の思いを表現したりすることができる。

○日程表

9月28日(水)		9月29日(木)		9月30日(金)	
7:15	学校集合、出発式	6:30	起床、健康観察	6:30	起床、健康観察
7:45	学校出発	7:15	朝食	7:15	朝食
12:00	戸狩到着	8:30	お米作りのお話	9:00	茶屋池ハイキング
12:15	昼食		稲刈り、脱穀体験	11:00	餅つき体験
13:15	開校式	12:00	昼食	12:00	昼食
13:30	各宿到着	14:00	金崎さんちのお米見学	13:15	飯山についての学習
13:45	避難訓練	16:00	健康観察、入浴	(ふるさと館、伝統産業会館、 手すき和紙体験工房)	
14:00	荷物整理	17:00	薪割り、火起こし		
14:30	自己紹介	18:00	夕食	16:00	洗濯
15:00	箸作り	18:30	感謝の会準備	16:30	健康観察、入浴
16:00	周辺散策		学習の振り返り	17:30	薪割り、火起こし、ご飯炊き
17:00	健康観察、入浴	19:30	星空観察	18:30	夕食
18:00	夕食	21:30	消灯	19:30	感謝の会準備
19:30	学習の振り返り				学習の振り返り
21:30	消灯			21:30	消灯
10月1日(土)		10月2日(日)		10月3日(月)	
6:30	起床、健康観察	6:30	起床、健康観察	6:30	起床、健康観察
7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
8:30	スキー場の周辺散策	8:30	北竜湖カヌー体験	8:00	荷物整理
10:00	野外炊飯	12:00	昼食	8:30	奉仕活動
12:00	昼食	13:30	宿別体験(収穫、郷土食)	9:30	閉校式
13:30	感謝の会準備	16:00	健康観察、入浴	10:30	出発
14:30	わら細工体験	17:00	夕食	11:30	昼食
17:00	健康観察、入浴	18:30	学習の振り返り	16:00	学校到着、帰校式
18:00	缶詰し作り体験	19:00	感謝の会	16:30	解散
18:30	夕食	20:00	荷造り		
19:30	学習の振り返り	21:30	消灯		
	家族への手紙				
21:30	消灯				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科では、お米の生産、流通、販売の一連の流れを学習し、稲作に携わる人々の工夫や努力を学習した。
- ・総合的な学習の時間では、稲を育てた。種もみ→芽だし→種まき→田植え→中干し→落水→稲刈りの順に、実際に自分たちで稲を育て、お米を育てることは大変な苦労があることを実感できる学習となった。
- ・総合的な学習の時間での、飯山市についての学習では、「自然」「暮らし」「農業」「観光」「伝統」の観点別に本やインターネットで調べ学習を行った。その後、課題設定をし、セカンドスクールの活動を通して問題解決をすることができるように見通しをもった。
- ・学級活動では、セカンドスクールを通して目指したい自分の姿を考えた。目指す自分の姿を実現することができるよう、自分のめあてを設定し、セカンドスクールの意義付けをした。

2 事後の学習内容

- ・国語科で、セカンドスクールでの体験を作文にし、学習したことや今後に生かしていきたいことをまとめた。
- ・国語科で、セカンドスクールでお世話になった宿の方に、挨拶のはがきを作った。
- ・総合的な学習の時間で、セカンドスクールの活動内容や現地の様子などを、4年生に向けて発表し、4年生がセカンドスクールに興味をもてるようにした。
- ・総合的な学習の時間で、飯山市の「自然」「暮らし」「農業」「観光」「伝統」の観点で学習したことを踏まえ、武蔵野市も同じ観点で調べ学習をした。その後、飯山市と武蔵野市を比較しながら、武蔵野市のよさや魅力について発信することで社会参画をした。(武蔵野市民科)
- ・家庭科で、飯山市で脱穀したお米を使ってご飯を炊き、いただいた。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 茶屋池ハイキング

昨年度行ったプレセカンドスクールでは、植林体験や丸太切り体験を行っている。また今年度は、林業を生業としている企業の方から、植林や間伐についてのお話をいただいた。これらの体験活動や学習を通して、児童は木の役割や間伐の必要性について知っている。

セカンドスクールでは、これらのことを踏まえて体験活動を設定した。ハイキングでは、ブナ林のある茶屋池の周辺を歩いた。宿の方を先頭に、植物や生き物の説明を詳しく聞いた。茶屋池の特色はブナの木があることである。ブナの木があることで、雪解けの水を蓄え、やがて茶屋池に貯まる。この水は、お米作りをしている人たちにとっては生命線ともいえる。飯山市の美味しいお米は、雪解け水が鍵になっているということを学ぶことができた。林業への理解をより深める体験活動とすることができた。

2 北竜湖カヌー体験

「普段とはちがう体験をすること」をコンセプトにしているセカンドスクールの中では、非日常を味わえる体験活動であった。宿の方から、パドルの取り扱い方や万一落ちてしまったときの助けの求め方を事前に学んだ。ほとんどの児童が初めてであったが、時間がたつにつれ、二人で息を合わせて進むことができた。北竜湖は大きな湖のため、飯山市の自然の雄大さを実感しながら、体験することができた。



【カヌー体験の様子】

＜社会体験活動＞

1 稲刈り、脱穀体験

稲刈り体験、脱穀体験を行った。宿の方から、稲について様々な知識を教えていただき、お米一粒一粒のありがたみを知ることができた。その後、鎌を使った稲刈りを行った。刈り取った稲を紐でしっかりとまとめ、千歯抜きや足踏み脱穀機を使用して、脱穀作業を行った。昔の人は稲刈り、脱穀をするのは多くの時間がかかっていたことを知り、その大変さを実感することができた。最後にコンバインでの収穫の様子を見学した。収穫のスピードの速さに驚き、機械化の偉大さを再認識することができた。



【稲刈り体験の様子】

2 農作物の収穫体験

各宿での体験活動では、農作物の収穫体験をしたところがあった。さつまいもや落花生を収穫し、収穫の嬉しさとありがたさを実感することができた。宿の方には、畑の説明をしていた。野沢菜や蕎麦、アスパラガスが畑で育てられている様子を初めて見る児童が多く、自分たちが日頃から食べているものがどのように育てられているかを知ることができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 わら細工体験

各宿での体験活動として、わら細工体験を実施した。稲刈り体験をしたときの藁を使用して、束ねたり、丁寧に編み込んだりして亀を作った。脱穀した後の藁を活用することで、昔の人の知恵を知ることができた。また、藁とひもだけで自分だけのわら細工を完成したときの達成感を味わうことができた。

2 手すき和紙体験

飯山市では「内山紙」が伝統工芸品となっている。飯山市伝統産業会館で和紙の製作工程や材料について学んだり、手すき和紙体験工房で手すき和紙体験をしたりした。体験工房では、自分だけのはがきサイズの和紙を作った。和紙一枚が出来上がるまで、様々な工程があり、多くの手間がかかっていることを学ぶことができた。



【紙すきの様子】

○児童の感想

- ・人の気持ちを考えることを学びました。自分が言った言葉で相手が傷付いていないか、自分がやった事で相手が傷付いていないか、この六日間みんなとずっといたので、そういうことがよく分かりました。
- ・火起こし、野外すい飯では、みんなとどうやったら長く火が燃えて、燃やす材料をどのようにレイアウトするのかということを話し合い、協力して成し遂げることができました。
- ・今までご飯を一粒二粒こぼしても、もったいないとあまり思いませんでした。しかし、稲刈り体験や宿の方からの話を聞いて米一粒に対する気持ちが変わりました。
- ・カヌー体験では、二人で息を合わせて漕ぐのがむずかしかったけれど、何回も漕いでいると、お互いに慣れてきて、息が合うようになりました。漕いでいて気持ちよかったです。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・事前に学習したこと、実際に体験したこと、事後に学習したことを結び付けながら考えることを通して、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめという課題解決を意識しながら学習しようとする姿が見られるようになった。
- ・各宿でのトラブルが発生したとき、話し合いを通して積極的に解決しようとしたことで、学級やグループ活動における円滑な話し合いや、相手を尊重しようとする態度がより育まれた。
- ・これまでの体験したことがない活動であっても、自主的に宿の方に質問することを通して、粘り強く課題に取り組もうとする姿が見られるようになった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・セカンドスクール実施前と後で子どもたちの「生きる力」を測るアンケートを行い、事業評価を行った。稲刈り体験、火起こし体験、ご飯炊き、カヌー体験など、学校ではできない魅力のある体験活動を取り入れたことで、「身体的能力」が 100 ポイント向上したと考える。また、わら細工体験、収穫体験などの宿別の体験では、友達と一緒に過ごすことが多く、お互いに声をかけ合いながら、助け合ったことで、「心理的・社会的能力」が 214 ポイント、「道徳的能力」が 95 ポイント向上したと考える。今年度のセカンドスクール全体として、多様な活動を取り入れたことにより、各項目で数値による向上が見られ、「生きる力」が 409 ポイントと大きく変化が見られたのは、長期宿泊体験活動ならではの成果である。
- ・児童の活動状況を勘案し、活動内容の精査を求める声があったが、おおむね適切であったと考える。多様な体験活動をすることで、セカンドスクールのねらいに到達することができた。また、活動内容も事前にねらいを確認しながら、児童が主体的に取り組める活動に絞っている。次年度も、同様の日程や活動内容で差し支えないが、児童の実態に応じて、柔軟に対応することが求められそうである。
- ・今年度は、ほとんどの日が晴れまたは曇りであったため、雨天プログラムの実施はなかった。次年度に向けて、雨天プログラムを設定しているが、ねらいに合わせた見直しが必要である。

桜野小学校

長野県飯山市

9月17日～9月22日(5泊6日)

参加人数 男子77名 女子72名
計149名

○セカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力

- ・生活上の自立や共存に必要な知識・技能を身に付けること。
- ・飯山市と武蔵野市を比べて違いに気付き、生活に生かすこと。
- ・米作りの努力や工夫について知ること。
- ・自ら課題を設定すること。
- ・体験を通して課題に対する情報を集め、整理・分析してまとめる力を育むこと。
- ・児童相互の協力や、児童と現地の方々、指導者、教師との信頼関係と人間関係を深めること。
- ・探究的な学習に取り組もうとすること。

○日程表

9月17日(土)		9月18日(日)		9月19日(月)		9月20日(火)	
7:40	学校集合 出発式	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食
8:00	バス乗車・出発	9:00	米作りの話	9:00	笹ずし作り	9:00	はし作り
12:30	昼食 (東部湯ノ丸SA)	10:00	稲刈り	12:00	昼食	12:30	昼食
15:00	戸狩到着 開校式 部屋割り 里山散策	12:30	昼食	14:00	わら細工体験	14:30	宿ごと食体験
18:00	夕食	13:30	脱穀	16:30	手紙書き	18:00	夕食
21:30	消灯	18:00	夕食	17:30	夕食 (バーベキュー)	21:30	消灯
		19:30	星空体験	21:30	消灯		
		21:30	消灯				
9月21日(水)		9月22日(木)					
6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食				
9:00	飯山市ふるさと館 和紙すき体験 雁木通り見学 伝統産業会館見学	8:00	大掃除 荷物整理				
		9:30	閉校式				
		9:50	戸狩出発				
12:30	昼食	12:00	昼食(横川SA)				
14:00	茶屋池ハイキング	15:30	学校着 帰校式				
18:00	夕食	15:50	解散				
20:00	感謝の会						
21:30	消灯						

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科の授業で行った「寒い土地の暮らし」の学習において、長野県飯山市の地理や雪国の暮らしにふれ、現地に行った折の学習への意識付けを図った。また「米づくりのさかな地域」の学習では、稲作の仕事内容やカントリーエレベーターの役割について学習し、日本の食料生産の抱える問題点やこれからの農業について理解を深めた。
- ・1学期の総合的な学習の時間「お米博士になろう」の単元で、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。バケツで稲を育て、稲穂が実るまでの様子を学校や家で継続して観察した。
- ・2学期の総合的な学習の時間「見つけよう・関わろう・発信しよう セカンドスクール」の単元では、長野県飯山市についての事前学習を行った。「自然」「雪国の生活」「郷土食」「歴史・文化」「気候・地形」「米」「伝統工芸」などのテーマについて個人の課題を決め、調べ学習を行った。

2 事後の学習内容

- ・設定した課題についてセカンドスクール中の記録や見学の際にいただいた資料などを活用して、新聞、報告書、Google スライド等にまとめた。また、セカンドスクールで体験した活動について4年生に紹介した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ブナの森ハイキング(茶屋池ハイキング)

ハイキングでは、ブナに触れたり、木の実を拾ったりしながら、ブナの特色や、自然環境に果たす役割などについて肌で触れて学ぶことができた。「なぜ飯山の米がおいしいのか」ということについて、ブナの森が蓄えた豊富な水が大きな役割を果たしているということを知ることができた。森に棲む生物、生息しているきのこ、植物などについても目の前で見たり触れたりしながら学習することができた。宿の方がガイドとなって説明をしてくださり、様々な疑問がその場で解決されていった。

2 星空体験

東京ではなかなか体験できない、街灯のない真っ暗な道を歩く体験を行った。あいにくの曇り空で星は見ることはできなかったが、武蔵野市の夜の暗さとは異なる暗闇を体験することで、暗闇の怖さを知ることができた。また、暗さにより、聴覚で自然の音を感じ取ったり、大自然を肌で体感したりすることで、自然への畏敬の念を育む貴重な体験となった。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り・脱穀)

作業の前に田植えから収穫までの農作業の流れ、飯山市の地形的特徴、稲作には水が重要であることについて宿の方に話していただき、米や稲刈りへの関心や意欲を高めることができた。宿の方々の指導で、稲刈り・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や刈った稲のまとめ方を習った。児童は習ったことを生かし、勢いよく手前に引くように刈っていった。実際に体験してみると、稲刈りが想像以上の重労働であることに気づき、農作業機械化のありがたみを実感していた。

脱穀では、千歯扱・足踏脱穀機・ハーベスターの3種類の農具を体験した。足踏脱穀機は足を踏むタイミングが上手いしないと機械の回転が止まったり、逆回転になったりしてしまう。足で踏みながら、手で稲を丁度良い位置に合わせるという複雑さを味わい、楽しんでいた。ハーベスターは機械に稲を通すだけで脱穀ができる。ここでもまた、機械のありがたみを実感することができた。

この農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものである。宿の方との語らいの時間では、脱穀後の精米や保管、出荷するまでの流れについて話していただいた。一日を通して稲刈り・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えることができた。

また、3日目に行ったわら細工体験では、もみを落とされたわらを再利用し生活用品に生まれ変わらせるという、先人の知恵を体感することができた。主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について学ぶことができた。



【稲刈りの様子】



【脱穀の様子】



【わら亀作りの様子】

<生活・文化体験活動>

1 笹ずし作り体験

宿の方の指導で、「笹ずし」作りを行った。笹ずしの起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味を持っていた。また、木々を分け入って笹を取りに行くところから始めた宿もあった。達成感もあったのかおいしそうに食べている様子がみられた。

2 宿ごと食体験

宿ごとの食体験では、りんごジャム作り、餅つき、おやき作り、ピザ作り等を行った。りんごジャム作りではりんごを細かく切り、鍋で煮詰めてパンなどにつけて食べた。餅つきでは米をふかした後、宿のメンバーで餅をついて、醤油やきな粉をまぶ



【食体験の様子】

して食べた。おやき作りやピザ作りでは、飯山で採れた新鮮な野菜を具材にして作った。どの宿も武蔵野市では体験できない活動ばかりで、意欲をもって活動でき、自分で作り上げたという満足感を味わうことができた。

3 和紙すき体験

国が定める伝統的工芸品が長野県に9つあり、飯山市には「内山紙」と「飯山仏壇」の2つがある。内山紙は冬の寒さを生かして作成した和紙である。飯山和紙すき体験工房では、和紙すき体験を行った。

和紙すき体験の前に、和紙の作り方や歴史についての説明を受けた。原料となる楮が紙に変化していくことに驚く児童もいた。和紙すき体験では、液の中で繊維が均等に入るように上下左右に木杵を揺らしながらすき、葉書サイズの和紙をすいた。木杵を上手に持たないと繊維の入った液がこぼれてしまうので、児童は工房の方の指示に従って慎重に作業をしていた。その後、自分の好きな色紙の飾りをのせ、アレンジした。すいたものは工房の方に処理していただき、後日お土産として自分オリジナルの和紙を持ち帰ることができた。

○児童の感想

- ・稲刈りも脱穀もとても大変だった。お米を食べる前段階で、こんなにも手間がかかるとは思わなかった。これからは、一粒一粒大切に食べたい。
- ・ブナの木に顔を付けたときとても冷たくてびっくりした。それだけ水を多く含むのだと思った。ブナの森が豊かな水資源をつくる森だということが分かった。
- ・友達とけんかをしてしまったとき、始めは強引に解決しようとしてさらにけんかになった。相手の気持ちを考えて話し合うことで解決できた。これからの学校生活でも、いざというときにこの経験を思い出したい。
- ・出発式では、切り替えが遅くて友達とおしゃべりをしてしまったので、出発が5分遅くなった。でも、帰校式では、すぐに話が聞けてスムーズに終わった。自分たちの成長を感じたし、全体のことを考えて切り替えをすることが大切だと思った。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

児童は飯山での自分で米や野菜を収穫する体験を通して、生産者の苦労や思いを知ったことから、食に関する意識の高まりが感じられる。セカンドスクール後に社会科で学習した「これからの食料生産とわたしたち」では、農業のこれからについて、宿のお父さんやお母さんから聞いた話と関連付けて考えを深めていたようである。学習課題を自分の身に引き寄せて考えようとする姿が見られ、実感を伴う学習活動の重要性を感じた。

身の回りの整理整頓をはじめ、家族や教師に頼りがちだった児童も、家族と離れて生活し、民宿の方々や友達にお世話になることで、自分のことは自分でできる限りやっという姿勢が見えた。また、様々な人の力を借りて生活できていることに気付き、感謝の気持ちを持ち、相手に伝えようとする態度が見られるようになった。

また、セカンドスクールを通して人と関わり合うことの大切さを学ぶことで、協力しようとしたり、助けようとしたりする姿が多く見られるようになった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 5泊6日の長期間の宿泊学習の間、宿での生活で発生したトラブルを解決したり、学校生活では見えない友達の新たな一面に気付いたりすることで、児童同士の関係性が深まった。
- ・ 指示を待つのではなく、自分たちで考え、声を掛け合って行動できるようになった。
- ・ 稲刈り、脱穀、ブナの森ハイキング等、事前学習で学んだことを実際に見たり経験したりすることで、実体験を伴った知識として習得できた。
- ・ 5日目のブナの森ハイキングは、児童の疲労の蓄積を考慮し、時間を短縮した。2日目や3日目等、行程の前半に行い、十分にハイキングの時間を確保できるようにする必要がある。
- ・ 宿での過ごし方やわら細工の内容など、全体で統一している部分があったが、「ニュースや天気予報を見て、東京都の違いを感じさせる。」「児童の実態に応じて、わら細工の内容を簡略化する。」等の助言を宿の方にいただいた。宿元の裁量に任せて、柔軟に対応できる部分も必要である。

【「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査の傾向分析】

セカンドスクール後に特に上昇が見られた項目は「3. 先を見通して、自分で計画が立てられる」「11. 自分からすすんで何でもやる」「20. 季節の変化を感じることができる」「21. だれとでも仲良くできる」「28. お金やモノのむだ使いをしない」の5つの項目である。

項目20番は、セカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力のうちの自然を愛する心に該当する。飯山市の豊かな自然環境に触れ、一面に広がる稲穂を目にしたりブナの森ハイキングを経験したりすることで、より強く季節の変化を感じ取ったものと考えられる。

項目3番、11番、及び28番については、セカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力のうちの自己実現に該当する。自分の係分担を担い、リーダーシップを取りながら責任をもってやり遂げることで児童たちが自分自身の成長を自覚したと考えられる。

項目21番については、セカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力のうちの人間関係に該当する。長期の宿泊を経て、他者と協同的に関わる態度や、けんかすることがあっても話し合いお互いに納得して解決しようとする姿勢を経験することで身に付いたものと考えられる。

セカンドスクール後に減少が見られた項目は「9. 自分のことが大好きである」「17. 自分で問題点や課題を見つけることができる」の2つの項目である。

項目9番については、今回のセカンドスクールが児童にとって初めての自分以外の同世代と長期間生活したことが関係していると考えられる。児童たちにとって初めての宿泊行事であったこと、またコロナ禍前の児童と比べて同世代との関わりが少なかったことから、今回のセカンドスクールで他者と生活を共にし、自分を客観的に見つめるきっかけになったのではないかと考えられる。

項目17番については、今回のセカンドスクールでは事前に課題を整理してから活動に臨んだために、セカンドスクール最中では課題を見つける意識が低かったことが原因と考えられる。

中学校セカンドスクール



第一中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月20日～9月24日(4泊5日)

参加人数 男子55名 女子45名
計100名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・教科の枠にとらわれず、自然体験的な活動や自然の触れ合いを通して、自ら考え、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。
- ・長野や白馬の自然に触れるとともに環境保全への取り組みを聞くことで人と自然が持続的に共生する大切さを理解する。
- ・問題解決的な学習や体験学習活動を通じて、自ら考え、主体的に学ぶ意欲を高めるとともにセカンドスクールの体験を通して学んだ問題解決的な学習や主体的な学びを、ファーストスクールの学習に生かす。
- ・1998年に冬季オリンピック・パラリンピック大会を開催した長野県白馬地区から、有形無形のオリンピックレガシーがどのように継承されているかを知り、自分たちの暮らしや生き方にどう役立てていけるかを考え、これからの生活に生かす姿勢を身に付ける。
- ・寝食を共にすることでこれまで以上に学年・学級の親睦を深める。また、共同生活から集団の一員としての行動を学び、自主自律の精神を身に付けさせる。
- ・現地や民宿の方々との交流を通して自分と異なる考え方や感性に触れ、多様な考えを受容し将来に必要な社会性を身に付ける。

○日程表

9月20日(火)		9月21日(水)		9月22日(木)	
6:50	一中集合、出発式	6:00	起床、健康チェック	6:00	起床、健康チェック
7:05	バス出発	6:45	朝食、出発準備	6:30	朝食、出発準備
11:00	安曇野 I C	8:00	退館式、ホテル出発	8:15	各民宿出発
12:00	白馬村ジャンプ競技場到着 昼食、見学	9:00	扇沢駅到着、黒部ダム駅出発	8:30	八方尾根トレッキング開始
15:00	ホテル五龍館到着、入館式	9:46	黒部ダム駅着【見学約3時間】	12:45	昼食(兎平レストハウスにて)
18:00	夕食	14:10	扇沢駅出発	14:00	兎平駅出発
20:30	班長会議、班会議	15:10	白馬村到着、入村式	15:00	民宿到着、食作り体験
22:00	就寝		各民宿到着後、オリエンテーション	18:30	夕食
			夕食、宿との交流	19:30	宿との交流(各宿にて)
		21:00	民宿班会議	21:00	民宿班会議
		22:00	就寝	22:00	就寝

9月23日（金）		9月24日（土）	
6:30	起床、健康チェック 朝食、出発準備	6:00	起床、健康チェック 朝食、出発準備
9:00	圃場集合 学年レク	9:30	五竜第四駐車場出発
12:00	昼食	10:00	エスカルプラザ到着 白馬村の地域活性化学習
14:00	もの作り体験 農作業体験	11:15	昼食
18:00	夕食	11:50	退村式
19:30	オリパラ学習	12:10	白馬村出発 調布 I C
21:00	民宿班会議	17:15	学校到着、解散式、解散
22:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・J A 大北の方を学校へ招き、白馬村の自然や観光、農作業、長野オリンピック・パラリンピックについて学習した。
- ・長野県、白馬村、長野オリンピック・パラリンピック、黒部ダムに関連するテーマを選択し、書籍やインターネット等を用いて個人新聞を作成した。
- ・お世話になる民宿へ送る自己紹介カードを作成した。
- ・自主自立をめざし、実行委員を中心にスローガンや生活の決まりの作成を行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだことや自分の成長をテーマに作文を書いた。
- ・現地で学んだことを一人一人が画用紙にまとめ、行動班ごとに学級・学年発表を行った。
- ・選ばれた班は、来年度新入生に向けて発表を行う予定である。
- ・お世話になった民宿へ、お礼の手紙を書いた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八方尾根トレッキング

3名のガイドさんをお呼びし、八方尾根トレッキングを体験することで白馬の雄大な自然を実感し、自然の良さや大切さを学ぶことができた。また、登山でのいくつかのルールやマナーを知り、実践することで社会の中での約束事や気遣う意識を確認する場にもなった。途中であきらめる生徒はおらず、達成感を感じたようであった。

＜社会体験活動＞

1 農業体験

各民宿に分かれ、さつまいも等の野菜の収穫を行った。天気の関係でミニトマトの栽培見学を行うことができなかったが、最終日に農家の方から栽培の大変さや収穫の喜びなどのお話を聞かせていただいた。また、昼食時に新鮮なミニトマトを試食する機会にも恵まれ農産物のおいしさを改めて実感することができた。



【さつまいも掘りの様子】

＜生活・文化体験活動＞

1 オリンピック・パラリンピック学習

1998年の長野冬季オリンピック会場となった白馬ジャンプ競技場を見学した。当時のオリンピックの様子や取り組みについてのお話をいただき、オリンピック・パラリンピックの意義を実感した。一方で、『負の遺産』という観点からのお話を聞くことができ、東京オリンピック・パラリンピックと関連させながら自分事として考える姿が見られた。

2 食作り体験

民宿ごとに様々な食作り体験に取り組んだ。おやきや笹寿司、そば打ちなど地元食材を利用した郷土料理を協力しながら作り、実際に自分たちで食べることで作る喜びを感じていた。宿舍班の皆と協力しながら作業を行うことで、協調性を身に付けることができた。

3 もの作り体験

わら細工、飾りパン、フォトスタンド、マイ箸、森のえんぴつ作りなど宿舍ごとに体験を行った。民宿の方や仲間に教わりながら、生徒一人一人の個性が見られる素敵な作品を完成させた。現地の材料を使用し、地域の伝統的なものの作りを知るよい経験となった。



【森のえんぴつ作りの様子】

4 黒部ダム見学

職員の方のお話や、当時の工事の様子が分かるDVDを食い入るように見ている生徒の姿が多くあった。また、放水の迫力に感動している生徒も多く、ダムから湧き出ている力強さに先人の大事業の偉大さを感じることができた。

○生徒の感想

- ・ 出会って5か月の友達と4泊5日も一緒に過ごすのは少し不安だったが、意外な一面を発見することができてよかった。クラスの仲が深まったと思う。これからの学校生活がより楽し

みになった。

- ・僕たちが知らない「支え」が数知れずあるセカンドスクールであった。自分達にどんな「支え」があったのかは、一部しか知らないため直接お礼をすることが難しい人もいる。だから、今後の行動で感謝を伝えようと思う。
- ・私はトレッキングの時登ったことのない山の高さに驚愕した。しかし、いざ登り始めると、自然の美しさに魅了され空気のおいしさに気づいた。そして、頂上まで行ってみたいと思った。途中、息が辛くてとても苦しい時もあったが、みんな一生懸命登っている姿を見て私も頑張ろうと再び奮起することができた。後ろを振り向くと下の方の人たちが米粒のように小さくて驚いた。雲海と山と登山客を一枚の写真に収めると自分達が今すごい場所に立っていると感じた。友達と「大丈夫？」と声をかけ合いながら無事に下山することができた。今回のトレッキングで今まで経験したことのない圧倒的な自然の雄大さに触れることができた。また、無理だと思っていた山を自力で登り切ることができて達成感でいっぱいだった。“自分の行動がみんなの行動に”を合言葉にして過ごした4泊5日。みんなと生活して学校生活では決して経験できなかった様々な事を学べた。みんなで一致団結してやり通せたセカンドスクールを私はこれからのファーストスクールに生かしていきたいと思う。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

学校生活で普段接する機会が少ない仲間と寝食を共にすることで友達の意外な一面を発見するなど、視野が広がった。互いを気遣う様子も見られた。また、係の仕事を通して自分の役割をきちんと果たすことの大切さを実感することができた。また、現地の方との触れ合いや親元を離れて生活することで、感謝の気持ちを口にする生徒が多く見られた。

今後の学習においても、セカンドスクールで得た協働の姿勢を生かしていけるように指導したい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

セカンドスクール実施前・実施後のアンケートの「人の心の痛みがわかる」という問いに対して、「とてもよくあてはまる」「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と答えた割合が5ポイント向上した。4泊5日という長期的な集団宿泊生活を通して協調性や仲間を気遣う力が育まれたのだと考える。

生徒の感想にもあるように、自分のことだけでなく周囲に目を向けるなど、一人一人に変容が見られた。友達とのかかわりや自分に与えられた仕事への責任感、挑戦することの大切さや達成感、そしてリーダーとしての素養を育んでいくという面で生徒にとってはよい機会であり、自主性や自律の心を育むことができたと考える。

第二中学校

新潟県十日町市

5月24日～5月28日(4泊5日)

参加人数 男子60名 女子62名
計122名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・新潟県や十日町市の文化や歴史・地理・自然などの学習を通して農村地帯の知識を深める。
- ・田植えやハイキングなどの体験を通して自然と共生する生活の工夫や知識を身に付ける。
- ・武蔵野市との共通点・相違点に気づき、地域の活性化に参画しようとする態度を育成する。
- ・事前・事後学習の発表を通して、思考力・判断力・表現力を養うとともに、自分で考えて行動できる力を育てる。
- ・セカンドスクールを通して、人との出会いを大切にするとともに、感謝の気持ちを相手に伝えようとする態度を身に付ける。
- ・仲間と共に係活動や集団活動に積極的に取り組み、よりよい学年・学級を作る。

○日程表

5月24日(火)		5月25日(水)		5月26日(木)	
7:00	学校集合 出発式	7:00	起床 検温 洗顔	7:00	起床 検温 洗顔
7:30	出発	7:30	朝食	7:30	朝食
11:15	塩沢PA(トイレ休憩)		市民科学習Ⅰ		市民科学習Ⅱ
12:40	十日町市浦田着	9:00	キュービットバレイ会場 (CD組)	9:00	キュービットバレイ会場 (AB組)
13:20	開校式		火焚き・山菜天ぷら体験		火焚き・山菜天ぷら体験
13:40	田植え体験		雪の講和		雪の講和
15:40	活動終了		(雪室見学/雪の結晶づくり)		(雪室見学/雪の結晶づくり)
16:00	宿舎へ移動	10:00	雲海会場(AB組)	10:00	雲海会場(CD組)
17:00	宿舎着		工芸体験		工芸体験
19:15	実行委員会 班長会		繭細工・押し花		繭細工・押し花
22:00	就寝 消灯		地域探索ハイキング		地域探索ハイキング
		16:20	自由時間・食事・入浴	15:30	自由時間・食事・入浴
			環境学習Ⅰ	20:30	実行委員会 班長会
			星空の観察		3日目の学習のまとめ
		19:15	実行委員会 班長会		健康観察
			2日目の学習のまとめ	22:00	就寝 消灯
			健康観察		
		22:00	就寝 消灯		

5月27日（金）		5月28日（土）	
7:00	起床 検温 洗顔	7:00	起床 検温 洗顔
7:30	朝食	7:30	朝食
9:15	環境学習Ⅱ 自然観察ハイキング ブナ林&自然散策 水辺の生き物観察 館内見学 環境学習Ⅲ 自然観察スケッチ 美人林見学・集合写真 スケッチ	9:30	地場産業学習 クロステン見学
16:00	自由時間・入浴・食事 実行委員会 班長会	12:15	赤城高原SA 昼食・休憩
20:00	4日目の学習のまとめ	13:00	出発
22:00	就寝 消灯	14:00	高坂SA（トイレ休憩）
		15:30	到着
		15:54	合同学活 解散

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間で、新潟県の気候、風土、動植物、行事などについて学習者用コンピュータや図書などを用いて整理した。
- ・学級の係活動を通して、生徒各自が集団活動に寄与する態度を育成した。
- ・道徳科の授業で、現地の人との出会いや集団行動を通して温かい信頼関係の大切さを学んだ。

2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間で、セカンドスクール中に発見した課題を追究し、解決策や生活に生かす方法を考え発表した。
- ・道徳科の授業で、勤労の尊さとその意義を振り返り、勤労を通して社会に貢献することの大切さを考えた。
- ・学級活動で、セカンドスクールの体験をよりよい集団生活に繋げるために、その方策を学級で考えた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 星空観察

本校理科教員による星空の観察会を行った。東京ではなかなか感じるこのできない夜空の

広さや暗さをはじめ、自然の雄大さを実感するとともに、星に対する興味・関心を持つことで知的好奇心や探究心を高めることができた。

2 自然観察ハイキング

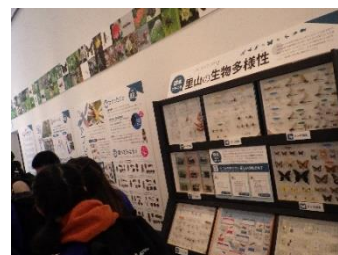
森の学校キョロロで現地のインストラクターの方とフィールドワークを行った。東京とは違う里山の豊かな自然を感じるとともに、生き物の暮らしを理解し、自然と調和して生きていくことの大切さを学ぶことができた。



【インストラクターによる説明】

3 自然観察スケッチ

森の学校キョロロで里山の豊かな自然と文化を観察し、スケッチをした。自然の雄大さを味わいながら自然の美しさなどを感じる情操を育むことができた。



【森の学校キョロロ 館内見学】

<社会体験活動>

1 田植え

現地の講師の方から、田植えの大変さと稲の成長に必要な条件や環境を学んだ。自然と共生する生活の工夫や知識を身に付けることができた。また、普段口にしているお米が、農家の方々の手を通して私たちの元に届いていることを実感し、勤労の大切さを学ぶことができた。



【田植えの様子】

<生活・文化体験活動>

1 雪国の暮らしを学ぶ

雪国である新潟県の雪の利用法等をSDGsの観点から学んだ。「ユキノハコ」では雪室を見学し、武蔵野市との暮らしの違いを実感しながら、地域の成り立ちや雪国の生活を支える雪の大切さと問題点について考えることができた。

2 地場産業を知る

道の駅クロステンに行き、新潟県の地場産業について学んだ。気候風土や資源、歴史などによって古くから育まれた伝統的なものづくりなどの地場産業に触れることで、伝統的な文化への理解とものづくりの魅力を知ったり、興味をもったりすることができた。

○生徒の感想

- ・心に残ったことは山菜採りです。インストラクターさんの説明を聞いたときに、山菜は私たちが普段から目にしている植物であると分かり驚きました。身近な自然を大切に活用しながら生活する大切さを学びました。
- ・セカンドスクールが一番の思い出は、田植えです。田植えは体力も使うし、植える量も多くて大変でした。でも、こんな大変なことを毎年している農家さんはすごいと心から尊敬しま

した。そして、農家さんたちがいるからおいしいお米が食べられるのだということを実感しました。

- ・ハイキングでは、たくさんの虫などの生き物がいたり、険しい道を進んだりして大変でしたが、ガイドさんが自然について解説してくれたので自然を学べて、楽しく歩くことができました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・武蔵野市は自然が多いため普段から自然を感じる機会が比較的多いが、雪国の特色ある自然や文化、都内では感じられない空の暗さを体験することで、言葉では言い尽くせない感動や自然の美しさを表現したいという主体性が感じられた。自らの目で見て、自然に触れることは、豊かな感性を磨くうえで必要なことであると感じた。
- ・武蔵野市とは違う雪国の暮らしの過酷さや生活の工夫を知ること、暮らしの違いへの理解を深めることができた。また、雪エネルギーや雪を活用した「ユキノハコ」など、SDGsに関する学びを体験することで、小学校や中学校で既に学んでいた知識を高めることができた。事後学習でも体験をしたことを基に、SDGsの視野から学習を一層深めることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度は農家泊を予定していたが、新型コロナウイルスの蔓延により農家の受け入れができなかった。さらに宿の改修工事と宿泊が重なってしまったため、全員で宿泊することができず、分泊を行った。分泊のため、夜のレクリエーションや学級をまたいでの生徒間の交流ができず、仲間と共に協力したり、仲を深めたりすることがあまりできなかった。しかし、新しい宿泊先、体験活動との出会いが広がり、今までの活動の見直しをすることができたのはよかったと思う。

また、今までは自然や文化に触れる体験や活動のみであったが、SDGsに関する学習を事前・体験中・事後に行うことができ、その理解を深め、視野を広げることができた。

セカンドスクールの目的である「自然を愛する心」「課題解決能力」「人間関係形成」の観点から事前事後アンケートをもとに調査をしてみると、多少上がった項目もあるが、セカンドスクール後には下がったものが多かった。このことから次年度に向けて、三つの観点を上昇させるような体験活動を計画する必要があると考えられる。

第三中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月26日～9月30日(4泊5日)

参加人数 男子44名 女子48名
計92名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・よりよい人間関係の形成を育む活動を通し、集団の一員としての自覚を育て、責任ある行動や、互いに協力し合うことの大切さを学び、協調性や自立性を育む。
- ・農業体験活動、自然体験活動を通し、白馬地域の特性や課題に気づき、主体的に課題解決しようとする力を養う。

○日程表

9月26日(月)		9月27日(火)		9月28日(水)	
7:15	学校集合、出発式	6:15	起床、検温	6:15	起床、検温
7:45	学校出発	6:45	朝食	7:00	朝食
12:30	白馬ジャンプ競技場着	8:00	出発	8:30	出発
12:45	昼食	9:00	扇沢駅着、周辺見学	8:45	ミニトマト栽培見学
13:30	長野オリパラ講和・施設見学	10:45	黒部ダム見学、昼食		ウイング21 オリパラ学習
15:15	宿舎着	16:00	宿舎着	11:00	新田公民館 入村式
16:00	入浴	16:30	エコエネルギー・オリンピック	11:30	昼食
17:40	夕食		クバラリンピック学習会	12:30	宿でのものづくり体験
19:55	学年集会	18:00	夕食	19:30	宿の方とふれあい体験
21:30	就寝準備	20:00	入浴	20:30	入浴
22:00	消灯	21:30	就寝準備	21:30	就寝準備
		22:00	消灯	22:00	消灯
9月29日(木)		9月30日(金)			
6:30	起床、検温	6:00	起床、検温		
7:30	朝食	6:30	朝食		
8:30	農村生活ふれあい体験	8:15	新田公民館集合		
12:30	稲刈り体験	9:00	退村式、感謝を伝える会		
18:00	夕食	10:15	エスカルプラザSDGs講演		
19:00	入浴	11:55	白馬村出発		
21:30	就寝準備	16:45	学校到着、閉校式		
22:00	消灯				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・「長野県」と「白馬村」に関わる農業・伝統工芸・環境問題への取組・観光業など、一人1テーマで分担し、調べ、新聞作成を行った。
- ・白馬の魅力について、作成した新聞を基に、クラス内で発表を行った。
- ・現地の方を招いて、白馬村の現在の様子について講演をしていただき、その中から自分たちで解決したい白馬村の課題を考察し、その解決のために現地で何取材してくるべきか、班で話し合い、事後学習の準備を行った。

2 事後の学習内容

- ・作文やアンケートを行い、セカンドスクールで学んだことを振り返った。また、実行委員会、各係会を中心にアンケートを基に話し合い、今後の学校生活、2年、3年での校外学習・修学旅行をよりよいものにするための話し合いを行った。また、話し合った内容については、学年集会で情報の共有をした。
- ・班ごとに「白馬村の魅力・白馬村が抱える課題・課題解決策の提案」の3つについて、スライドとパンフレットにまとめ、くぬぎ祭で来場者に向けて発表を行った。
- ・各クラスで、「民宿で体験したこと」を模造紙にまとめ、宿の紹介を作成した。また、クラスで、「オリンピック・パラリンピックについて」「黒部ダムについて」「農業体験」のテーマをそれぞれ担当し、工夫を凝らした作品を作成し、くぬぎ祭で展示した。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 農業体験活動(稲刈り・芋ほりなど)

稲刈りについては、民宿の方々の指導の下、「手刈り」「バインダー」「コンバイン」の3つの方法で稲刈りを行った。青空と山並に囲まれた田んぼで、ふっくらとした稲穂をそれぞれの方法で稲刈りをする中で、自然のありがたさや稲刈りの苦勞、食の大切さを学んだ。

また、芋ほりでは土の柔らかさに触れ、カエルやトンボ、虫を身近に感じ、武蔵野市ではできない体験活動を通して、今後守っていくべき農村の在り方について興味・関心をもつきっかけになった。



【手刈りの様子】

2 ミニトマト栽培施設見学

お米の収穫後の田んぼをミニトマト栽培として再活用する方法を学び、持続可能な農業の在り方について考えを深めた。また、もぎたてのミニトマトを食し、ミニトマトの本来の甘さに感動するだけでなく、トマトが苦手な生徒も自ら食べようとチャレンジすることができた。

＜社会体験活動＞

1 オリンピック・パラリンピック学習

1998 年長野オリンピック・パラリンピックの舞台となった白馬スキージャンプ競技場では、日本スキー連盟のコーチとして活躍されている山田和由氏に、当時の話や世界で活躍するために必要なことについて講演していただいた。ジャンプ台では、ラージヒル・ノーマルヒルのスタート地点に上り、選手が見る景色や高さを体感することができた。また、ウィング 21 ではオリンピック後の施設維持の難しさについてホール技師の佐藤岳志氏に講演していただき、白馬村の抱える課題や、村を発展させるための取組について考えを深めることができた。



【スキージャンプ競技場で講演の様子】

2 黒部ダム見学

各クラス一人ずつガイドが帯同し、黒部ダム建設の歴史、エコエネルギー活用の具体的な方法、日本のエネルギー自給率についてなどを学んだ。関電トンネルの実際の採掘場で採掘の映像を見て、寒さや破碎帯の水の冷たさなど、当時の苦労を体感することができた。



【採掘現場で歴史映像を見ている様子】

＜生活・文化体験活動＞

1 ものづくり体験

宿ごとに籐細工、木彫りコースター、紙縄による細工などのものづくり体験を行った。平皿、お菓子入れ、鍋敷きなど、それぞれが想像力を働かせ、集中して取り組むことができた。稲作体験とは違った、手作業を体験する中で、自然豊かな地域での生きる工夫や苦労を感じるきっかけにもなった。



【籐細工を宿の御主人に教わる様子】

2 農村生活ふれあい体験

現地で収穫したそばやお米、ヨモギを使って、そば打ち体験・おはぎ作り・餅つきなどを行い、日本の食文化や、地産地消について学びを深めた。また、餅つきでは互いに声を掛け合い、励まし合い、一つのものを仲間と共に作り上げる中で一体感を高めることができた。

○生徒の感想

- ・難しいな、少し嫌だなと思っても、やってみると楽しいことがたくさんあった。挑戦してみると自分の視野が広がることを知った。
- ・集団行動では、リーダーに任せるのではなく、自分から協力することや、失敗したら、次に同じことがないように努力していくことの大切さを学んだ。
- ・地域の文化を絶やさないように、自分から文化にふれていきたい。また、自分から挨拶をして、地域の方と交流する機会をつくりたい。

- ・黒部ダムでは、迫力のあるダムに目が行きがちだが、工事での苦勞、電気バスの工夫など、見えないところに目を向けることで本当のダムの魅力を感じることができた。
- ・長野オリンピックでは、当時の白馬村の人で関わりのない人はいなかったことを知った。農業体験では、宿のお父さん・お母さんが全員手伝ってくれて、白馬村の地域のつながりの強さやあたたかさがすごいなと思った。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今回のセカンドスクールは、三中のスローガンである「責任ある自由」の実践の場とした。前半の二日間は学年で行動する場面が多く、各係が自主的に動けるよう、しおりに細かく係の動きを載せた。後半の三日間については、各係の動きをしおりに載せることは極力減らし、前半の二日間を参考に、「責任ある自由」の下、自分たちで考え、主体的に動くよう設定した。実際に生徒の振り返りには、「一日目に係の仕事を忘れてしまったが、二日目で自分からしお리를見て動き、三日目には係ではない人も声を掛ける場面が出てきた」といったことが書かれていた。また、生徒たちが決めたスローガンが、「アルクマ～あいさつは自分から・明るく楽しく・クラスを超えた団結・新しいまなびに挑戦～」だったが、セカンドスクール以降、校内で自分から挨拶をする生徒が増え、互いに協力して事後学習に取り組むことができている。今後、実践で培った「主体性」を学校生活でも意識させていきたい。

学習面では、白馬村には、「オリンピック開催地」「自然の豊かさ」「地域のつながりの強さ」などの魅力がある一方で、「オリンピック施設維持の負担」「地球温暖化による雪不足」「人口減少」の課題があるなど、様々な側面がある。事後学習では、白馬村の魅力を活用し、村が持続可能な発展をしていく手立てを、多面的・多角的に考え、保護者・在校生・地域の方に向けて発表をした。白馬村の持続可能な発展のための手立てやオリンピック開催後の課題は、東京都や武蔵野市に当てはめることもでき、継続して武蔵野市民科や社会科で学ぶことで、公民としての資質の育成につなげたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

三中のスローガン「責任ある自由」は義務教育の最後の3年間を過ごす生徒にとって、とても重要なものである。しかし、その内容が具体的にどのようなものを理解するのは難しい。セカンドスクールを「責任ある自由」を実践する場とできたのは大きな成果である。また、学習面では事前学習から、事後学習までの見通しをもたせて生徒に取り組ませた結果、生徒は現地での取材を熱心に行い、白馬村の様々な側面を意欲的に学ぶことができた。

一方、課題は行程の中に白馬村の魅力の一つである山を身近に感じられるものがなかったことである。地元の方々と触れ合うなかで、多くの方が自慢にしていたのは山である。その最大の魅力を来年度以降体感できる場面を設定できればと考える。子どもたちの「生きる力」を測る事業評価では「道徳的能力」の平均回答ポイントが4.7から4.4に変容しており、道徳的と思っていたものが、実際に体験活動を行う中で実践的に身に付いていないことに気付いたと推測する。自己肯定感・自己有用感を集団生活の中で実感させる場面を引き続き作っていきたい。

第四中学校

群馬県みなかみ町

9月27日～10月1日(4泊5日)

参加人数 男子81名 女子70名
計151名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然や農業に関わる体験活動を通じて、「水」をテーマに自然との共生や畏敬の念を涵養する。
- ・自然・環境問題に関心をもち、SDGsを意識し自然との共生を考える力を養う。
- ・事前に学習して得た情報から課題意識をもち、体験学習を通して課題を解決しようとする能力を養う。
- ・通常の学習で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用し、課題発見能力や問題解決能力を高める。
- ・長期の宿泊体験を通じて、集団生活における協調性や自立性を育む。
- ・みなかみ町の幅広い年齢層の人々との交流を通じて、共存の精神や自他共に大切にする心を養う。

○日程表

9月27日(火)		9月28日(水)		9月29日(木)	
8:00	市役所出発	6:30	起床	6:30	起床
10:30	ハッ場ダム見学	8:00	朝食		ペンションごとに体験活動
12:00	昼食	10:00	土合駅見学		・登山
15:00	ホテルサンバード着	12:00	昼食		・りんご収穫
	テント設営	14:00	ペンションごとに体験活動	12:00	昼食
	夕食準備		・薪割り体験		ペンションごとに体験活動
17:00	夕食		・農業体験 等		・郷土料理の調理実習
19:30	星空観察会	18:00	夕食・入浴		・ヤギ、ヒツジの世話
	班長会	21:20	日記記入	18:00	夕食・入浴
22:00	就寝	22:00	就寝	21:20	日記記入
				22:00	就寝

9月30日（金）		10月1日（土）	
6:30	起床	6:30	起床
8:00	ペンションから道の駅集合	7:30	朝食
10:30	谷川岳～一ノ倉沢ハイキング	8:30	水上館発
12:30	昼食	9:00	ラフティング
15:00	水上館着	12:00	昼食
16:30	入浴	16:30	市役所着
18:30	夕食		解散式
19:30	レク大会		
20:00	係会		
22:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・みなかみ町およびセカンドスクールのねらいと関連の深いSDGsの目標について分担して調べ学習を行い、スライドを作成した。
- ・作成したスライドを基に各学級で発表し、代表者を学年で選出した。

2 事後の学習内容

- ・事前学習の際に選出した代表者の事前学習を文化祭で発表した。
- ・実行委員によるセカンドスクールの活動の振り返りを文化祭で発表した。
- ・ペンションでの活動を班ごとに壁新聞形式で作成し、展示した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 谷川岳～一ノ倉沢ハイキング

山の自然に触れながら、地形の特色や樹木の様子、特徴などをガイドの方より説明をしていただき、自然の雄大さについて知った。



【登山中にガイドより解説】

2 ラフティング

「水」について、ダム見学や登山を通して、東京の生活に関わる水の役割について学習した内容を踏まえ、水を自然に流れるそのままの形で川下りをする中で実際に体験をした。

実施前にはラフティングの舞台となる利根川の流れや水質の様子・特徴について学習し、実践の際はオールの使用法やコースを変える際の重心移動等の専門的な技能について、ガイドからレクチャーを受



【ラフティングの様子】

けて体験した。

＜社会体験活動＞

1 テント泊

1日目の宿泊に必要な複数人が泊まれるテントを、班で協力して設営した。テントの構造と設営におけるポイントを専門家の方より説明をしていただき、安全面に配慮をしながら集団生活における協調性や自立性を育んだ。

夜間には「星空観察教室」を行った。天候の関係で実際の星空を見ることはできなかったが、現地の専門家から東京で見られる星空との違い等についてスクリーンに投影した画像等を使用して説明を受け学習した。



【テント設営の様子】



【星空観察教室】

＜生活・文化体験活動＞

1 ペンション分泊

分泊したペンションごとに経営している事業の体験活動を行った。現地での薪割り体験、栗の収穫と調理、ペンション周辺の雑草駆除・道路整備といった自然環境整備、ビニールハウス解体等を行った。

薪割りはイメージしていたものとは異なり、木材の性質や斧の使い方を理解しなければ上手く割ることができないことに対して苦労しながら取り組む様子が見られた。自然環境整備では放っておくと道路に草木が広がってきてしまい生活に支障をきたしてしまうことを実際に体験しながら臨んでいた。



【薪割り体験】



【自然環境整備】

○生徒の感想

- ・東京で感じるもののできなかった自然の怖さもあったが、美しさを常を感じさせるセカンドスクールだった。

- ・家を離れての友達との集団生活は不安だったが、みんなと協力し合い、迷惑をかけないように、時には相手の意見を聞いて楽しく過ごすことができた。
- ・あまりしゃべったことのない人とも話せて仲を深めることができました。それはみなかみに住んでいる人のおかげです。ペンションでも、「知らない人でも『おはようございます』や『こんにちは』等が大切だ」ということを何回も聞かされました。勇気をもって「こんにちは」と声を出したら相手も返事をくれました。とっても嬉しかったです。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・発表やプレゼンテーション等の活動を通して、情報収集能力に加えて体験した内容を踏まえて表現する能力をさらに育んでいく。
- ・各教科での学習課題や問いについて、主体性をもって取り組むことができるよう工夫する。
- ・学級活動、学年での相互協力の働きかけを意識する。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度の1年生は小学校でのプレセカンドスクール以降、セカンドスクールは中止、移動教室は短縮実施だった学年であり、宿泊体験については十分な経験を積むことが難しかった学年だった。そのため、団行動や体験活動に不安を抱える生徒も見られたが、実際にセカンドスクールの中で経験し、実体験と成功体験をすることでファーストスクールでのまとめの発表や、主体的な行動へとつながる場面が見られた。特に日常であまり触れることのない自然について印象に残った生徒が多く見られ、今回のセカンドスクールから得られたものが多くあったことが伝わった。

第五中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月12日～9月16日(4泊5日)

参加人数 男子38名 女子35名
計73名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・「食」に関する知識を増やすとともに環境保全意識と自然そのものへの畏敬の心を培う。
- ・オリンピック長野冬季大会の環境対策から、環境保全について理解を深める。
- ・課題について情報を収集し、自らの考えをまとめ論理的に表現する力を養う。
- ・宿泊体験等を通じて良好な人間関係を築き、積極的に他者と関わるとともに、自主自律、協調性、勤労、奉仕の精神を養う。
- ・現地の方々との交流体験を通じて、自らが住む町や地域の改善を模索する市民性を養う。
- ・現地の方々との交流体験を通じて、食文化についての理解を深める。

○日程表

9月12日(月)		9月13日(火)		9月14日(水)	
7:20	集合完了	6:00	起床	6:30	起床
7:30	出発	6:30	朝礼・ラジオ体操	7:00	朝食
11:45	大町市「大町公園」着 昼食	7:00	朝食・退館式	9:00	「親海湿原環境保全活動」
13:00	八坂中学校との交流	8:45	「ゴンドラ山麓駅」着	12:00	昼食「白馬豚BBQ」
13:45	「ポスターセッション」開始		「SDGs学習」	13:00	「農村ふれあい体験」①
16:00	八坂中学校生徒と下校	10:30	「八方尾根トレッキング」		※活動内容は宿ごとに決定
17:30	「ホテル五龍館」着	15:30	「白馬ジャンプ競技場」着	17:30	夕食
18:30	夕食・入館式	17:00	民宿生活スタート	19:00	宿の方との交流
19:15	入浴	17:30	夕食(カレーライス)	20:00	入浴・健康チェック
21:00	会議(実行委員・係・班)	21:00	宿会議	21:00	宿会議
22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝
9月15日(木)		9月16日(金)			
6:30	起床	6:00	起床		
7:00	朝食	6:30	朝食・民宿内掃除		
8:30	「農村ふれあい体験」②	7:45	「感謝の気持ちを伝える会」		
	※活動内容は宿ごとに決定	8:15	退村式(民宿班)		
13:20	「稲刈り体験」	8:30	「オリパラ学習・お土産購入」		
17:30	夕食	10:00	「白馬ジャンプ競技場」見学		
19:00	宿の方との交流「オリパラ」	11:30	昼食「白馬の豚丼」		
20:00	入浴・健康チェック	12:15	白馬村発		
21:00	宿会議	17:15	帰り学活(バス内)		
22:00	消灯・就寝	17:30	「武蔵野五中」着		

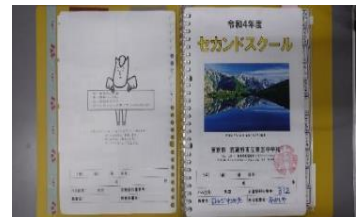
○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・実行委員会【通称：SS友】を立ち上げ、実行委員会を6回行い、実施要項の検討、各係の長としての仕事、セカンド便り【通称：MUSASHINO★NAGANO】の作成を行った。
- ・特別の教科 道徳において、1時間「山に来る資格がない」(Aー(2) 節度、節制)の単元を通して、望ましい生活習慣を身に付けることの大切さについて考えを深めた。
- ・夏季休業中の課題として、映画「ヒノマルソウル」を鑑賞(任意)、保健体育レポート作成「長野オリンピックについて」を行い、主体的に学習に取り組む態度や思考力・判断力を高めた。
- ・学活でのガイダンス、実施要項の説明は、写真を活用しながらイメージをもてるように工夫した。また、民宿班決め・役割分担等の活動では、自主自律、協調性を養う工夫を行った。
- ・総合的な学習の時間で、民宿の方へ自己紹介カードの作成や、八方尾根、親海湿原、稲刈体験等の情報を収集し、自己の課題を設定し考えをまとめる表現力を養った。



【事前学習～自然～】



【バインダーに綴じたオリジナルしおり】

2 事後の学習内容

- ・学活でのお礼状作成を通して、多様な人との唯一無二の人間関係を築き、豊かな人間性の育成を図った。また、反省アンケートや作文を通して、活動を振り返り、ファーストスクールに生かしていけるように工夫した。
- ・総合的な学習の時間で、事後学習発表会へ向けてのスライド作成し、民宿班ごとに「Google スライド」を利用し、プレゼンテーションを行った。また、民宿の方々、生活指導員、J A大北の方々に「Google ミート」によるオンライン参加をしていただき、多様な人間関係のつながりを感じた。最後の別れは、寂しく、感動的な新たな出発となった。



【生徒からの心温まるメッセージ】

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 「八方尾根トレッキング(SDGs学習)」～ねらい:自然豊かな環境を保全する意識を高める～

天候にも恵まれ、八方池まで行くことができた。慣れない山道だったが、自分の力で最後まで歩き切った生徒たちはとても輝いていた。講師からは「自然を生かし、自然と共に生きる」取組を伺った。



【長い道のりを隊列で】

2 「親海湿原環境保全活動」～ねらい: 勤労や奉仕の心を養う～

親海湿原の保全活動で、五中のセカンドスクールで平成 27 年度から毎年取り組んでいる。地域でも高齢化が進み、積極的に参加する若者がいない現状があるため地域の方々は喜んでくださった。



【ヨシ刈り】

3 「農村ふれあい体験(各民宿)」～ねらい: 食文化への理解を深める～

宿泊先ごとのプログラム。作物の収穫の農作業体験、そば打ちなどの食づくり体験、わら細工などのもの作り体験など、学校の中では経験できない取り組みで、生徒たちの目は輝いていた。



【わら細工づくり】

4 「稲刈り体験」～ねらい: 米の収穫過程と農家の方の仕事について理解を深める～

手刈り、バインダー、コンバインといった三つの収穫方法について学んだ。体験場所にはトンボやカエルもいて、豊かな自然も感じることができた。



【稲刈り体験】

<社会体験活動>

1 「オリパラ学習」～ねらい: オリ・パラのレガシーについて学ぶ～

クロスカントリー競技でオリンピック（トリノ、バンクーバー、ソチの3大会）に出場した成瀬野生さんからお話を伺った。オリンピックを含めて、これまでの競技人生についてもお話いただき、生徒は真剣に耳を傾けていた。生の声は、生徒たちの心に強く響いていたようだ。



【成瀬野生さん】

2 「白馬ジャンプ競技場見学」～ねらい: オリ・パラのレガシーについて学ぶ～

ノーマルヒル、ラージヒルのスタート地点を間近に感じたり、オリンピックギャラリーの見学で長野冬季オリンピックについて学習したりした。映像や、映画と比較し感動を肌で感じていた。



【ジャンプ台の前で】

<生活・文化体験活動>

1 「八坂中生との交流」～ねらい: お互いの住む地域の市民性を高める～

大町市立八坂中学校との交流学习を行った。武蔵野市民科の授業を通して調べた武蔵野市のことについて、ポスターセッションで発表した。八坂中生からは八坂についての発表があり、お互い多くの学びのある機会となった。その後、八坂中生と普段の下校の道りである約5kmを歩いたり、湧き水を飲んだりするなど、たくさんの思い出をつくることができた。



【八坂中生の発表に夢中】

2 「民宿の方との交流」 ～ねらい:現地の方々から学び交流を深め、ファミリーとなる～

一緒にカレーを作ったり、白馬豚のバーベキューをしたり、3日間ファミリーとして生活したことで、最後の別れは寂しく、感動的な出発となった。

○生徒の感想

- ・八坂中生のポスターセッションは見ている人の目線で発表していてマネしたいと思った。
- ・八坂中生とお互いの伝統行事を共有できて楽しかった。
- ・八方尾根の自然は自分の一つの行動で壊すことも守ることもできる自然の奥深さを感じた。
- ・八方尾根は、登山者の方々から励ましの声をもらえたので無事に登り切ることができた。
- ・稲刈りではお米を残さず食べる大切さを再確認した。想いを込めて作っていると感じた。
- ・稲刈り体験でコンバインに乗ってみて、今の時代はすごいと思った。(昔の人は鎌だけで)
- ・自分たちで料理・食器洗いの手伝いをし、家事の大変さを知った。
- ・オリパラ学習では、長野オリンピックの迫力について知れた。日本の様子も教えてもらった。
- ・ファミリーとお別れするのは本当に辛かった。みんな我慢できずに泣いてしまった。白馬村から帰りたくなかったが大切な思い出ができた。
- ・帰りにお土産で頂いた、「最後の白馬の塩むずび」はとても美味しく、心に染みた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

生徒が現地の方々と「ファミリーになって帰ってくる」ということを目標に実践し、教員、看護師、J A大北の方等も「ファミリー」となってマネジメントし、体験できた。大人からの指示で動くのではなく、子どもたちの自主的・自発的な力、知的好奇心や探究心を引き出すことができる活動を設定し、時間をかけて成長を見守るマネジメントを意識した。今後もこの「唯一無二」のセカンドスクールの経験を「ファーストスクール」での日常においても生かせるよう、意図的・計画的かつ長期的な視野に立った指導を行っていきたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

事前学習で、小学校時代の宿泊体験等の経験値が少なく、宿泊行事や集団生活に必要な能力が未熟のまま参加していることを念頭において、「映画ヒノマルソウル」の鑑賞や、「夏休みの保体レポート」等で知識を深めるなど丁寧な事前指導を行う必要がある。民宿の方々と「ファミリー」となり、非常に有意義な時間であった。民宿の方々の高齢化が進み、跡継ぎなどの問題がある中で、持続可能な活動になるよう支援・協力していく必要があると感じた。

経験値がない中で子どもたちの「生きる力」を測る事前の事業評価を行うと、もともと自己肯定感が高い生徒が多いので、はじめは自分たちならできるだろうという高い値が出ていた。しかし、実際に4泊5日のセカンドスクールを経験し、自分たちができることや課題などが分かり、自分の今の立ち位置を改めて理解できたことで事後の事業評価は事前より低い値となった。これはマイナスなことではなく、今後の成長にポジティブに考えられる調査結果である。

第六中学校

長野県安曇野市

9月9日～9月13日(4泊5日)

参加人数 男子42名 女子39名
計81名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・安曇野市の環境問題の調べ学習を通して、自然と人との調和について理解を深め、自然を大切に作る心情を育てる。
- ・黒部ダムの学習を通して、今後の我が国の資源やエネルギー、自然保護について深く考える。
- ・自己や班の課題を解決するために、フィールドワークや体験活動を通して、情報をわかりやすく整理し発表する能力を養う。
- ・フィールドワークや体験活動が充実するよう、事前学習等を通して情報を活用する力を養う。
- ・安曇野市の方々と関わる活動を通して、安曇野市と武蔵野市を比較し、友好都市として今後のよりよい関係づくりについて考える。
- ・グループ活動を通して、他者と協働しながら課題解決を図る力を養う。

○日程表

9月9日(金)		9月10日(土)		9月11日(日)	
7:00	第2しろがね公園集合 出発式	6:30	起床、検温、洗面	6:30	起床、検温、洗面
7:25	バス出発	7:00	朝食	7:15	朝食
8:00	調布IC 談合坂SA 休憩 梓川SA 休憩	9:00	ビレッジ安曇野発 偶数組：光城山トレッキング ガイド付き 奇数組：謎解きウォークラリー ガイド付き	8:45	ビレッジ安曇野発 偶数組：わさび掘り体験 奇数組：稲刈り体験
11:00	安曇野IC			10:50	偶数組：稲刈り体験 奇数組：わさび掘り体験
12:00	扇沢駅着	12:00	昼食	12:00	ビレッジ安曇野着
12:15	昼食	13:00	ビレッジ安曇野発 偶数組：謎解きウォークラリー ガイド付き 奇数組：光城山トレッキング ガイド付き	12:15	昼食
13:00	扇沢駅発(電気バス)			13:05	ビレッジ安曇野発
13:16	黒部ダム駅着 ①関電トンネル工事跡& くろよん建設工事記録視聴 ②エネルギー学習	16:10	ビレッジ安曇野着	13:15	小学校体育館着 百人一首レク
16:51	扇沢駅発	15:55	入浴	15:40	体育館発
17:00	ビレッジ安曇野着 入館式	18:30	夕食	16:00	ほりでーゆ〜四季の郷着
18:00	夕食	19:00	謎解きウォークラリーまとめ &発表会	16:35	入浴
18:45	入浴			19:30	夕食
21:30	就寝準備	21:20	就寝準備	21:30	就寝準備
22:00	消灯	22:00	消灯	22:00	消灯

9月12日（月）		9月13日（火）	
6:30	起床、検温、洗面	6:30	起床、検温、洗面
7:00	朝食	7:00	朝食
8:00	退館式	9:30	閉校式
8:15	ほりでーゆ〜四季の郷発	10:00	ビレッジ安曇野発
10:35	上高地ハイキング開始	10:30	国営あづみの公園着
10:45	河童橋着		クラフト体験
11:45	奇数組：右岸コース 偶数組：左岸コース		昼食
	明神橋着 昼食	13:30	国営あづみの公園発
12:45	明神橋発		梓川SA
13:35	奇数組：左岸コース 偶数組：右岸コース	17:30	談合坂SA
14:35	河童橋着		第2しろがね公園着
14:50	上高地発		（二小前）
17:30	ビレッジ安曇野着		解散式
17:45	入浴		
19:40	夕食		
20:10	就寝準備		
22:00	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・学習者用コンピュータを活用し、インターネットや文献で安曇野市について調べ、知識と理解を深めた。
- ・総合的な学習の時間で、自然、農業、地理、食、歴史、文化等、テーマを自ら選択し、調べ学習を行い、冊子を作成した。

2 事後の学習内容

- ・お世話になった宿舎や農家の方々にお礼状を書き送った。
- ・セカンドスクールで学んだことや感じたことを作文にして、今回のセカンドスクールでの学びを振り返ることができるようにした。また代表者の作文を学年だよりに掲載した。
- ・現地で自然や地域の写真を撮影し、「こだわり写真」として個々のよいものを1つ選定した。また、それを掲示し投票することで、お互いに新たな発見をすることができた。
- ・事前に学習したこと、セカンドスクールで体験したことを題材にテーマ設定を行い、学習者用コンピュータによるスライド作成を行った。また、代表者を選定し、学習発表会で発表を行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 上高地ハイキング

4日目、バスで大正池まで行き、河童橋まで学年で行動し、そこから明神橋を経由した班行動を行った。河童橋からは、左右コースに分かれ、折り返し地点の明神橋を目指した。昼食を河原でとり、反対のコースで河童橋まで戻った。上高地の雄大な自然を体感しながら、班長だけでなく、撮影をする係や計時をする係を設けて、各々が責任をもって行動することができた。

2 光城山のトレッキング

安曇野市内にある光城山をガイドの方と一緒にトレッキングを行った。登山を苦手とする生徒が多く、途中疲れた場面もあったが、登っていく中で、生徒同士が背中を押したり、言葉を掛けたりと、協力する姿勢が見えて成長を感じた。また、事前学習で高尾山と比較していた生徒は、そこに生息する木々や生き物の違いを学んでいた。

<社会体験活動>

1 黒部ダム見学

黒部ダムでは、見学するだけでなく、黒部ダムの歴史について学ぶ機会を得た。前半と後半組に分かれて、一方では黒部ダムの放水を見学し、その圧倒的なスケールを肌で感じた。もう一方では、建設の際に多くの犠牲が伴い困難を極めたことがわかる映像を実際のトンネルの中で見せていただいた。生徒は、黒部ダムの歴史を学ぶと同時に、わが国のエネルギー問題に尽力する姿に心を打たれていた。

2 農業体験

3日目、わさび掘り体験と稲刈り体験を行った。わさび掘り体験では、実際に川に入り、わさびを抜き、葉を取って収穫するという体験をした。収穫したわさびは市場に出回るということもあり、真剣に体験をする姿が印象的だった。また、稲刈り体験では、生徒一人一人が実際に鎌を持ち、腰を痛めながらも稲を刈った。のちの作文で、将来は農家になりたいといった生徒も何人かおり、この体験を経て、普段何気なく食べているお米を作るのに、様々な方が苦勞されているのだと学んでいた。



【稲刈り体験】

<生活・文化体験活動>

1 謎解きウォークラリー

宿泊施設の周辺を、地元の方と一緒に行動班ごとにまわり、安曇野の自然と触れ合いながら学習した。生徒たちは、地元の方と交流をしながら、ときには疑問を投げかけ、ときには自ら解答を探して歩いた。そして、その日の夜に、一緒にまわった地元の方を宿舎に招き、学んだことを紙にまとめて発表し合うという活動を行った。事前学習で調べていたことや、実際に触れたことを比較しながら、安曇野について深く考え学び直す時間となった。

2 クラフト体験

最終日、セカンドスクールを通して行ってきた自然体験の集大成として、クラフト体験を行った。安曇野の木を各々がヤスリで磨き上げ、アクセサリを作る体験をした。普段、学校で行うものづくりと違い、実際に自然の中で得たものを使い、自らの手で形に残るものを作った。五感で体験することで、ただ記念に残すのではなく、5日間の思い出を最終日に形として残すことにより、大人になっても安曇野を忘れないような体験となった。

○生徒の感想

- ・わさび掘りでは、実際に冷たい水に直に足をいれることで、痛いくらいに冷たくて驚いた。農家の方々の苦勞が伝わり、わさびを大切に味わおうと思った。
- ・稲刈り体験を通して、自分たちが普段何気なく食べているお米や食料が、たくさんの人の手によってつくられていることを知った。
- ・行動班や部屋班で何かをすることの大切さを学びました。誰かが遅れるとみんなが遅れてしまい大変だったが、次第に協力していくことができた。
- ・上高地のハイキングでは自然の素晴らしさを発見した。とても疲れたが、それ以上に自然が綺麗で楽しかったし、河原で食べるお弁当はこれまでに味わったことのないものだった。
- ・黒部ダムでは、当時の建造している映像を見てその壮絶さを目の当たりにした。資材を運ぶ大変さ、破碎帯を掘る過酷さなどを知った。今では誰もが知る有名な黒部ダムだが、実際に学習した上で見学すると、より一層当時の様子が手に取るように理解できた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今回のセカンドスクールで生徒たちが掲げたスローガンは「レベルアップ」だった。それは生徒自身が学校生活において、人間関係、学業、自律、すべてにおいて何か足りないと感じていたからである。中学校に入学してからちょうど1学期間過ぎ、中学校生活に慣れてきている頃に、このセカンドスクールを実施することに意味があった。5日間、寝食を共にすることで、悩みや意見の食い違いがあっても逃げ場のない環境に身を置くことは、生徒たちにとって大変貴重な機会である。ファーストスクールでは、何か問題が起こっても、一旦帰宅することで心と体をリセットできる。しかし、セカンドスクールではそれが難しく、自分たちで解決の道を探らなければならない。そこで、生徒たちは自分で問題を解決するだけでなく、友達というかけがえのない存在に気付き、普段よりもより密度の濃い時間を過ごすことで大きく成長を遂げた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

コロナ禍で厳しい行動制限の中、生徒も教員も普段以上に気を使って行動しなくてはならなかった。民泊も断念せざるを得ず苦勞したが、幸い宿泊先の方々のご厚意で、稲刈り体験やわさび掘り体験をさせていただくことができた。このことが、「生きる力」の変容が事前から事後にかけて131ポイント向上したことに繋がったと考える。また、実際に現地で体験したことを事前学習で作成したレポートの内容に加えることにより、事後学習で行った学習者用コンピュータを利用したスライド発表では、より詳しく充実したものを作成することができた。

フシセカンドスクール



第一小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

9月14日～9月16日(2泊3日)

参加人数 男子49名 女子34名
計83名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・ 現地の環境問題の調べ学習を通して、自然と人との調和について理解を図り、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・ ハイキングやトレッキングなどの豊かな体験を通して、自然の中で安全に気を付けて体を動かすことのよさを感じ取るとともに、豊かな自然を大切にしようとする心情を養う。
- ・ 自己やグループの課題を解決するため、富士山とその周辺の散策や富士山に関わる施設見学を通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・ 散策や見学を通して得られた知識と、今までに習得した自分の知識や経験とを結び付けてまとめ、表現する力を育む。
- ・ 現地の方々と関わる活動を通して、宿泊地における諸課題を自分事として捉え、よりよい地域・社会づくりについて考える力を育む。
- ・ 活動の振り返りや話し合い活動を通して、異なる意見を生かして新たな学びを獲得しようとする力を育む。

○日程表

9月14日(水)		9月15日(木)		9月16日(金)	
7:45	武蔵野市民文化会館集合	6:00	起床・検温・洗顔	6:00	起床・検温・洗顔
8:15	出発	6:30	朝の会・散歩	6:30	朝の会・散歩
	談合坂SA(トイレ休憩)	7:00	朝食・活動準備	7:00	朝食・荷物整理
10:20	富士湧水の里水族館見学	9:00	宿舎発	8:30	清掃・片付け
	森の学習館見学	9:30	富士山レーダードーム館見学	9:00	閉校式
12:00	富士山五合目着(昼食)	11:30	西湖野鳥の森公園着(昼食)	9:15	宿舎発
	五合目周辺トレッキング	12:30	樹海ハイキング・富岳風穴見学	9:45	紅葉台入口着・ハイキング
15:30	宿舎着・開校式	15:30	宿舎着		※紅葉台→三湖台
16:00	宿舎周辺の散歩	16:00	学習の記録	12:15	富士山世界遺産センター着
17:00	入浴・夕食・はがき書き	17:00	入浴・夕食・寄せ書き		(昼食)
19:00	学習の記録	19:00	寄せ書き作り	13:00	富士山世界遺産センター見学
20:00	就寝準備・健康観察	20:00	就寝準備・健康観察	14:30	談合坂SA(トイレ休憩)
21:00	就寝	21:00	就寝	15:30	学校着・帰校式

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・事前学習として、富士山の魅力を探る活動を中心に、学習活動を進めた。世界中から観光客が訪れる富士山はどのようなところで、どのような魅力があるのかを地図や周辺施設などの資料から考えた。
- ・具体的に調べてみたいことを絞り込み、それを課題として設定して調査活動を進めた。活動に際しては、市内の図書館から本を借りたり、学習者用コンピュータを活用したりして情報を集めた。
- ・現地でどのようなことを学べるか、どんなことを調べるかについて集めた情報を整理することで、見通しをもつことができた。
- ・初めての宿泊行事にあたり、部屋の片付け方、布団の後始末の仕方、風呂場・脱衣所での注意点など、集団生活のきまりやマナーについて学んだ。

2 事後の学習内容

- ・宿舎での生活や3日間の学習活動を通して、生活面や行動面で学んだことと自分自身の成長をしおりに記述し発表し合った。互いの学びや成長を共有することで、共同生活に対する考え方や適切な過ごし方などについてより深く振り返り、学校生活にも生かしていこうとする気持ちをもつことができた。
- ・各児童が設定した課題学習に対し、学んだことや新たな発見を学習者用コンピュータでスライドにまとめ、学習の成果として交流を図った。
- ・学習したことを、来年4年生になる現在の3年生にも伝えたいという思いから、「プレセカンドスクール発表会をしよう」という活動を設定した。学級内でグループに分かれ、3年生にプレセカンドスクールで見学する場所の概要や魅力、共同生活の様子を伝えるため、スライドへのまとめ方や話す順番など発表の仕方を工夫し、発表会を行った。

〇特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 富士山御中道コーストレッキング

五合目から行うトレッキングでは、雲や地面、植物の様子の変化について注目させた。天候にも恵まれ、頂上へ向かう山肌やすそ野の樹海の広がりにも注目して、熱心に観察していた。

トレッキングでは、足元がふだん見慣れた地面とは違うことや、木々が外側に向かって反りながら生えていることなど、気付いたことをそれぞれ口にして、情報を共有しながら歩いた。低木やコケ類、キノコが厳しい環境の中で生育していることを、実感をもって学習することができた。



【御中道コースのトレッキング】

2 青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見学

青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見学をネイチャーガイド6名同行の下、行った。樹海ハイキングでは、ガイドから植物の生育のしくみと、それらを食料として生きる動物の生態について詳しく説明を受けた。動物や樹木だけでなく、朽ちた木、キノコ類、コケ類、シダ類や微生物など全てが互いに関係しながら豊かな自然を育んでいるということを知り、自然を大切にしたいという意識を高めていた。富岳風穴の見学では、溶岩棚や縄状溶岩など、自然の織り成す世界に驚いていた。

3 紅葉台・三湖台ハイキング

紅葉台の入口から三湖台にかけて整備されたコースを歩いた。展望台からは富士山と青木ヶ原樹海、西湖、本栖湖、精進湖などが一望できた。児童は、事前学習やネイチャーガイドの説明で身に付けた知識をそれらの位置関係から確認し合っていた。



【三湖台から眺める青木ヶ原樹海】

<社会体験活動>

1 山梨県立富士湧水の里水族館、森の学習館

湧水の里水族館では、富士山周辺の多くの動植物が展示されていた。自然に近い環境を整えた回遊水槽や流水水槽の中で泳いでいる魚についての説明を聞き、その後、館内を自由に見学した。児童は様々な角度から観察や調査を進めていた。

森の学習館では、富士山周辺の動植物についての説明を聞いた後、動物のはく製を触ったり薬草の匂いを確かめたりするなど実物に触れ、富士山周辺の環境に対して理解を深めていた。



【はく製を触る児童】

2 富士山レーダードーム館

富士山レーダードーム館ではグループに1枚ずつワークシートが配布され、館内展示に示されている問題の答えを探しながら学習を進めることができた。クイズを楽しみながら、富士山レーダードームが必要とされてきた理由や、気象などに関して理解を深めていた。答えが展示資料の中に必ず説明されていたので、児童は説明をよく読みながら情報を集めていた。

3 富士山世界遺産センター見学

富士山世界遺産センターでは、北館と南館に分かれ見学した。北館ではクイズに答えながら富士山の自然について学習した。南館では、ガイドからの説明をグループごとに聞いた。世界自然遺産ではなく世界文化遺産に登録された経緯について分かりやすい説明を受け、興味をもって聞いていた。

○児童の感想

- ・地域の人々が富士山の自然を守っていたこと、これからも守っていこうとしていることがよく分かった。これからは、富士山だけでなく、他の山や森、近く of 自然を守っていこうと思った。
- ・富士山の五合目を歩いて頂上を見上げたり、富岳風穴のでき方を知ったりして、自然の素晴らしさを感じた。
- ・初めてこんなにたくさん歩いて大変だったけれど、頂上につくと、三湖台から見る湖や富士山がとてもきれいで、最後まで登り切ることができてよかったと思った。
- ・プレセカンドスクールを通して、5分前行動をしたり、時間を守って行動したりできるようになった。集団で生活したことで、公共の場所での過ごし方を学ぶことができた。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・セカンドスクールでは「魚沼市について調べよう」というテーマに沿って一人ひとりが課題を決め、現地でグループに分かれて調査活動や発表を行う。ファーストスクールと異なり、現地学習では、学習形態が状況や内容に応じて変化したり、計画の見直しが必要になったりする。第4学年から「事前学習ー現地学習ー事後学習」という大きな学習の流れをおさえ、次年度のスムーズな学習活動につなげる。
- ・プレセカンドスクールでは教員も含めて全員が一つの宿舎で生活をするのに対し、セカンドスクールでは分宿となる。プレセカンドスクールでは、荷物の整理整頓、入浴や食事、就寝前の過ごし方など生活面に関する知識を身に付けさせるとともに、教師が教えるだけでなく、児童同士での話し合いによる課題解決の場面も積極的に設けた。児童が自分たちの力で班の全員がよりよく生活するための工夫を考えていけるようにする。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・児童の「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査の結果、「生きる力」は事前から事後にかけて146ポイント向上した。中でも、武蔵野では体験できない自然体験を多く取り入れたため、身体的能力のポイントが特に向上したと考えられる。また、初めての宿泊を伴う校外での学習であり、公共の場所で活動したり友達と多くの時間を過ごしたりしたため、話をよく聞き、その場にふさわしい行動を考え、互いに声を掛け合いながら生活する必要性が生まれた。それらを意識して過ごしたことで協調性などが育まれ、心理的・社会的能力のポイントも向上したと考える。今年度の体験活動を次年度も引き続き取り入れていきたい。
- ・前年度の反省を生かし、個人の課題の調べ学習だけでなく、当日見学する施設や見学場所について事前に調べることで、現地で学ぶことを明確にすることができ、見通しをもって学習を進めることができた。
- ・今後、児童数が増加するにあたり、サービスエリアでの休憩時や樹海ハイキングなど広い範囲での活動に際して教職員間や現地機関との十分な打ち合わせを行い、安全面に配慮する必要がある。

第二小学校

山梨県南都留郡山中湖村

10月4日～10月6日(2泊3日)

参加人数 男子39名 女子38名
計77名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山での自然体験を通して、富士山の自然についての理解を深め、自然を大切にする態度を育てる。
- ・山中湖村のことについて様々な観点から自ら進んで課題をもち、事前に調べ学習を行い、体験活動を行うことによって、課題解決能力を育てる。
- ・自然観察や施設見学を通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・宿舎での集団生活や行動班での活動の中で協力し合う力を育てる。

○日程表

10月4日(火)		10月5日(水)		10月6日(木)	
7:30	校庭集合	6:00	起床	6:30	起床
7:35	出発式	6:30	朝会・体操	7:00	朝会・体操
7:45	バス出発	7:00	朝食	7:30	朝食
10:40	忍野八海散策	9:40	富岳風穴・氷穴	8:15	持ち物用意・部屋の整理
11:20	ほうとう作り体験		樹海ハイキング	9:15	閉校式
	昼食(ほうとう)	12:00	昼食(宿舎)	10:30	ぶどう農業体験
13:45	ネイチャーラリー	14:00	富士山レーダードーム館	12:45	昼食
16:00	宿舎着	16:20	入浴	13:30	ぶどう畑登
16:05	開校式		学習のまとめ	16:00	学校着、解散式
16:50	入浴	18:00	夕食		
18:20	夕食	19:00	室内レク		
19:00	室長会議	20:00	学習のまとめ		
19:20	星空観察	20:20	室長会議		
20:00	学習のまとめ・葉書書き	21:00	就寝		
20:30	明日の準備				
21:00	就寝				

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・初めての宿泊学習のため、実踏の様子を写真で見ながら、活動内容について見通しをもった。
- ・プレセカンドスクール実行委員会を開き、プレセカンドスクールのスローガン(目標)を決めた。また、そのスローガン達成のために班の役割を決め、各自で準備を行った。
- ・富士山とその周辺の特色ある自然、忍野八海や山梨の郷土料理などの文化、ぶどう農家の産業など、実際に行く場所や体験する内容について項目ごとに本や図鑑、インターネットを使って調べた。それにより、関心意欲が高まり、知識が深まった。
- ・自然、文化、産業の中から特に調べたいテーマを決め、現地で調べる内容やインタビューの計画を立てた。

2 事後の学習内容

- ・事前学習や現地での体験活動を通して興味・関心をもった事柄について、模造紙を使って説明するなど個々の課題の形式に合わせてまとめた。そして、それらを基に発表会を行った。
- ・3年生にプレセカンドスクールについて紹介する発表会を、グループのテーマごとに行った。来年度初めて行く宿泊学習がどういった内容か、3年生が見通しをもてるような発表にした。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 樹海ハイキング(風穴～樹海ハイク～氷穴)

富岳風穴では、洞窟内外の気温差を体感し、天然の冷蔵庫として活用されていたことを、体で感じながら理解することができた。樹海ハイキングではネイチャーガイドの方の話を聞きながら、樹海の特徴である原生林の様子や、特有の地形や植物について学ぶことができた。また、富士山の噴火の歴史を、溶岩の様子や地形の変化から実感し、学びながらハイキングすることができた。

2 ネイチャーラリー

現在の暮らしから原始時代の暮らしに遡り、自然の中で生きていくために必要なことをゲーム形式で体験した。頭と体(五感)を使って自然の理解を深めることができた。また、生活班の友達と知恵を出し合って、互いに協力しながらゲームをクリアすることで、友達と協力して活動する力を身に付けることができた。



【ネイチャーラリー】

＜社会体験活動＞

1 忍野八海散策

忍野八海マップを配布し、学習班ごとに八海散策を行った。それぞれの池の名前や由来、歴史などについて掲示板に書かれている内容を読んでメモしたり、事前学習で調べた内容からそれぞれの池の違いを自分の目で確かめたりすることで、池の美しさを実感していた。

2 富士山レーダードーム館

富士山レーダードーム館では、防災・気象観測の歴史について学ぶことができる展示があり、メモを取りながらすすんで学んでいた。また、富士山頂の寒さを体験し、今までに体験したことのない寒さを肌で実感することができた。クイズラリーでは、生活班で協力しながら楽しく学ぶこともできた。

＜生活・文化体験活動＞

1 ほうとう作り体験

地元の方々に丁寧に教えていただきながら、郷土料理であるほうとうの麺を作る体験を行った。仲間と協力してほうとうを作ることができた。また、食後にまとめの時間をとったことで、ほうとう作り体験で学んだことを振り返り、体験の感動をすぐに記録することができた。



【ほうとう作り】

2 ぶどう農業体験

勝沼のぶどう畑における農業体験では、収穫・草取り・かさ拭き体験を行った。事前学習でも子どもたちは熱心にぶどうについて調べていたため、農家の方の普段どのような思いや願いから仕事をしているのかについての話も、興味・関心をもって聞いていた。収穫体験では、房が落ちないように、互いに手伝いながら収穫することができた。また、かさ拭きや草取りなども、グループごとに協力して、意欲的に取り組んでいた。

○児童の感想

- ・自分たちで協力して一生懸命作ったほうとうは、味も染み込んでいて、野菜はやわらかく、麺は一つ一つが大きく太く、優しい味がして作ったかいがあったなと思った。
- ・富士山レーダードーム館では、友達と協力してクイズラリーができた。また、噴火したときにどうしたらよいかなど、防災について学ぶことができて勉強になった。
- ・ホテルでは、生活係の子が整理整頓しようと声をかけたり、布団の片づけ方を教えてくれたりした。室長は室長会議のときの話をしてくれて、困っている人の手伝いもしていて、みんな協力して頑張ることができた。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

自分の身の回りのことは自分でしようとする姿が見られた。また、係として仲間に声をかけたり、しおりを見て次の予定や時間を意識したりするなど、見通しをもって行動することの大切さを強く感じていた。「協力し合う大切さ」については、協力することで活動に気持ちよく取り組みめるだけでなく、楽しさを共有できることで、より多くの感動やよい経験を積むことができることなどを実感していた。5年生のセカンドスクールでは宿泊形態が異なり、分宿となる。プレセカンドスクールで培った「自立心」と「仲間との協力」を基に、セカンドスクールも仲間と共に成功させたいという意欲が高まった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度は、初めて忍野八海散策を取り入れた。行動班ごとにゴールの菖蒲池に向かって、地図を見て相談しながら歩くルートを考えることができた。また、事前学習から課題を解決する時間も設けることができた。ネイチャーラリーも、行動班ごとに知恵を出し合い、自分たちの力でクリアしていくことができた。原始時代に自然の中で生きていくためには、様々な困難があったということ、一方で現代の生活のしやすさなど、実際に体験することで理解することができた。また、子どもたちの提案により、「安全・協力・感謝・真剣・楽しむ」という5つの目標をクリアしようというスローガンを作成した。毎日、この5つの振り返りをしたりめあてを決めたりするなど、自分の目標を定めて3日間、ただ楽しむだけでなく、規則を守って生活しようという姿勢が見られた。今後の学校生活に生かせるような生活ができた。

子どもたちの「生きる力」を測るアンケート結果から、樹海散策、ネイチャーラリーでの自然体験活動、3日間の規則正しい生活などの活動が、身体能力の向上につながったことが分かる。また、普段できない様々な体験を経て、得意なことや苦手なことを感じ取ることができ、自分自身を客観的に見る機会につながった。今後も自分自身の課題に向き合い、学校生活の中で様々な経験を積み重ねることを継続し、できることを増やしていく必要がある。

第三小学校

新潟県南魚沼市

6月1日～6月3日(2泊3日)

参加人数 男子34名 女子36名
計70名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然や文化とのふれあいを通して、豊かな情操や感性を育む。
- ・自然と人間との共生、自然保護の必要性、自然に対する畏敬の念などについて体験を基に、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・友達同士で、適切に意見交換を行いながら試行錯誤を繰り返すことを通して、課題を解決する力を育てる。
- ・課題解決したことを伝え合うことにより、学び合い、新たな課題を解決していこうとする力を育む。
- ・現地の方との触れ合いを通して、豊かな情操や感性を養い、お世話になっている人への感謝の気持ちを育む。
- ・自然体験や人との関わりから学んだことを、今後の学習や生活に生かしていこうとする態度を育てる。

○日程表

6月1日(水)		6月2日(木)		6月3日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:15	学校出発	7:30	朝食(おにぎり作り)	7:30	朝食
11:15	南魚沼市到着	8:00	朝会	8:00	朝会
11:30	開校式	9:00	上越国際スキー場トレッキング	9:00	塩沢つむぎ機織り体験
12:00	各民宿あいさつ	11:30	昼食(十日町展望台にて)	10:00	牧之通り散策
12:30	昼食(弁当)	14:00	座禅体験	12:00	昼食
14:00	農作業体験	16:00	交流会準備	13:00	閉校式
16:30	ぬか釜体験	16:30	入浴	13:30	南魚沼市出発
17:30	入浴	18:00	夕食	16:30	学校到着
18:00	夕食	20:00	交流会		
20:30	学習の記録・健康観察	21:30	消灯		
21:30	消灯				

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、プレセカンドスクールに参加する目的を学年で確認した。事前学習で調べたことを確かめること、実際に見学したり、活動したりすることで得た知識や学びを今後の生活に生かすことなど、明確な目的をもって参加することでより有意義な時間になることを伝えた。
- ・南魚沼市の自然や気候、特産物などについて学習者用コンピュータを活用して調べた。
- ・班長、副班長、生活係、学習係、交流会係などの役割を分担し、責任感をもたせることで積極的に活動できるようにした。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールを終えて、自分自身や学年としての成長をしおりに書いた。また、それらを共有した。
- ・学習と生活の振り返りを行い、学習に関しては、実際に行ってみて分かったことをプレゼンテーションに加えた。生活に関しては、今後の生活に生かしていくことを確認し合った。
- ・来年度、プレセカンドスクールに行く3年生に向けて「プレセカンドスクールを伝える会」を開いた。テーマごとにグループに分かれて発表内容を考えた。
- ・「プレセカンドスクールを伝える会」では、発表の仕方を工夫した。紙芝居、劇、プレゼンテーションなどの発表方法から選び、テーマに適した方法で発表することができた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 上越国際スキー場トレッキング

上越国際スキー場トレッキングでは、南魚沼の自然の様子を上から眺めることで、山に囲まれている緑豊かな地形であることに気づき、地形への理解を深めることができた。トレッキングの途中で多くの自然に触れ合うことで豊かな感性を育むことができた。展望台を目指して最後まで歩き、やり抜く力を育てた。



【トレッキング】

<社会体験活動>

1 農業体験

宿の方に教えてもらいながら、土を耕したり、野菜の苗を植えたりした。農業機器の使い方を知り、実際に体験した。暑い中、たくさん体を動かし、農家の方の大変さや苦勞を感じることができた。

2 お世話になった宿の方と指導員への交流会

「交流会」では、お世話になった宿のお父さんとお母さんに喜んでもらえる会にしようと考え、宿の方にも楽しんでもらえるゲームを企画したり、感謝の気持ちを伝えたりした。宿泊体験を支えてくださる方々の存在を知り、感謝の気持ちを表現する大切さに気付くことができた。

<生活・文化体験活動>

1 座禅体験

龍澤寺の座禅体験では、住職から座禅の基本や組み方を教わり、静寂の中で精神を落ち着かせる体験をした。上杉謙信とゆかりある寺である龍澤寺の歴史を感じ、日本文化に触れることができた。

2 塩沢つむぎ機織り体験

塩沢つむぎ機織り記念館でつむぎ機織りの体験を行った。完成するまでの工程を知り、多くの時間と労力がかかることに気付いた。実際に機織りの体験をすることで、機織りをしている方々の大変さを感じることができた。生きている蚕に触れたり、展示を見たりし、伝統工芸への理解を深めた。



【塩沢つむぎ機織り体験】

3 牧之通り散策

地元のガイドの方に雪国の暮らしや工夫を教えてもらいながら、牧之通りを散策した。昔使われていた道具を見たり、雪国ならではの生活の知恵を知ったり、土地の特徴について理解を深めたりすることができた。

○児童の感想

- ・ プレセカンドスクールの前は、自分の意見をなかなか言えなかったけど、班長としてみんなをまとめられるように声を掛け、意見を言うことができた。すごく成長できたと思う。
- ・ 同じ宿の友達と仲良くなれた。生活係としてみんなが気持ちよく生活できるように頑張った。ありがとうと言われてうれしかった。
- ・ 今まで南魚沼市に行ったことがなかったけれど、南魚沼市が大好きになった。宿のお父さんお母さんがとても優しくて、自分も宿のお父さんお母さんみたいになりたいと思った。
- ・ 南魚沼市へ行く前は、自分たちで生活できるか不安で緊張していたけれど、友達と協力して生活することができて、自信になった。自分の生活を支えてくれる家族の大変さが分かった。
- ・ また来年もセカンドスクールで南魚沼市に行けることが楽しみだ。成長したところを宿のお父さんお母さんに見てもらえるようにこれからも頑張りたい。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・事前学習として、地図帳を使って南魚沼市までの行き方や地形の特徴を確認していた。バスから眺める景色、トレッキングコースで触れる自然などから、事前に学んだことを実際の体験と結び付けることができた。今回のプレセカンドスクールで体験したり感じたりしたことを基に、課題を設定し、さらに調べることを通して来年度のセカンドスクールの意欲と学習に繋げる。
- ・宿の方や生活指導員に助けられながら、自分たちで協力して生活することができ、大きな自信になった。人の温かさに触れる経験を通して、自分の生活を支えてくれている人々の存在に気付き、感謝の気持ちをもつことができた。来年度のセカンドスクールでは、日々の行動や交流会などでその気持ちをさらに伝えることができるようにする。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケートの調査結果では、全ての項目において、数値が向上した。プレセカンドスクールでの体験を通して、お互いのことがよく分かるようになり、協調性や思いやりが育まれた。声を掛け合って自立して生活しようとする態度も多く見られ、できることを増やし、自信を付けることができた。
- ・全体的に余裕のある行程を組んでいたため、南魚沼市の自然を感じながら各宿でのびのびと過ごした。宿の方や指導員、子ども同士で触れ合う時間を多く取り、仲を深めることができた。
- ・今年度はプレセカンドスクールを6月に実施したため、時期の問題で田植え体験の代わりに農業体験を行った。田植え体験を行うためには、遅くとも5月の中旬ごろに実施することが望ましい。活動に応じて実施時期を検討する必要がある。

第四小学校

群馬県利根郡片品村

9月7日～9月9日(2泊3日)

参加人数 男子45名 女子24名
計69名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・人や自然と豊かにかかわる。
- ・体験を伴った知識、技能を習得する。
- ・現地に関心をもち、調べたいと思う課題を見付ける。
- ・多様な方法を用いて課題を追求し、自ら解決する。
- ・宿泊活動を通して、自立した生活ができる。
- ・相手を思いやる心、コミュニケーション能力を伸ばす。

○日程表

9月7日(水)		9月8日(木)		9月9日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:00	学校発	6:50	朝食	6:50	朝食
12:00	みのり農場 到着(昼食)	8:30	全員集合・マイクロバスで移動	7:30	花咲地区の自然観察
12:50	農業体験(みのり農場にて)	10:00	鳩待峠 着・ハイキング準備	8:00	荷物整理・大掃除
	①野菜収穫体験		尾瀬の自然体験(ハイキング)	9:30	郷土料理体験(ひつつみ)
	②採れたて野菜の試食	12:30	昼食(山の鼻)	11:00	昼食
15:00	みのり農場発・花咲地区着	13:00	尾瀬の自然体験(ハイキング)	12:15	閉校式
15:30	開校式	14:45	鳩待峠 着		感謝の会
16:00	宿の方との顔合わせ会	15:50	尾瀬の自然学習(ぶらり館見学)	13:00	花咲地区発
	花咲地区についての学習	16:45	各宿 着	16:00	学校着
17:00	入浴	17:00	入浴	16:15	帰校式・解散
18:00	夕食	18:00	夕食		
20:00	ふり回りタイム	20:00	ふり回りタイム(感謝の会準備)		
20:30	就寝準備	20:30	就寝準備		
21:00	消灯・就寝	21:00	消灯・就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・群馬県利根郡片品村や尾瀬の自然について、学習者用コンピュータを活用した調べ学習を行った。個人で、「尾瀬の自然や植物」や「片品村の特産物」などの課題を設定し、実際に訪れ

た際により深く調べる学習計画を立てた。調べた情報をメモにまとめ、学級ごとに共有した。

- ・しおりを活用する方法やプレセカンドスクールにおける班や個人のめあて、またスケジュールや持ち物について、学年全体でオリエンテーションを行い丁寧に確認した。
- ・班長や各係を決めて、役割ごとに集合して、係打ち合わせを行った。児童全員が見通しをもって取り組むことができるように、プレセカンドスクールを通して取り組む目標を係ごとに設定し、各班がその目標を共有することで宿での過ごし方や活動時の約束を決定した。
- ・集団での宿泊に関する心構えや約束事について3日間の流れを確認しながら各学級で話し合い、学級全体の目標を立てた。学級ごとに目標を共有して、学年全体の目標を設定した。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの3日間で体験したことや感じたことを振り返り、作文にまとめた。
- ・プレセカンドスクールでの思い出を五・七・五に表し、学校便り「だいし」に掲載した。
- ・プレセカンドスクールに対する3年生の興味・関心を高めることを目的として、Google ドライブで共有した写真を活用して、現地での体験や発見についてポスターづくりに取り組んだ。
- ・学習者用コンピュータで作成したポスターを廊下に掲示をして全校に成果を報告した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 農業体験

みのり農場にて、農家の方の仕事に関する学習と、収穫体験を2グループに分かれて行った。

農家の方に農場全体を案内していただき、通常より高く設置された太陽光パネルの下に野菜栽培する「ソーラーシェアリング」という取組について理解できた。また、じゃがいもとトマトの収穫体験を通して、農家の方が心を込めて育てていることや収穫の大変さを感じることができた。活動全体を通して、自然との共存や土・水の大切さ等を理解することができ、児童にとってよい学びとなった。



【トマトの収穫体験をする様子】

2 尾瀬の自然体験・尾瀬の自然学習

2日目には、尾瀬自然ガイドの案内で、尾瀬の自然を散策した。ガイドから尾瀬の植物や、四季による植物の変化などについて話を聞きながら散策でき、児童は武蔵野市とは違う自然のよさを体全体で感じながら、初めて見る生物への興味・関心を高めているようだった。また、理科の「季節と生物」の学習で学んだ季節による植物の変化を見て、学びを深めることができた。雨が降る中での散策となったが、



【尾瀬ヶ原を歩く児童の様子】

昼食地点である山の鼻に到着した時には、雨が止み、景色を楽しみながら、昼食をとることができた。帰路は、上り坂が続いたが、班員同士で励ましの声を掛けたり、手を取り合ったりしながら、全員無事に鳩待峠まで歩くことができ、達成感を共有することができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 花咲地区の地域散策

3日目の朝には、宿ごとに宿のお父さんやお母さん、指導員と共に、地域散策を行った。児童が住む武蔵野市とは全く異なる街並みや、宿のお父さんやお母さんが育てている畑を見学したことによって、地域による暮らしの工夫や違いについて実感することができた。どの宿でも指導員や、宿のお父さんやお母さんの話をよく聞いて行動する姿が見られ、気付いたことを友達と語らいながら、散策を終えることができた。



【指導員と共に地域散策をする様子】

2 郷土料理体験

「ひつつみ」という言葉については事前学習で多くの児童が理解していたが、実際の作り方や、小麦粉そのものをこねて作るという体験は、ほとんどの児童が初めてであったため、活動中は、歓声や驚きの声が多く聞かれた。ボウルに入った小麦粉をこねる、形を整える、鍋の中に入れるという過程を中心に進め、宿のお父さん、お母さんが各班に手助けをしてくださりながら、安全に楽しく取り組む様子が見られた。



【ひつつみ作りに取り組む様子】

自分たちが作ったひつつみを食べている表情はどの子も充実しており、自分で作ったものを食べている達成感や、仲間と協力しながら取り組んだことによるおいしさをかみしめながら、何度もおかわりをする児童ばかりで、温かい雰囲気の中で体験活動を終えることができた。

○児童の感想

- ・この3日間を通して、仲間と共に時間を意識できたり、自分の身の回りの物を整理整頓することができたりするようになりました。
- ・この3日間で、尾瀬の大自然をいっぱい見て、友達や指導員の先生たちと宿で生活して、今まで気付かなかったことに気付けるようになったと思います。そして、プレセカンドスクールで協力してくれた人たちや仲間に、感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・ハイキングでは、ガイドさんから尾瀬の木道は、電力会社や福島県・群馬県などによって作られたと聞いて、いろいろな会社や県が協力していることに驚きました。また、見たことの

ない植物についても詳しく教えてくれてとても楽しかったです。ハイキングを通して、友達との絆が深まったことが何より最高の思い出です！

- ・トマトの収穫体験をするときに農場のお母さんが選び方を教えてくれました。どれよりも真っ赤な色をしたトマトを探して収穫し、家に帰ってみんなで食べた時、「まるでフルーツのようだ！」と感じ、おいしかったです。いろいろな工夫や知識を知っている農家の方は、すごいなと思いました。
- ・宿でひつつみを作りました。水が多すぎるとべとべとになると聞いて、慎重にやりました。みんなで頑張って作ったら上手にできました。1日目の夜ごはんで出たひつつみ汁もおいしかったけれども、みんなで頑張って作ったひつつみは感動するほどおいしかったです。東京では味わえない自然に出会え、本当によい経験ができました。尾瀬に行き、尾瀬にしかない物や人に出会えたことが本当によかったです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールの前段階として、分宿制を取り入れ、宿泊体験をすることで宿の方々とのふれあいを大切にしようとする心情や、一人一人が見通しをもって計画的に行動しようとする力、集団生活でのマナーやルールを意識して行動する態度を育むことができた。基礎的な集団生活を今後も継続して指導し、セカンドスクールに向けて、自分たちで課題意識をもって取り組んだり、学習したことを基に課題を発見して主体的に調べたりする態度の育成につなげたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・プレセカンドスクール実施前後の子どもたちの「生きる力」を測るアンケートでは、「心理的・社会的能力」と「生きる力」が100ポイント程度向上していた。これらは、農業体験や、尾瀬の自然体験・自然学習などで仲間と協力して活動に取り組めたことや、収穫体験など実際に体験できる活動を例年よりも多く確保できたからだと言える。
- ・尾瀬自然ガイドの方が、班ごとに付き添い、説明をしながら自然体験ができたことで、進行が大変スムーズで安全を確保できた。次年度も現地講師と連携しながら取り組んでいく。
- ・みのり農場での農業体験は、実地踏査の際に、現地担当者と綿密に打ち合わせができていたことで、急な雨の時の対応や、グループごとの収穫体験が計画的に行えた。児童の実態に合わせて体験と説明を適宜組み合わせながら行っていたため、児童が自然に質問をしたり、意欲的に活動に取り組んだりと充実した内容にすることができた。
- ・雨天時には尾瀬の自然体験（ハイキング）が実施できず、プレセカンドスクール全体を通して自然の美しさや雄大さに触れる機会が大きく減少されることや、活動地までバスで片道4時間程度かかるため、初日と最終日の活動時間が制約されてしまうことが課題である。
- ・総合的な学習の時間を用いた事前学習は、児童の興味・関心を高めることに効果的であったが、調べ学習に集中してしまい、学習を基に情報を整理・考察することに課題が残った。
- ・以上2点から、第4学年の学習に関連付けた体験活動がより可能な実施地に変更し、児童の学習意欲をさらに高め、学習した内容をより深めることができる内容を計画していきたい。

第五小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月21日～9月23日(2泊3日)

参加人数 男子45名 女子36名
計81名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山周辺の自然や動物、食べ物などについて調べたり、体験したりする活動を通して、富士山を含めた山中湖近辺の自然について、理解を深める。
- ・宿泊生活や体験的な活動を通して、生活自立に必要な知識・技能を身に付ける。
- ・富士山周辺と武蔵野市の環境の違いなどに気付き、私たちの生活を支えてくれる人や自然について学びを深める。
- ・宿泊生活や体験的な活動への目標や課題を設定し、協力して取り組む。
- ・自他のよさを生かしながら、協力して問題の解決に向けた探求に取り組もうとする。
- ・友達と協働し、よりよい生活をつくろうとする態度を養う。

○日程表

9月21日(水)		9月22日(木)		9月23日(金)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床・洗面	6:30	起床・洗面
8:00	学校発	7:00	朝の会・朝食	7:00	朝の会・朝食
10:00	富士山レーダードーム	8:55	ネイチャーラリー	8:15	大掃除・荷物整理
11:00	富士山アリーナ昼食	11:00	昼食(宿舎にて)	9:20	閉校式
12:30	富士山トレッキング	12:00	さかな公園見学	9:50	宿舎発
16:00	宿舎着	13:30	交流プラザきらら 写真撮影 (芝生広場散策)	10:10	忍野村着・ほうとう作り体験
16:40	学習のまとめ 入浴	15:00	宿舎着	12:00	昼食(手作りほうとう)
18:00	夕食	16:00	学習のまとめ 入浴	12:45	忍野八海見学着
19:00	星空観察	18:00	夕食	13:20	忍野村発
20:00	健康観察・係会議・班会議	19:00	室内レク	15:30	学校着・帰校式
21:30	就寝	20:00	健康観察・係会議・班会議		
		21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の学習として、「プレセカンドスクールを楽しもう～自然との触れ合い～」をテーマとし、富士山や山中湖、忍野八海などに関する課題を設定し、調べ学習を行った。
- ・インターネットや図書資料などを使って調べたことを、プレセカンドスクールマイガイドブックとしてまとめた。

2 事後の学習内容

- ・体験したことや学んだことなどを新聞にまとめ、全校に発信し、学年内で交流した。
- ・反省や感想を出し合い振り返る活動を通して、今後の学校生活に生かしていきたいことやセカンドスクールに向けて身に付けた力をつなげていくことをまとめた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 富士山五合目見学

富士山五合目ではガイドの方から、五合目周辺における富士山の動植物、景観、地形、地質等について話を聞いた。山の下とは違う冷たい空気を体感し、実際に目の当たりにすることで、富士山の自然環境について学ぶことができた。



【五合目トレッキング】

2 ネイチャーラリー

8つのコーナー（やり投げ、竹ポックリ、魚釣り、動物の足跡、丸太切り、重さ当て、目隠しロープ、サイレントウォーク）を班ごとにまわり、体を動かし体験することで、大昔の暮らし方を知った。野生動物と共に生きていくためにどうしたらよいのかを考えることができた。

3 富士湧水の里水族館、森の学習館

水族館では富士の湧水をつかった淡水魚専門の水族館で、イトウやニジマス、ヤマメなどの様々な魚を見学することができた。事前に調べた魚を実際に見て、その大きさに驚いたり、初めて知る魚に感動したりすることができた。富士五湖や周辺の川に住む魚へ理解や興味が深まった。森の学習館では、多くの生き物を育む森や自然の役割について学ぶことができた。

4 忍野八海見学

バスガイドの解説を聞きながら、クラスごとに世界遺産富士山の構成資産の一部として認定されている忍野八海を見学した。事前学習で忍野八海について調べている児童も

多く、作成したガイドブックの内容を実際にその場で確認することで、富士山が生み出す自然の偉大さに気付くことができた。

＜学習・生活体験活動＞

1 富士山レーダードーム見学

班ごとにタブレット型 PC を使って、AR コンテンツを視聴したり、富士山山頂寒さ体験をしたりした。クイズラリー形式で気象観測の歴史や富士山周辺の気候について学ぶことができた。



【富士山レーダードーム見学】

2 ほうとう作り体験

3つの民宿に分かれて山梨県の郷土食であるほうとうを作った。生地を混ぜ、捏ね、伸ばし、切るまでの工程を体験することで、郷土料理についての理解を深めた。地元の野菜がたくさん入った出来たてのほうとうを味わうことができた。



【ほうとう作り体験】

○児童の感想

- ・富士山トレッキングでは絶景が見られるだけでなく、植物の色々な不思議が分かった。
- ・ネイチャーラリーでは全てが楽しくて、なぜかサバイバル気分になった。
- ・ほうとう作りではめんの太さがばらばらになってしまったが、みんなで協力して作ったのでおいしかった。
- ・富士湧水の里水族館ではトンネルの中を歩いていると夢の中に入っているみたいで、色々な魚を見ることができてうれしかった。
- ・学年みんなで体育館で室内レクリエーションをしたことが楽しかった。レク係さんは、みんなが楽しく仲良くできるよう一生けん命考えてくれたのだなと思った。
- ・プレセカンドスクールをみんなで協力して過ごすことができて、高学年への自信がついた。
5年生のセカンドスクールにこの経験を生かしたい。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

「友情と協力を大切にし、感謝の心を持ち、自然を味わおう」というスローガンを考え、課題解決学習を行った。課題解決に向けた調べ学習や宿泊学習に向けた準備、計画、学んだことをまとめ、表現するまでの、一体的な学習の流れを体験することができた。

来年度のセカンドスクールに向けて、友達との集団生活の中で、係を一人一役担うことで、それぞれが自分の役割に責任をもつことができた。協力という面では、生活班や行動班な

ど班ごとでの活動を大切にすることで、みんなでできるようにと考えて行動する力が育った。互いの個性を認め合い、困ったときには助け合う姿が見られた。コロナ感染予防対策にも努め、体調管理も自分自身で行うことで、自分で考えながら生活することができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・現地のよさを十分に体験できるようなプログラムを実施することができ、自然観察の仕方を身に付けることができた。
- ・屋外での活動や宿舎での生活では、班や係ごとに活動する機会を多く確保でき、主体的に行動することができた。
- ・児童の「生きる力」を測る事前のアンケート調査の結果、目的を明確にして宿泊学習に参加したことで、学んだこと、できるようになったことが実感できたのではないかと考えられる。実感できたことは、自分がやってきたことへの自信につながり、事業後の自己評価は全体的なポイント上昇につながった。この経験をファーストスクールでの学習、来年度のセカンドスクールへとつなげていく。
- ・雨天が続くことも考慮し、晴天時と比べても内容的・予算的に遜色のない雨天プログラムを再確認しておく。

大野田小学校

山梨県南都留郡山中湖村

6月15日～6月17日(2泊3日)

参加人数 男子61名 女子51名
計112名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・プレセカンドスクールに向けて自分で知りたいこと、知らせたいことを決め、実際に体験し、さらに詳しく調べて伝え合う。
- ・学校で学んだことや日常生活ではできないことを体験して学びを深める。
- ・世界遺産の富士山周辺の自然に興味をもち、セカンドスクールにつながる自然観察の視点を育む。
- ・宿舎での生活を通して、友達と協力し助け合いながら生活する態度を育てる。
- ・保護者の元を離れる中で、自主的・自発的に生活する態度を育てる。

○日程表

6月15日(水)		6月16日(木)		6月17日(金)	
7:15	学校集合、出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:30	出発	6:30	朝会、体操	6:30	朝会、体操
	「自然の力強さと不思議さを感じ取ろう」	7:15	朝食	7:00	朝食
	1組	8:30	宿舎発	7:45	集合写真
10:00	駒門風穴	10:00	「よく見よう、じっと見よう、自然のつながり」	8:30	部屋の片付け、荷物整理
	昼食(駐車場にて)		西臼塚ガイドウォーク	9:00	「自然で作ろう、草木染」
13:00	世界遺産センター	12:00	昼食(水ヶ塚公園)	11:15	自由遊び(芝生広場)
14:30	生物多様性センター	13:00	公園出発	11:45	昼食
	2, 3組	13:45	A湧水の里水族館、B森の学習館	12:30	閉校式
9:30	生物多様性センター	14:30	A森の学習館、B湧水の里水族館	13:00	宿舎発
10:20	世界遺産センター	16:30	宿舎着	15:30	学校着、帰校式、解散
	昼食(駐車場にて)	16:50	班長会		
14:30	駒門風穴	17:00	学習のまとめ、ハガキを書く		
16:00	宿舎着、開校式	18:00	A入浴、B食事		
16:30	避難訓練	18:45	A食事、B入浴		
17:00	班長会	19:30	健康観察、荷物整理		
17:45	学習のまとめ(研修室に集合)	20:00	室内レク		
18:00	A入浴、B食事	21:00	就寝準備		
18:45	A食事、B入浴	21:20	消灯		
19:30	講師講和：生物多様性の話				
20:00	室内レク				
20:30	健康観察				
21:00	荷物整理、就寝準備				
21:20	消灯				

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてや、集団行動、集団生活のルール、公共施設利用のマナーについてしおりや資料を基に確認を行った。
- ・富士山の自然・文化・人々の暮らしなどをキーワードに調べ学習を行い、自己の学習課題や観察の視点をもった。またインターネットを活用して自分の学習課題を追究し、各自が新聞の形でまとめて伝え合った。
- ・やるべき活動が明確になり、責任感をもたせるようにするため、生活班の中で係分担をし、それぞれの係で集まって事前打ち合わせを複数回行った。
- ・草木染め体験を行うにあたり、絞り加工の方法や種類について調べ、絹のハンカチに絞り加工を施した。双方の地域のもつよさや特徴に目を向けられるよう、普段生活している武蔵野市と山梨県の伝統工芸を比べる活動を取り入れた。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールで学んだことを、班ごとに学習者用コンピュータを使ってスライドにまとめた。学校公開では保護者の方々にスライドの発表練習を見ていただき、良かったところや改善点のアドバイスを受けた。「スライドのまとめ方」「写真の見せ方」「話し方や目線」など分かりやすく伝える方法を意識しながら準備を行った。9月末に、次年度プレセカンドスクールに行く3年生に対して、プレセカンドスクールを通して学んだことや楽しさについての発表を行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 西臼塚火口とブナ林

今年は富士山の寄生火山である西臼塚火口とその周りのブナ林をトレッキングした。現地の講師の方から武蔵野市では見られない植物や噴火口の秘密、森に生息する動植物について話を聞いた。実際の噴火口の上にも立ち、自然の雄大さを体感することができた。



【西臼塚のトレッキング】

2 駒門風穴見学

1 日目に学級ごとに駒門風穴を見学した。駒門風穴は今からおよそ 1 万年前の噴火でできた溶岩洞窟である。事前学習で駒門風穴について調べていた児童も多く、自然が作り出した神秘的な空間に立ち、児童は驚きとともに感動していた。現地講師の説明を聞きながら見学できたため、その歴史や成り立ちに触れながら学びを深めることができた。

3 富士湧水の里水族館、森の学習館

コロナ禍ということで、全体を 2 グループに分け、時間交代でそれぞれの施設を見学した。また、各施設内でもグループを細かく分け、一か所にかたまらないよう工夫しながら見学した。富士山の湧水を使った淡水魚専門の富士湧水の里水族館では、職員の方の案内を聞きながら見て回った。流水水槽は、実際の川を再現しており、イワナやヤマメの様子を間近に見ることができた。森の学習館では、富士周辺の木の実や種子が集められていた。職員の方の説明を聞いたり、本校教員が作成したクイズラリーを行ったりして、展示物やその説明をじっくりと見ることができた。これらの見学を通して、自然の多様性や生態系についての理解を深めることができた。



【富士湧水の里水族館】

<生活・文化体験活動>

1 草木染体験

事前に絞り方について調べた。山梨県の特産品である絹のハンカチに割りばしや輪ゴムを使って、折折りや板締め絞りなど各自が模様を工夫して絞りを入れた。炊事場では、自分たちが武蔵野市で集め、乾燥させて持ってきたハルジオンやヒメジョオンを用いて、現地講師の方に染色液を作っていただいた。児童は、染色液にハンカチを漬け、水でよく洗い、媒染液であるミョウバン水に漬けるという工程を繰り返した。最後の工程を終えてハンカチを広げると、思いがけない模様の美しさに児童たちから歓声があがった。草木染の前には、講師の方から染色液の材料であるハルジオンが外来種であることや富士山の自然と外来種の問題について話があり、富士山の自然の生態系について学ぶことができた。



【草木染体験】

○児童の感想

- ・事前調べで駒門風穴が富士山の噴火で出た溶岩でできたことを知り、ずっと行きたいと思っていました。実際に行ってみるとその大きさ、洞窟内の涼しさにびっくりしました。
- ・湧水の里水族館では、普段あまり見たことのない川魚をたくさん見ることができました。トンネルのようにになっている水槽から、とても近くで魚を観察できて、魚の模様までよく見えました。
- ・3日間みんなで集団生活をするなかで、助け合う大切さが改めて分かりました。特に時間を守ることが大切だと思います。自分のことよりも、みんなで行動していると意識する必要があると強く思いました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・今年度は、「つなげよう・つながろう」をテーマとし、学習を進めた。事前学習の時からセカンドスクールや普段の学校生活につなげること、また自分たちの経験を3年生に伝えてつなげていくことを意識付けし学習に取り組むことができた。
- ・主に、自然観察の仕方や課題解決学習の学び方を積み上げた。現地で培った自然を視る目、味わう心はセカンドスクールの学習課題の調べ方や学んだことのまとめ方につなげた。
- ・友達との集団生活を通して、一人一人役割を担って活動する経験を積んだことにより、児童の自主・自立・協力の心を養うことができた。また、荷物の準備、5分前行動、部屋の整理整頓、宿泊活動時の感染予防など、生活上のルールやマナーを再確認するよい機会となり、セカンドスクールに向けて、自分はできるという自信と新たな目標をもつことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は大きかったが、密にならないように見学場所や宿舎での食事や部屋の人数などを変更して対応することができた。少ない人数で行動したことで、展示物などが見やすかった点は、とてもよかった。
- ・同じ講師の方が3日間付き添い、児童の様子をよく見ながら自然についてレクチャーしてくださったため、セカンドスクールにもつながる「自然を視る目」を養うことができた。
- ・児童に行った事前・事後の子どもたちの「生きる力」を測るアンケートでは、「すすんで何でも行う」「わがまを言わない」「自分で課題を見付ける」の項目で肯定的な意見が増えた。今回の集団生活を通じて、自ら行動する意識や課題解決学習における自立的に取り組む力が高まった様子がうかがえた。
- ・一方で、「暑さ、寒さに負けない」「疲れにくい」という項目においては、事前・事後に関わらずやや低い結果となり、本校児童の特徴であると考えられる。都会に住み、またコロナ禍もあって児童の自然と触れ合う機会の減少している中、プレセカンドスクールやセカンドスクールは得難い機会である。貴重な活動を行うためにも、基礎体力の向上や生活リズムを整えること、その意識付けを行うことは必要不可欠であると考えられる。

境南小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月28日～9月30日(2泊3日)

参加人数 男子58名 女子51名
計109名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然体験を通して、生息する動植物について理解すると共に、富士山周辺の自然に親しみ、自然の素晴らしさを感じる。
- ・富士山や山中湖などの自然について調べる課題を設定し、その課題を解決する。
- ・課題を解決するため、調査活動を通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・集団行動する中で、互いが気持ちよく過ごせるように、生活の約束を守り自分の責任を果たせるようにする。
- ・現地の方々と関わる活動を通して、宿泊地における諸課題を自分事として捉え、よりよい地域・社会づくりについて考える力を育む。

○日程表

9月28日(水)		9月29日(木)		9月30日(金)	
8:00	学校集合(出発式)	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔
8:30	出発	7:00	朝の会	6:45	朝の会
	調布ICより中央道へ	7:20	朝食	7:25	朝食
9:45	談合坂SA(トイレ休憩)	8:30	宿舎発	8:40	閉校式
10:30	鳴沢氷穴見学	10:00	富士山御中道トレッキング始	8:50	宿舎発
	青木ヶ原樹海ハイキング	12:30	富士山御中道トレッキング終	10:00	菱山共選場着
11:30	富嶽風穴見学		昼食	11:00	菱山共選場発
12:00	富嶽風穴発	13:30	奥庭駐車場発	11:40	ぶどう農園着
12:40	忍野八海着	14:30	宿舎着	12:30	ぶどう農園発
	昼食(弁当)、トイレ休憩		荷物整理・学習の振り返り	12:40	昼食
13:50	忍野八海発	15:00	草木染体験始	13:30	公民館発
14:15	ふじさんミュージアム着	17:00	草木染体験終	14:15	談合坂SA(トイレ休憩)
15:15	ふじさんミュージアム発		入浴、学習の記録、荷物整理	15:30	学校到着
15:50	宿舎着・開校式	19:00	夕食		帰校式
	入室・荷物整理・避難訓練		健康観察		解散
16:20	入浴、学習記録	20:40	就寝準備		
18:00	夕食	21:00	消灯		
	星空観察				
19:00	(宿舎内で講話を聞く)				
20:15	健康観察				
20:40	就寝準備				
21:00	消灯				

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・生活班の係ごとに事前打ち合わせを行い、やるべき活動を明確化させ、責任感をもてるようにした。
- ・国語科「世界にほこる和紙」「情報を百科事典で調べよう」「伝統工芸のよさを伝えよう」の単元と関連させ、富士山および富士周辺の魅力を伝えるリーフレット制作の見通しをもてるようにした。具体的には、まず、魅力を伝える文章の構成を「世界にほこる和紙」で捉えた。次に、「伝統工芸のよさを伝えよう」でリーフレットの構成や制作手順を確認した。さらに、「情報を百科事典で調べよう」では、情報収集の1つの方法として、百科事典の調べ方を学んだ。これまでの学習を踏まえて、児童はリーフレットのテーマを決めた。プレセカンドスクールでは、自分が決めたテーマの魅力を伝えるために、ふじさんミュージアムや富士山トレッキング、農業体験などから必要な情報を収集するという目的意識をもてるようにした。

2 事後の学習内容

- ・2学期の国語科「世界にほこる和紙」「情報を百科事典で調べよう」「伝統工芸のよさを伝えよう」の単元と関連させ、「ふじさんミュージアム」や富士山トレッキング、農業体験の体験から分かったことなどを生かして、リーフレットの制作に取り組んだ。リーフレットには、一人一人がプレセカンドスクールに参加した感想を書いた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 富士山御中道トレッキング

富士山五合目御中道において自然体験を実施した。現地ガイドの方より自然事象について、実物を見ながら教えていただいた。

植物の特徴の違いに注目することで、その富士山特有の生態系について、友達と意見を伝え合いながら考えたり、野鳥の鳴き声の違いを実際に耳にしたりする中で自然に興味をもち活動を進めることができた。また、森林限界を実際に目で見て確認することができた。

ガイドの方から示された問題を解決するために、グループ内で自分の考えを伝え合う活動が自然と生まれた。自然の成り立ちについて、考えを巡らせることができた。

以上のことから、ガイドの方とのトレッキングを通して、富士山周辺に生息する動植物について理解するとともに、富士山周辺の自然に親しみ、自然の素晴らしさを感じることができた。



【富士山トレッキングの様子】

2 鳴沢氷穴、富嶽風穴見学

風穴や氷穴のでき方や、寒冷な気温を利用して、昔は繭玉の保管に使われていたことなどの説明を受けた。外気との気温の違いを肌で感じることで、自然の冷蔵設備としても利用されていたことを体験的に学ぶことができた。

<社会体験活動>

1 草木染め体験

事前に絞り加工を行った。児童は、示された資料を参考に、布の絞り方を工夫した。どのように絞るとどのような模様になるのか考えながら活動を進めることで、互いの活動に興味をもち、話し合ったり、協力したりして作業することができていた。

染めの工程では、講師から草木染めの工程について説明を受けながら活動を進めた。セイタカアワダチソウを乾燥させ、煮出して作った染液の中にハンカチを入れる。その後、鍋から布を取り出し、ミョウバン水に漬けて色を定着させた。この工程を繰り返し、最後に絞り加工を外し、どのような模様が出来上がったのかを確かめた。出来上がった絞りの模様に、子どもたちは、嬉しそうな表情を見せていた。

染色工程の待ち時間には、講師から、今回使用したセイタカアワダチソウについての説明を受けた。セイタカアワダチソウは外来種の植物であり、外来種によって在来種が受ける影響や、富士周辺の自然環境の課題、外来種の活用の可能性などについて学ぶことができた。

2 共選場見学・農作業体験(ぶどうの収穫)

菱山共選場で、農家から収穫されたぶどうを仕分ける様子を見学し、市場へ出荷するまでの仕事について学んだ。ぶどうの品種や主な出荷先、等級の付け方などについて説明を受け、普段食べているものがどのようにして自分の手元に届くのかを考えるきっかけになった。

農業体験では、農家やJA山梨の方々に収穫の仕方を教えてもらい、ワイン用のぶどうの収穫を行った。美味しいワインができるように変色している実を切り落とす作業を手伝って農業の苦労や努力を身に染みて感じる事ができた。



【ぶどう狩りの様子】

<生活・文化体験活動>

1 ふじさんミュージアム

「ふじさんミュージアム」では、富士山信仰の起源と変遷や、歴史について、プロジェクションマッピングや様々な展示を通して、分かりやすく学ぶことができた。

富士山そのものについてだけでなく、富士北麓の風土から生まれた織物などの産業や食文化、祭りなどの文化について詳しく知ることができた。



【プロジェクションマッピングを見る児童】

○児童の感想

- ・富士山5合目トレッキングが心に残りました。遠くから見ると水色に見えていたのに、5合目を歩いてみると全然違う色でびっくりしました。
- ・草木染体験では、どんな模様になるか分からなかったのでワクワクしました。染めたハンカチを広げると想像とは違った模様ができていました。これが草木染の楽しみなのだなと思いました。
- ・ぶどう狩りがとても楽しかったです。自分で大きいぶどうを見付けて取ることに達成感がありました。そして、取ったぶどうが出荷されるということを考えると感動しました。
- ・プレセカンドスクールを通して、友達と協力して学習に励むことができました。生活学習係をやり、時間を意識して行動できました。プレセカンドスクールに行く前より5分前行動ができていたと思いました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

集団生活を通して、友達と協力することや生活の約束を守ることの大切さを実感させ、来年度のセカンドスクールに自信をもって臨めるように指導した。また、「自分のことは自分です」という意識をもたせ、身辺自立等の向上を促した。

今回学んだ学習課題の調べ方や表現方法は、セカンドスクールにも生かされると考えている。初めての宿泊体験に緊張や不安を抱く児童もいたが、プレセカンドスクールを通して、宿泊を伴う集団生活に対する自信をもつことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・初めての宿泊行事を通して、普段できない体験や自然との関わりができたことが、子どもたちの「生きる力」を測るアンケートの「心理的・社会的能力」のポイントが向上したと考える。
- ・生活班における係分担を通して、責任感や協調性が育まれ、「道徳的能力」が向上したと考える。また、集団生活のルールやマナーを再確認する機会となり、来年度のセカンドスクールに向けて児童が見通しをもつことができた。
- ・「ふじさんミュージアム」は、児童にとって理解しやすい展示内容があり、プロジェクションマッピングなど、児童の関心を高める展示の工夫もされていた。富士山やその周辺の歴史や文化を学ぶのに有効であった。
- ・富士山御中道のトレッキングでは、実物を目の前にしながら、動物や自然について体験的に学ぶことができた。事前・事後学習と結び付け、学んだことをリーフレット制作に生かす児童もいた。
- ・星空観察や草木染の講師の方の話には、児童にとって理解が難しい内容もあり、講話の内容については事前の詳細な打ち合わせが必要であると感じた。また、全体を通して体験活動を中心とした活動を増やすことで、さらに富士山周辺の自然に親しむことができるようにする。

本宿小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月5日～10月7日(2泊3日)

参加人数 男子28名 女子27名
計55名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然と調和して生きることの大切さや魅力への深い理解
- ・自然の美しさや力強さに感動する心
- ・自ら学びたいことを選び、追求したい課題を具体的に設定する力
- ・自分の課題を解決するための情報を集め、整理し相手に伝える力
- ・自分にできることを主体的に考え、人と協働する力
- ・自分の生き方や生活を見つめ、改善、向上させようとする前向きな姿勢

○日程表

10月5日(水)		10月6日(木)		10月7日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発	7:00	朝の会	7:00	朝の会
9:30	談合坂 SA (トイレ休憩)	7:30	朝食	7:30	朝食
11:00	青木ヶ原樹海ハイキング	8:30	宿舎発	8:30	部屋の掃除・荷物整理
12:30	昼食	9:50	富士山五合目	9:15	閉校式・宿舎発
13:30	富士山世界遺産センター	10:50	生物多様性センター	10:40	一久園(ぶどう狩り)
15:30	宿舎着・開校式	12:40	宿舎着・昼食	11:45	昼食
17:30	夕食	14:00	染物体験	13:30	談合坂 SA (トイレ休憩)
18:30	自然の話①	15:45	入浴・学習の記録	14:45	学校着・帰校式
19:15	入浴・学習の記録	18:15	夕食	15:15	解散
20:30	健康観察・明日の準備	19:30	自然の話②		
21:00	就寝・消灯	20:30	健康観察・明日の準備		
		21:00	就寝・消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクール実施前に、山梨県について知っていることを話し合い、初めて聞いた言葉や物について調べた。その後、自然と文化に分けて興味をもった課題について個人で調べ学習を行った。
- ・学年で、何のためのプレセカンドスクールなのか、その目的（めあて）を共有した。同時に宿泊や集団生活におけるルールやマナーについて指導した。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールを振り返り、自分たちが身に付けたことや学んだことをまとめた。
- ・プレセカンドスクールで学んだこと、これからの生活に生かしていきたいことを話し合い、テーマごとにグループを作って、さらに調べ学習を行い、スライド資料にまとめた。
- ・まとめたことを基に、児童集会で発表した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 青木ヶ原樹海ハイキング・「自然の話」

各クラスに現地ガイドが付き、青木ヶ原樹海の自然についての説明を聞きながらハイキングを行った。ここでは、青木ヶ原樹海の自然について学習し、樹海の特徴である溶岩の上に木がむき出しになっている様子や、溶岩樹形を眺めながら歩いた。リスが松ぼっくりを食べた跡など、動物の痕跡も見付け、天気が不安定であったが、自然の姿を実際に見る良い機会となった。

また、現地ガイドに宿舎に来ていただき、富士山周辺の自然についての講義を行った。昼間の活動と関連させて学ぶことで、より学びを深めることができた。



【青木ヶ原樹海ハイキング】

2 富士山世界遺産センター

クラスごとに北館と南館に分かれて見学した。南館ではグループごとにガイドが付き、丁寧な解説を聞くとともに、工夫された展示物等を見学することで興味をもって富士山が世界遺産に登録された背景について学ぶことができた。北館でも南館と同様に、富士山が世界遺産に登録された背景について学んだが、映像学習と班別自由見学によって、自分たちのペースで学ぶことができた。

＜社会体験活動＞

1 ぶどう狩り体験

ぶどうの狩り方や種類などの話を聞いたり質問したりした。実際にぶどうを狩る時に、農家の方が注意していることを実感しながら体験することができた。また、狩ったぶどうはおうちの方へのお土産になるので、子どもたちはおうちの方のために美味しそうなぶどうを選んでいった。

＜生活・文化体験活動＞

2 染物体験

事前に、ハンカチに割りばしや輪ゴムを使って様々な絞り加工を施して持って行った。「セイタカアワダチソウ」を使用して作った焙煎液にハンカチを漬け、水でよく洗い、ミョウバン水につけて色を定着させ、また水で洗う。この工程を繰り返し行い、最後にハンカチを広げて、浮かび上がった様々な模様を嬉しそうに見せ合う姿が見られた。「セイタカアワダチソウ」から美しい黄色が生まれることや、自然の力、染物の技術の素晴らしさを体験することができた。



【染物体験】

○児童の感想

- ・忘れてしまった時に読み返すことができるから、大事なことはメモをすることを心掛けた。これからも、普段の行動の中でメモをして、自分の行動を確かめていきたい。
- ・プレセカンドの前は、自分から挨拶ができなかった。でも、友達がたくさん挨拶していたので、自分もやってみた。自然と自分から挨拶をすることができるようになった。次は、「友達を見て」ではなく、「自分から」行動したい。
- ・挨拶の声がまだ小さいが、プレセカンドでは大きく挨拶できたので、これからも毎日元気に挨拶し、来年のセカンドスクールでも大きな声で挨拶したい。
- ・友達と協力をして、色々なことを成し遂げることができた。お互いに担当を決めて、声を掛け合いながら行動することができた。
- ・これまで親がいないところで泊まりをすることがなかった。プレセカンドは不安もあったが、時間を守ったり、先生の指示をよく聞いて行動したりしたことで、いつも通りの行動をすることができ、自立できたように思う。
- ・雨だからできないと思っていたぶどう狩りもできたように、チャレンジすることでできるようになることもあると学んだ。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

2泊3日の宿泊体験を通して、友達と協力することや集団生活でのルールやマナーを守ることの大切さを実感できた。特に率先して挨拶をすること、時間を守って行動することを意識させ、自分たちの良さとして実感させることで、自信をもたせることができた。また、一人一人が係を担当し、責任をもって活動することができた。式や会の挨拶や司会進行、入浴や食事の時間や部屋の整理整頓の言葉掛けなど、児童が率先して行動する場面を設け、来年度のセカンドスクールに自信をもって望めるように指導した。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・現地講師にガイドを依頼したことで、児童の興味関心を高めながら、様々な活動を行うことができた。また、今年度は3日間とも雨が降り、気温も大きく低下したことで、野外での活動が制限されてしまったが、現地ガイドの方のご配慮により、できる限りの活動を工夫して行うことができた。
- ・児童は初めて集団宿泊学習を経験し、「すすんで挨拶すること」や「時間を守って行動すること」などの集団生活の基礎・基本を学ぶことができた。今後の学校生活や来年度のセカンドスクールに向けて大きな成果があった。
- ・各学級に生活指導員を2名ずつ配置したことで、細やかな声かけや支援を行うこともでき、安全面の確保にも大いに役立った。
- ・今年度の事業評価（子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査）では、「生きる力」や「心理的・社会的能力」の大きな向上が見られた。集団宿泊生活を通して、集団生活でのルールやマナーを意識し、自分たちの成長や良さとして自信につながったことが読み取れる。また、自然についての多様性を理解するとともに、人との関わりについても学んだことで、「生きる力」について考える機会がもてた。

千川小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月3日～10月5日(2泊3日)

参加人数 男子32名 女子24名
計56名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山周辺の自然や人々の生活についての調べ学習を通して、自然と人との調和について理解を深め、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・自己の課題を解決するために、現地での学習を通して、情報を分かりやすく整理、分析してまとめる力を養う。
- ・集団生活を通して、集団生活の基礎を身に付けるとともに、互いのよさを生かしながら生活する態度を育む。
- ・現地の方々と関わる活動を通して、郷土の文化や働く人々の工夫、苦労を理解し、積極的に社会参画しようとする態度を育む。

○日程表

10月3日(月)		10月4日(火)		10月5日(水)	
7:40	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
		9:30	青木ヶ原樹海トレッキング	8:45	閉校式
10:45	紅葉台ハイキング	10:10	富岳風穴見学	9:40	菱山共選場見学
13:30	富士山世界遺産センター	11:15	ほうとう作り体験	11:00	ぶどう農家作業体験
14:40	宿舎到着・開校式	14:00	富士山科学研究所	13:00	昼食
16:00	河口湖畔散策				
17:30	夕食	17:30	夕食	15:00	学校到着
18:30	入浴	18:30	入浴	15:30	解散
19:30	学習の記録・はがき書き	19:30	学習の記録		
19:50	班長会議	19:50	班長会議		
20:00	検温、健康観察	20:00	検温、健康観察		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・学習者用コンピュータを活用し、山梨県の基本情報をつかむ（社会科の学習と関連付ける）。

- ・プレセカンドスクールのめあてを知るとともに、総合的な学習の時間「プレセカンドスクールで学ぼう」の学習計画を立てる（ゴール「3年生にプレセカンドスクールのよさを伝えよう」を設定した）。
- ・2泊3日の行動予定や活動内容、活動場所を知る。
- ・富士五湖、富士山周辺の文化や歴史、暮らし、産業などについてインターネットで検索したり図書資料を活用したりして情報収集を行う（中央図書館の学校連携事業を活用する）。その中から興味・関心のある事柄、現地で特に詳しく学習したい事柄を課題として設定し、さらに情報を集めた。
- ・しおり配付後、集団生活を通してどんな力を身に付けるのかを具体的に伝え、達成するために必要な5つの係活動を設け、係の仕事や生活班での宿での過ごし方についてなどを確認した。

2 事後の学習内容

- ・探究した課題についての事前学習と現地学習を学習者用コンピュータの Google スライドを使用してまとめた。スライド作成後、伝えたいことを整理し、発表原稿を作成した。発表練習を行い3年生に発表した。
- ・発表会についての振り返りと、単元の学習全体についての振り返りを行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 紅葉台ハイキング

1日目の紅葉台ハイキングでは、富士山周辺の自然を肌で感じ、草木や花などを観察しながら頂上を目指した。途中で見た間近に仰ぐ富士山の大きさに歓声をあげたり、友達と励ましの声を掛け合ったり、転んだ友達を助けたりする等、互いに助け合おうとする姿が多く見られた。三湖台では、西湖や青木ヶ原樹海を見下ろすことができ達成感を味わうとともに、富士山や河口湖の位置を確認することができた。

2 青木ヶ原樹海トレッキング・富岳風穴見学

2日目に、青木ヶ原樹海トレッキングを行い、富岳風穴を見学した。トレッキングは、行動班ごとに行い、自然の力で折れた木や浮いた根っこに自然の強さを感じた。また、溶岩や様々な植物、きのこなどを見付け、事前学習と関連付けながら、遊歩道を進んだ。富士山が生み出した様々な大きさの溶岩にとっても驚き、改めて富士山の歴史に興味をもった様子であった。

富岳風穴内では、想像以上に洞窟内の冷気を感じたり、氷が多く残っていたりすることに声があがった。昔は蚕のさなぎや植物の種などを保管する天然冷蔵庫として使用されていたことを、実際に体感した気温3度の寒さで納得した様子であった。自然の不思議さや、自然を生活に生かしてきた当時の人々の知恵に触れることができた。

3 富士山科学研究所

2日目に、「ふじさん自然教室」の2つのプログラムを受講した。そのうち、生態観察園ではフィールドビンゴを行った。現地の教育スタッフからレクチャーを受けた後、班ごとに協力しながら、「溶岩でできた大きな穴」「子どもの木」「森のエビフライ」「鳥の鳴き声」などヒントをもとに森の中で探し、ビンゴを完成させていくことを楽しんでいた。もう1つのプログラムでは、世界で一番大きな翼をもつ「アルソミトラ」の種の模型を工作し、飛行実験を通してその飛び方を観察した。2つのプログラムを通して、自然を観察する楽しさや、自然の多様性や生態系などについて学ぶことができた。

＜社会体験活動＞

1 共選場見学・農作業体験(ぶどうの収穫)

3日目に、菱山共選場で、農家で収穫されたぶどうを仕分ける様子を見学し、市場へ出荷する前の仕事について学んだ。ぶどうの品種や、色や形などで等級に違いがあることなどを実際に等級分けしている様子を目にしながら説明を受けることができた。

その後、ぶどうの生産農家やJAフルーツ山梨の方々の指導のもと、加工用の「甲州」の収穫作業を体験した。おいしいワインになるように変色した実を切り落としたり、ぶどうを入れたコンテナを運んだりすることを通して、仕事に携わっているという感覚をもつことができた。実際に農作業を体験することで、普段自分たちが食べているぶどうが多くの人の手間をかけなければならないということや、安全で美味しい農作物を育てる工夫や苦労を体感することができた。



【ぶどう農家体験】

＜生活・文化体験活動＞

1 ほうとう作り体験

2日目に、西湖公民館で、地元の方々に教わりながら山梨県の郷土食であるほうとう作りを体験した。ほうとうの麺作りでは、「小麦粉をこねる」「伸ばす」「大きな包丁で切る」の工程を全員が経験することで、美味しいほうとうを作るためにはどの工程も大切であることを実感することができた。自分で作ったほうとうの味は格別だった様子である。ほうとう作りを通して、山梨県の郷土料理について理解を深めた。



【ほうとう作り体験】

○児童の感想

- ・紅葉台ハイキングは、初めは簡単だと思っていたけれど、登ってみるととても疲れて、途中でやめたくまりました。でも、友達と声を掛け合うことで頑張ることができました。三湖台まで登って見えたきれいな景色に感動しました。
- ・ほうとう作り体験では、生地を薄く伸ばすことが難しかったです。でも友達と協力すること

でおいしいほうとうを作ることができました。地元の方ともふれあいながら作ることができてとても楽しかったです。

- ・共選場見学で、ぶどうの品種について聞いて、たくさんの種類があることを初めて知りました。同じ種類の中でも、大きさや色などで5段階の等級に分けられることも知ることができました。ぶどうを作る工夫が多くあることに気付きました。
- ・班長として最初はグループの友達に声を掛けられなかったけど、日に日にできるようになりました。自分がしっかりすればグループがまとまることを知りました。学んだことは学校生活でも生かせると思うので実践していきたいです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・1つの宿舎で集団生活を行ったことで、児童一人一人の様子を教員全員で見取り、支援することができた。そのため、児童も初めての宿泊行事に対して抵抗なく、安心して3日間を過ごすことができ、セカンドスクールへの自信にもつなげることができた。
- ・「協力し合う大切さ」について、協力することで活動に気持ちよく取り組めるだけでなく、楽しさを共有できることで、より多くの感動やよい経験を積むことができることを実感することができた。その経験をセカンドスクールでも生かしていく。
- ・自ら課題を追究しながら事前、現地、事後と学習を進めていく中で、学習課題の調べ方や、資料の表現方法などを学んだ。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・子どもたちの「生きる力」を測る事業評価では、全ての項目で事前アンケートよりポイントが向上した。プレセカンドスクールを通して、人への思いやりや協調性、課題解決に向けて取り組む姿勢等が向上したと考える。実際に、プレセカンドスクール後は、友達への思いやりのある声掛けや、時間を意識した行動ができるようになった。次年度のセカンドスクールに向けて、プレセカンドスクールで学んだことを日頃の生活に生かせるように指導していく。
- ・富士山世界遺産センターでは、ガイド付き館内見学のプログラムを組み込み、様々な内容を教えていただき充実した学習になった。
- ・事前学習では、自己の課題を明確にもつことで、意欲的に富士山や河口湖周辺の自然を調べる姿が多く見られた。
- ・富士山科学研究所で受講する2つのプログラムでは、学習に必要な情報を得ることができた。今年度は各プログラム40分だったため、次年度は50分に増やして学習を深める。
- ・ぶどう農家体験では、雨天が心配されたが何とか行程通りに実施することができた。雨天の場合には、公民館での座学を予定していたが、1時間半の時間の中で児童にとって学習を深められる内容にするためにはどのような内容だとよいかを事前に計画しておく必要がある。
- ・ほうとう作り体験では、事前に細かい打ち合わせができなかったのが、次年度は実地踏査の打ち合わせだけでは補えない細かいところまで、電話や当日に打ち合わせを行い、共通理解する必要がある。

井之頭小学校

東京都西多摩郡奥多摩町

10月5日～10月7日(2泊3日)

参加人数 男子37名 女子45名
計82名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・奥多摩町についての事前の調べ学習や、現地での豊かな自然に触れる体験活動を通して、自然についての理解を深め、自然を大切にしようとする態度を養う。
- ・奥多摩町と武蔵野市を比較し、奥多摩町の自然や文化の特徴について理解を深める。
- ・自己の課題について、調べたり体験したりしながら情報収集を行い、分かりやすくまとめる力を養う。
- ・友達や現地の方との関わりを通して、自己の視野を広げ、他者とよりよい人間関係を築こうとする態度を養う。
- ・集団生活や行動班での活動を通して、集団生活に必要な基礎的知識や技能を身に付ける。

○日程表

10月5日(水)		10月6日(木)		10月7日(金)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:00	出発	7:00	朝食	7:00	朝食・大掃除
10:00	奥多摩町文化会館着	9:40	水源林学習、ガイドウォーク	8:20	各宿出発
10:10	開校式	12:00	昼食	9:00	ふれあい農園着
10:40	学校交流 (古里・氷川小学校)		小河内ダム見学 水と緑のふれあい館見学	9:15	ワサビ田見学 沢の自然観察 鹿害の話 鹿角ストラップ作り
12:15	昼食	16:30	各宿着		
14:00	日原鍾乳洞 ビジターセンター見学	17:00	健康観察	11:30	昼食
16:30	健康観察	17:30	夕食	12:30	閉校式
17:30	夕食	18:45	星空観察(45分間)	13:00	奥多摩町出発
18:30	奥多摩民話	19:45	入浴	15:00	学校着
19:30	入浴	21:00	就寝、消灯	15:10	帰校式
21:00	就寝、消灯			15:25	解散

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間では、奥多摩町について調べ、地域の概要をとらえた後、各自の興味や関心に基づき学習課題を設定した。「歴史」「食べ物」「植物」「動物」など一人一人が課題を選択し、本やインターネットを活用して調べ学習を進めた。
- ・学校交流で武蔵野市について紹介するために、発表資料を学習者用コンピュータの Google スライドを用いてグループでまとめた。
- ・社会科「水はどこから」の単位では、水源林について学習し、ダムの役割や水源林の働きについて学び、小河内ダムの場所を地図で確認した。
- ・理科「星の明るさや色」の単元で星の位置や名称について学習した。星座早見盤の使い方を確認した。

2 事後の学習内容

- ・各学級で課題別の学習に取り組み、宿泊体験や自然体験、クラフト体験、学校交流などをテーマとして、プレセカンドスクールの思い出を振り返った。学習者用コンピュータの Google スライド等を使ってまとめた。
- ・12 月に 3 年生を対象に事後にまとめた Google スライド等を使って、プレセカンド体験発表会を行った。次年度にプレセカンドスクールを体験する 3 年生に奥多摩についての素晴らしさを伝えることができた。
- ・学校交流をした 2 校に一人一人がお礼の手紙を書いた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 日原鍾乳洞

奥多摩町の地形や地層の特徴を理解するために、鍾乳洞では、通路を見学した。様々な鍾乳石の様子を見ることで、数十万年以上の時間が積み重なって形成されたものであることを知った。児童は歴史が刻み込まれていることに驚き、神秘的な光景に感動するとともに、奥多摩町の地層や地形の特徴を知ることができた。



【日原鍾乳洞見学】

2 ガイドウォーク・水源林学習

奥多摩町の自然について理解するために、インストラクターと一緒に自然観察をしながら動物が食べた後の木の実や獣道などを探す活動を行った。生息する動植物についての理解を深めることができた。水源林学習では、実際に土に水を流し、しみこむ様子を熱心に観察し、水源林の仕組みや働きについての理解を深めた。

＜社会体験活動＞

1 奥多摩ビジターセンター

奥多摩地域の特色を理解するために、ビジターセンターの解説員の方に館内を案内していただき、見学した。解説員の話や展示物などから、奥多摩の動植物や季節の見どころなどを詳しく学ぶことができた。見学を通して、地形、位置関係、動植物など奥多摩地域の特色をつかんだ。

2 小河内ダム・水と緑のふれあい館

ダムの大きさを実感し、そのつくりや働きについて理解するために、見学を行った。小河内ダムの展望塔から迫力あるダムの姿を見ることができた。実際のダムを上から見学することで、ダムの大きさを実感した。展望塔の中には流域図やダムの歴史を紹介した展示コーナーがある。その造りや働きについて理解しようとする様子が見られた。水と緑のふれあい館では、奥多摩町の歴史や特徴、東京都の水源について知ることができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 地元の小学校との交流

学年を2つのグループに分け古里小学校・氷川小学校の児童と交流した。その中でお互いが自分たちの住んでいる地域の特徴やよさについての発表をした。奥多摩町と武蔵野市の違いや共通点、よさを知ることができた。レクリエーションでは、鬼ごっこや王様陣取りを行い、交流を深めることができた。



【学校交流】

2 奥多摩民話

奥多摩地域の文化に触れるために、奥多摩町に関する民話を聞いた。語り部の方が、「猿踊り」「井之頭池の弁天様」「熊をくすぐる」「西窪の天狗様」の民話を語ってくださった。集中して聞いている児童の様子も見られ、奥多摩は古い歴史が眠っている町であることを知るとともに、地域の文化について触れることができた。

○児童の感想

- ・家族と3日間離れて過ごすことで、自立について学びました。時間を守って、友達と生活することはとても難しかったです。少しでも遅れると周りの人たちに迷惑をかけることになるので、時間を守る大切さも学ぶことができました。
- ・奥多摩町と武蔵野市の違いや共通点を学ぶことができました。奥多摩町には山がたくさんあったけれど、武蔵野市にはありません。同じ東京都でもこんなに違うんだなと思いました。
- ・自然がたくさんある奥多摩、ビルや建物が多い武蔵野市で同じ東京都なのに、全然違うので、驚きました。

- ・奥多摩町だけで哺乳類の種類が 44 種類もあり、千葉県や神奈川県全体の動物の種類よりも多くてすごいなと思いました。
- ・集団生活は班の人との協力や迷惑を掛けないように行動することが大事だと思いました。この経験を生かして、学校でもみんなで協力し合い、いろいろなことに挑戦していきたいです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・調べ学習や自然に触れる体験活動を通して、自然についての理解を深めた。セカンドスクールでも、現地の自然と関わりながら体験活動を行うことで、より一層自然を大切にしようとする態度を育てていく。
- ・奥多摩町はどんなところか事前に調べ、自ら課題をもち、現地で調べたことや体験したことを分かりやすくまとめ、分かったことや学んだことを伝えるという学習を通して、一連の学習の流れを理解することができた。セカンドスクールでもこの流れをふまえ課題解決や情報活用をの力を一層高めていく。
- ・セカンドスクールと同様に民宿に分宿し、初めての宿泊を体験することで、自立の意識を高め、友達と協力して生活することの大切さを感じることができた。集団生活のルールを守り、互いに協力し合うことの大切さに気づき、集団生活に必要な基礎的知識や技能を身に付けることがセカンドスクールに向けての自信と意欲へつながると考える。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・宿泊は3年ぶりの実施であったため、事前に実地踏査をしっかりと行った。教員と奥多摩町の方と話し合いながら行程を決定し、実施したことでほぼ計画通り安全に進めることができた。
- ・実施した3日間はすべて雨であったため、十分な活動が難しかった。来年度は雨天の場合のプログラムを充実させていく必要があると考える。
- ・交流の方法について児童が主体的に考え準備をした。奥多摩町と武蔵野市のそれぞれのよさや違いを理解していた。学校交流のレクリエーションでは積極的に児童同士が関わることもできた。
- ・水源林学習では、グループごとにインストラクターの話を聞くことで、水源林の仕組みについて理解を深めることができた。
- ・様々な体験・見学活動を少人数で行った。そのため、じっくりと体験・見学を行うことができた。
- ・宿の規模に差があったため、児童を分けることが難しかった。来年度は現在の4年生よりも児童数が増えるため、観光協会の方と話し合い、宿の数を増やす必要がある。
- ・子どもたちの「生きる力」を測る事後アンケートでは、全体的に事前アンケートよりポイントがやや下がった。児童の実態として心理的・社会的能力の項目があまり高くなく、今まで漠然としていた自分像が集団生活を通して、今の自分自身についてより現実的に見つめ直すきっかけになったと考える。実際、アンケートに取り組んでいるときの姿は、事後のほうがより丁寧にじっくりと考えていた。

関前南小学校

静岡県島田市

9月14日～9月16日(2泊3日)

参加人数 男子39名 女子26名
計65名

○プレセカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力

- ・体験的な活動や地域の人の話から、動物や植物の生態についての理解を深める。
- ・体験的な活動や地域の人の話から、地形の様子や気候の特性についての理解を深める。
- ・事前学習で調べたことを発表したり、疑問点を質問したりすることができる。
- ・体験的な活動や地域の人の話から得た情報を整理して、新たな課題をもつことができる。
- ・地域の人たちをゲストティーチャーとして招き、感謝の気持ちをもって学ぼうとする。
- ・友達と協働的に学び、互いのよさを認め、多様性を尊重する態度を養う。

○日程表

11月17日(水)		11月18日(木)		11月19日(金)	
7:30	学校集合 出発式	6:30	起床、検温、洗顔	6:30	起床、検温、洗顔
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
		8:00	山の家出発	8:30	閉校式
12:00	蓬莱橋着	8:50	千頭駅着	9:00	島田市野外活動センター山の家発
12:15	昼食	9:13	千頭駅発	9:30	カドデオオイガワ
12:45	蓬莱橋見学		・南アルプスアプトライン体験乗車		・お茶ゾーン見学
	・牧之原大茶園フィールドワーク	10:08	長島ダム駅着 長島ダム見学		・お茶の淹れ方体験
14:00	牧之原大茶園発	10:50	バス乗車 長島ダム発	11:30	昼食
15:00	島田市野外活動センター山の家着	11:00	長島公園着	12:30	出発
15:10	開校式		昼食		
15:30	お茶の生産についての学習	11:30	散策	16:10	学校到着 帰校式
17:00	入浴・学習の振り返り	12:30	資料館やまびこ着・資料館やまびこ発	16:30	学校解散
18:30	夕食	13:45	島田市野外活動センター山の家着		
19:10	明日の準備	14:00	自然体験学習		
19:30	星の観察		・丸太切り体験 ・水生昆虫観察		
20:30	健康観察		体験学習終了		
21:00	就寝・消灯	17:00	入浴・学習の振り返り		
		18:30	夕食		
		19:10	明日の準備		
		19:30	星の観察		
		20:30	健康観察		
		21:00	就寝・消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間に、大井川流域の地形や気候、生活の様子などについて学習した。
- ・お茶、大井川鐵道、水生昆虫、つり橋、ダム等、自分が探究したいテーマを見付け、本やインターネットの調べ学習で課題解決の見通しをもつことができるようにした。
- ・地域の農家での茶摘み体験や、お茶のインストラクターを招いて製茶体験をした。
- ・千川上水で水生昆虫の調査をした。
- ・宿舎での係を決めたり、過ごし方について話し合ったりした。出発式や帰校式の役割分担をし、児童が主体的に進められるようにした。

2 事後の学習内容

- ・国語科で、プレセカンドスクールで学んだことや生かしたいことを作文にし、まとめた。
- ・総合的な学習の時間に「3年生にプレセカンドスクールについて伝えよう」をテーマにして、まとめの学習を行った。事前に調べたことや体験したことについて、学習者用コンピュータのスライド機能を使ってプレゼンテーションを行った。
- ・総合的な学習の時間に、武蔵野市を流れる千川上水に生物を増やす方法を考えた。

○特色ある体験内容

<自然体験活動>

1 林業体験

継続的に山を管理していくことの大切さを学ぶとともに、スギやヒノキやヒメシャラの特徴を教わりながら丸太切り体験を行った。



【丸太切り体験】

2 水生昆虫観察

河原で水生昆虫を採集して観察した。千川上水と河原の様子を比較しながら石の下の生き物を採集することにより、環境と生き物のくらしについて考えることができた。



【水生昆虫観察】

3 自然散策

資料館やまびこの館長さんに案内してもらいながら自然散策をし、途中にかかる木の橋や吊り橋を7箇所渡った。歩きながら自然豊かな川根本町の良さに気付くことができた。

<社会体験活動>

1 蓬莱橋渡り

風雨に耐えられるよう、できる限り釘を使わずに木を組み合わせて造られていることや、橋ができる以前は、人々が苦勞をしながら協力して川の向こうまで荷物を運んだこと、そして、川の両岸に広がる茶畑を往来するために、橋が重要な役割を担っていること等を学んだ。

2 牧之原大茶園フィールドワーク

大井川を見下ろす高台に広がる大茶園を歩いた。大茶園の開拓に尽力した人々の歴史や、防霜ファンを回すことで茶の新芽が傷まないように工夫していることなどを学んだ。



【工場の方の話を聞く】

3 製茶工場の方の話

茶農家が加工した荒茶を製茶する工程について、スライドや動画を見せていただきながら話を伺った。

4 大井川鐵道アプトライン体験乗車

機関車を連結する場面を見学したり、トンネルと鉄橋の多さや車窓から見える急峻な稜線を見たりしながら、アプトラインの仕組みや大井川上流部の地形を学んだ。

5 長島ダムの見学

ダムを見下ろす高台からダムの下まで徒歩で下り、ダムの下に架かるしぶき橋を渡ることにより、ダムの大きさを体験的に学んだ。また、ダムの放水の様子も見学し、1学期に社会科で学んだことを思い出しながら学習することができた。

<生活・文化体験活動>

1 お茶の淹れ方体験

カドデオオイガワでは、緑茶ツアーズで自らが茶葉となり、製茶される疑似体験を経験した。また、お茶の淹れ方についても体験的に学ぶことができた。同じ茶葉から、緑茶や紅茶、ほうじ茶が生産されることや、淹れ方で緑茶の色で、甘みと苦みの違いがでることを学習した。

2 カドデオオイガワの方々の話

カドデオオイガワは、2年前にできた新しい施設である。施設の開設に向けての人々の思いや、島田市の良さを伝えるために、大井川流域の緑茶や農産物を実際に販売したり、飲食したりできるようにするなどの取り組みや工夫がされていることを学んだ。

○児童の感想

- ・金谷製茶工場の方に話を聞いて、おいしいお茶を作るために、多くの人が関わっていることを知りました。
 - ・千川上水には水生昆虫を見付けることができなかったしゴミが多かったけれど、伊久美川にはたくさん水生昆虫がいたのでびっくりしました。絶滅危惧種の「アカザ」も捕まえました。
 - ・川の水がきれいでした。近くに田んぼや畑もあり、自然は循環しているんだなと思いました。
 - ・丸太切りはけっこう大変でした。自然を守るために、木を切ることも大切だと分かりました。
 - ・町を豊かにすることはたくさんの人たちの努力が必要なことが分かりました。
- なぜかという、島田市の人たちがお茶をもっと知ってもらうためにカドデオオイガワをつ

くっていたからです。ぼくも、武蔵野市を豊かにするための人々の努力を手伝いたいです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・初めての宿泊を伴う学習なので、自分の持ち物を管理することや集団生活の心構えについての指導に重点をおいた。
- ・一人一役にすることで、全児童が何らかの役割に責任をもって行う場を設定した。それぞれの役割を果たすことができるよう、準備から当日の実施に向けての指導を行った。
- ・ゲストティーチャーの方との交流を大切にし、挨拶や感謝の言葉が言えるよう指導した。
- ・指導員の先生方の指示を聞いて行動ができるよう指導した。
- ・体験したことを3年生に伝えるために、学習者用コンピュータを活用したスライド作成について指導した。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

○成果

- ・集団生活を通して、友達と協力して生活することや時間を意識して行動することなど、学校生活とは違った環境の中で学習することができた。
- ・蓬萊橋から大茶園に至るフィールドワークはJ Aおおいがわのゲストティーチャーの説明を受けながら、茶畑の規模を体験的に学ぶことができた。また、事前に関前地区の畑で茶摘み体験をしていたことも茶畑の広さを理解することにつながった。
- ・ゲストティーチャーとして招聘し、事前に武蔵野市の水生生物の観察を行った。大井川と千川上水に生息する生物の違い、及び、環境面の違いも比較しながら学習できた。
- ・丸太切り体験は、大井川森林組合の協力のもと実施することができた。
- ・事前にアプトラインの学習をしておいたので、風景を眺めるだけでなく、急こう配をラックレールと機関車の歯車で登っていることを実感できた。
- ・カドデオオイガワでは、製茶の工程を疑似体験し、製茶工場への理解を深められた。

●課題

- ・事前事後のアンケートの数値を見ると、全体的にポイントが低下している。考えられる要因として、これまでの学校生活及び、今回の体験活動を通して、児童が以前よりも客観的に物事を見たり考えたりできるようになってきたということが考えられる。発達段階としても、自分自身のことをより深く見つめるようになってくる時期でもある。

そのため、次年度は児童間での1日を通した振り返りの時間をもう少し増やすと良いと考える。児童が自分たちで1日を振り返る時間を意図的に取り、その日の中でできるようになったことや頑張ったことなどを考えさせ、実感させることが大切であると考えた。また、それらの成果に対して教員が価値付けをすることで、自己肯定感を高めていくことができるのではないかと考える。

桜野小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月8日～9月10日(2泊3日)

参加人数 男子78名 女子78名
計156名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山や山中湖周辺の自然に触れ、周辺の自然について理解を深める。
- ・富士山や山中湖周辺での活動を通して、人々や文化に触れ、自分たちの生活を支えてくれる人々や文化について理解を深める。
- ・プレセカンドスクールの活動を通して、進んで調べたり行動したりし、自分で課題を解決する力を身に付ける。
- ・宿舎での集団生活や行動班での活動を通して、友達と協力し合いながら、自主的に生活する力を身に付ける。

○日程表

9月8日(木)		9月9日(金)		9月10日(土)	
7:35	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
10:10	富士山トレッキング	9:05	宿舎発	8:15	大掃除
12:00	昼食	9:30	ネイチャーラリー	9:30	閉校式 宿舎発
15:00	宿舎着 開校式	11:50	宿舎前芝生広場 昼食	10:05	忍野村着
15:30	入浴		山中湖を車窓から見学	10:20	ほうとう作り体験
17:30	夕食	13:40	富士湧水の里水族館見学	11:35	昼食
19:00	探求学習のまとめ	15:30	宿舎着	12:45	忍野八海見学
20:00	係会議	16:00	入浴	13:25	忍野八海発
21:00	消灯	18:00	夕食	15:55	学校着 帰校式
		19:00	探求学習のまとめ		
		19:55	係会議		
		21:00	消灯		

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の単元「見つけよう、広げよう、富士山の自然から」で、富士山の自然に関する課題を設定し、調べ学習を行った。
- ・主なテーマとして、富士山の形成の過程や歴史、富士山の植物、富士山の動物などについて調べた。
- ・富士山ネイチャーガイドの田中さんに「富士山の自然」をテーマに Meet でライブ授業を行っていただき、富士山の自然の特徴について学んだ。その後、「もっと調べたいこと」をチームで話し合い、チームの大テーマ、個人の小テーマを決めた。設定したテーマについて、インターネットや図書資料を使って、事前に調べたことを画用紙（1枚目）にまとめた。

2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間の単元「見つけよう、広げよう、富士山の自然から」で、現地に行って調べたことや分かったことを、画用紙（2枚目）にまとめた。個人でまとめた画用紙2枚をチームで模造紙一枚に集約し、3年生に向けて発表するためにプレゼンテーションの練習を行った。その後、3年生に向けてチームごとに発表を行い、3年生は感想をカードに記入し、相互の交流を図った。また、作成した模造紙の成果物を、コミュニティーセンターに展示し、家庭や地域に活動の様子を発信した。

〇特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 富士山トレッキング

ネイチャーガイドの方々が、武蔵野市では見ることができない樹木や植物について、詳しく説明していた。児童が飽きることがないように、イラストを示すなど、工夫しながら説明していた。また、富士山の赤い山肌や眼下に広がる雲海に、児童は驚きを見せていた。森林限界を実際に見るなど、武蔵野市との違いを肌で感じることもできた。



【富士山5合目からのトレッキング】

2 ネイチャーラリー

グリーンヒルズニューみなみの第3グラウンドを利用して、富士山ネイチャークラブによるネイチャーラリーを行った。火起こし体験やロープ渡り、パチンコ鉄砲など、8つの自然体験活動を行った。活動はポイント制で行い、チームで成功体験を積むことで、よりよい集団形成のために何が大切なのか、ゲームを体験しながら学ぶことができた。



【火起こし体験】

<社会体験活動>

1 森の学習室

学芸員の方による施設の紹介を受けた後、各自で自由に自然のものを生かした展示を鑑賞した。本物の鹿の角や熊のはく製などが置いてあり、児童は強く興味を惹かれていた。実際に手に触れたり、匂いを嗅いだりできる展示物もあり、五感を使って富士山周辺の自然について学ぶことができた。



【富士山の自然について学ぶ様子】

2 富士湧水の里水族館

富士五湖や周辺の川に生息する魚を見たり、富士山周辺の自然や魚の生態について学んだりすることができた。富士山の湧水を使用した水槽は、透明度が高く、遠くにいる魚まで観察できた。見るだけでなく、富士山の湧水に手を入れたり、皮膚の角質を食べるドクターフィッシュと触れ合ったりする体験的な学習もすることができた。



【富士湧水の里水族館の水槽】

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

学級ごとに4つの民宿に分かれ、ほうとう作りを行った。宿の方に教えてもらいながら、小麦粉と水を混ぜ、こねて伸ばすなど、班員で協力しながら作った。昼食には、学級のみinnで作ったほうとう汁を食べた。自分たちで作ったほうとうの味は格別だったようで、普段の給食よりたくさん食べる姿が見られた。ほうとう作りを通して、山梨県の食文化や班で協力する大切さを学んだ。



【班員で協力して作っている様子】

2 忍野八海

ほうとう作りの後、学級ごとに忍野八海を見学した。ガイドの方から、池の名前の由来や歴史について、丁寧に説明を受け、児童は興味深く見学することができた。湧池では、水深が7mあることを知り、水の透明さを実感した。美しい水の中を泳ぐアユやマスを見て、児童からは歓声があがっていた。池の歴史や、自然の美しさについて、体験的に学ぶことができた。



【湧池を見学する様子】

○児童の感想

- ・バスガイドさんから昔から伝わる富士山の話聞いて、大切に守られてきたことを知りました。武蔵野市にも境富士という富士塚があると聞いたので、今度行ってみたいと思いました。
- ・風や雨の影響で木が倒れてしまっていたけれど、それでも頑張って生きている様子に、自然の力強さを感じました。
- ・普段あまりしたことがない火起こし体験やロープ渡りができて楽しかったです。チームで仲良くなれたのがうれしかったです。
- ・富士湧水の里水族館では、富士山の湧き水にさわることができて、冷たさに驚きました。
- ・ほうとうは、みんなで協力して作りました。すごく太い麺になっちゃったけど、食べたら、とてもおいしかったです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールに向けて「エール フォー オール！」を合言葉に一人一人が係を担当し、自分にできる「エール」は何なのか、よく考えながら活動することができるようにした。宿舎や見学先で、式や会の挨拶や司会進行、食事や入浴、部屋の整理整頓の声かけなど、児童が率先して行動する場面を設け、「学年全体でつくり上げるプレセカンドスクール」を実践した。セカンドスクールでは分宿での活動になるため、今回の集団生活での学びを生かしていく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

①日程及びプログラムの組み方について

宿舎グリーンヒルズニューみなみは、施設の規模が大きく、本校のような大規模校でも受け入れが可能である。しかし、別棟を利用している児童は本館への移動に時間がかかったり、飲用可能な水がなかったりした。別棟にいる児童たちを基準に、プログラムの時間設定を再検討する必要がある。

②活動内容について

宿舎グリーンヒルズニューみなみの第三グラウンドで、ネイチャーラリーを行った際にスズメバチの情報が入った。ハチ対策の道具を用意していなかったため前渡金を使って急ぎょ手配した。森林近くで行う活動の際は、スズメバチに刺された場合の対処方法を検討しておくようにする。

③児童の変容について（プレセカンドスクール事前・事後アンケート結果の分析から）

転出児童もいたため、合計の数値は全般的に数値が低下しているが、「心理的・社会的能力」は比較的高い数値だった。今年度はネイチャーラリーをポイント制にしてチームでトライ＆エラーの経験を積むことができるようにしたことで、よい学びになっていたように感じる。次年度も引き続き、この活動を取り入れていく。また、振り返りアンケートを行うときに、プレセカンドスクールでどのような学びがあったのかを言語化したり共有したりする時間を設定してから実施すると、児童がさらに自分たちの学びを自覚できるのではないかと考えた。

令和 5 年 3 月 発行

武蔵野市教育委員会

教育部指導課

〒 180-8777

東京都武蔵野市緑町 2 - 2 - 28

TEL 0422-60-1897

FAX 0422-51-9264

令和四年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施報告書

令和五年三月

武蔵野市教育委員会